

FLORA bd500

HITACHI
Inspire the Next

ユ ー ザ ー ズ ガ イ ド

500X7

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。

このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

2009年4月(初版)(廃版)
2010年10月(第5版)

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部または全部を、無断で転載または引用することを禁止します。
- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本製品を運用した結果については責任を負いません。なお、保証と責任については保証書裏面の「保証規定」をお読みください。

FLORA bd500 の信頼性について

ご購入いただきました FLORA bd500（以下、FLORA bd）は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は意図されていませんし、保証もされません。このような高信頼性を要求される用途へは使用しないでください。高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用 FLORA bd が不適当な、高信頼性を必要とする用途例
・化学プラント制御・医療機器制御・緊急連絡制御など

規制・対策などについて

□ 電波障害自主規制について

本製品は、クラス A 情報技術装置です。本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

□ 電源の瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

□ 高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品について

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第 3-2 部：限度値—高調波電流発生限度値（1 相当りの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

□ 雑音耐力について

本製品の外来電磁波に対する耐力は、国際電気標準会議規格 IEC61000-4-3「放射無線周波電磁界イミュニティ試験」のレベル 2 に相当する規定に合致していることを確認しております。なお、レベル 2 とは、対象となる装置に近づけないで使用されている低出力の携帯型トランシーバから受ける程度の電磁環境です。

□ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。

この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。

なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。

□ 海外での使用について

本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。

なお、他国には各々の国で必要となる法律、規格などが定められており、本製品は適合していません。

□ FLORA bd の廃棄について

事業者が廃棄する場合、廃棄物管理表（マニフェスト）の発行が義務づけられています。詳しくは、各都道府県産業廃棄物協会にお問い合わせください。廃棄物管理表は（社）全国産業廃棄物連合会に用意されています。

なお、弊社では事業者の使用済み FLORA bd の回収リサイクルサービスを行っています。詳細については「FLORA bd の廃棄についてのお問い合わせ」[P.vii](#)をご参照ください。

個人が廃棄する場合、お買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。

また、FLORA bd のクライアントモジュール、コントロールボックスモジュールに入っている電池を廃棄する場合もお買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。

登録商標・商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Intel、Celeron および Core は、Intel Corporation の登録商標または商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Symantec Ghost は、Symantec Corporation の商標です。

i-フィルターは、デジタルアーツ株式会社の登録商標です。

その他、各製品名、各会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

© Hitachi, Ltd. 2009, 2010. All rights reserved.

はじめに





このたびは日立の FLORA bd500（以下、FLORA bd）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このマニュアルは、クライアントモジュールを内蔵した FLORA bd の設置と接続や取り扱いの注意など、使用するために必要な事柄について記載しています。

マニュアルの表記

□ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
 制限	システム装置の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	システム装置を活用するためのアドバイスを示します。

□ オペレーティングシステム（OS）の略称について

このマニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows Vista® Business Blade PC Edition（1RDL Version）
（以下 Windows Vista または Windows）
- Microsoft® Windows® 7 Professional（以下 Windows 7 または Windows）

サポート & サービスのご案内

納入時の欠品について

納入時に、現地調整員が納品物の確認を行います。
調整作業を伴わない時や現地調整員が伺わない時に、欠品や納品内容にご不明な点などが発生した場合には、お買い求め先にご連絡ください。

困ったときは

- 1 マニュアルをご参照ください。
『ユーザーズガイド』（本書）の「8 困ったときには」P.127をご参照ください。
製品同梱のほかの紙マニュアルもご利用ください。
- 2 最新情報を Web サイトで入手ください。
 - ◆ ホームページアドレス：
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/product/cb/index.html>最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェア アップデートプログラムなどを提供することがあります。この場合、上記 Web サイトでご案内します。
各アップデートプログラムの適用についてはお客様責任にて実施していただきますが、FLORA bd を安全にご使用いただくためにも定期的にアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新いただくことをお奨めします。
- 3 電話でお問い合わせください。
障害の状態によっては、障害原因が特定できない場合があります。あらかじめご了承ください。
 - 販売会社からご購入いただいた場合
販売会社へ修理の窓口をご確認ください。販売会社で修理することがあります。
 - 上記以外の場合
次のお問い合わせ先に、お問い合わせください。

□ お問い合わせ先

- FLORA bd の操作や使いこなしについてのお問い合わせ
HITAC カスタマ・アンサ・センタ（HCA センタ）にお問い合わせください。技術的なお問い合わせについて回答します。ただし、各言語によるユーザプログラムの技術支援は除きます。

■ HITAC カスタマ・アンサ・センタ
TEL: 0120-2580-91（フリーダイヤル）
受付時間：月曜日～金曜日 9:00～12:00、13:00～17:00
*土、日、祝日、年末年始・夏季休暇などの弊社指定休日は休ませていただきます。
*電話での対応は国内に限らせていただきます。

- 故障についてのお問い合わせ
トラブルが発生した場合は、「[8 困ったときには](#)」P.127 をご確認ください。故障と判断される場合は、日立コールセンタまたはご購入先にお問い合わせください。

■ 日立コールセンタ
TEL: 0120-921-789（フリーコール）
受付時間：9:00～18:00（平日）
*土、日、祝日、年末年始・夏季休暇などの弊社指定休日は休ませていただきます。
*電話での対応は国内に限らせていただきます。

- FLORA bd の廃棄についてのお問い合わせ
弊社では、事業者（法人所有）の使用済み FLORA bd の回収リサイクルサービスを行っています。詳細については、日立リサイクルホットラインにお問い合わせください。

■ 日立リサイクルホットライン
TEL: 0120-12-5006（フリーダイヤル、携帯電話、PHS からも可）
受付時間：月曜日～金曜日 9:30～17:00（土・日・祝日、および弊社休業日を除く）
メールアドレス：e-kankyo@ml.itg.hitachi.co.jp
ホームページアドレス：<http://www.hitachi.co.jp/pc-recycle>
*電話での対応は国内に限らせていただきます。

- Windows のお問い合わせについて
インストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償となります。詳細は、次で紹介しています。

■ Windows のお問い合わせ
メールアドレス：supportservice-soft@itg.hitachi.co.jp
ホームページアドレス：<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/service/index.html>

システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、システム装置はオフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのシステム装置の中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのシステム装置を譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」処理を行う
- 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化（フォーマット）する
- 付属のリカバリー DVD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっている状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っている状態です。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このシステム装置のハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

システム装置ユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスクを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、データを読めなくすることを推奨します。

ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくシステム装置を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

なお、この段落の「システム装置」とは、FLORA bd のクライアントモジュールに相当します。

弊社では、HDD データ消去ユーティリティ『CLEAR-DA』を用意しています。

詳しくは、弊社担当営業にお問い合わせください。

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージにしたがってください。



これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。



【表記例 1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

なお、⊘の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

なお、❗は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- 本製品に搭載または接続するオプションなど、ほかの製品に添付されているマニュアルも参照し、記載されている注意事項を必ず守ってください。

これを怠ると、人身上の傷害やシステムを含む財産の損害を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作にあたっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

一般的な安全上の注意事項

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



電源コードの取り扱い

電源コードは指定のオプション品を使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したり、ショートや一部断線で過熱して、感電や火災の原因となります。

- 物を載せない
- 引っ張らない
- 押し付けない
- 折り曲げない
- ねじらない
- 加工しない
- 熱器具のそばで使用しない
- 加熱しない
- 束ねない
- ステップルなどで固定しない
- コードに傷がついた状態で使用しない
- 紫外線や強い可視光線を連続して当てない
- アルカリ、酸、油脂、湿気へ接触させない
- 高温環境で使用しない
- 定格以上で使用しない
- ほかの装置で使用しない
- 電源プラグを持たずにコンセントの抜き差しをしない
- 電源プラグを濡れた手で触らない

なお、電源プラグはすぐに抜けるよう、コンセントの周りには物を置かないでください。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因となるとともに、電力使用量オーバーでブレーカが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- 電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。
- グラグラしないコンセントをご使用ください。
- コンセントの工事は、専門知識を持った技術者が行ってください。



電池の取り扱い

電池の交換は保守員が行います。交換は行わないでください。また、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火などでけがの原因となります。

- 充電しない
- ショートしない
- 分解しない
- 加熱しない
- 変形しない
- 焼却しない
- 水に濡らさない
- 指定以外の電池を使用しない
- 寿命を超えて使用しない



修理・改造・分解

本マニュアルに記載のない限り、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけど、けがの原因となります。特に電源モジュール内部は高電圧部が数多くあり、万一さわると危険です。

安全にお使いいただくために (続き)



レーザー光

DVD-ROM ドライブなどレーザーデバイスの内部にはレーザー光を発生する部分があります。分解・改造をしないでください。また、内部をのぞきこんだりしないでください。レーザー光により視力低下や失明のおそれがあります。

(レーザー光は目に見えません。)



梱包用ポリ袋

装置の梱包用エアークャップなどのポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると窒息するおそれがあります。



電源コンセントの取り扱い

- 電源コンセントは使用する電圧に对应し、指定のコードに合わせた電源コンセントをご使用ください。その他のコンセントを使用すると感電や火災の原因となります。

→「[コンセントについて](#)」P.6

- コンセントの接地極は、感電防止のために、アース線を専門の電気技術者が施工したアース端子に接続してください。接続しないと、万一電源の故障時などに感電するおそれがあります。



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、クライアントブレードシステムとしての用途以外に FLORA bd を利用しないでください。壊れたり倒れたりし、けがや故障の原因となります。



信号ケーブル

- ケーブルは足などをひっかけたり、ひっぱたりしないように配線してください。ひっかけたり、ひっぱったりするとけがや接続機器の故障の原因となります。また、データ消失のおそれがあります。

- ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因となります。



装置上に物を置く

FLORA bd の上には周辺機器や物を置かないでください。周辺機器や物がすべり落ちてけがの原因となります。また、置いた物の荷重によっては FLORA bd の故障の原因となります。



ラックキャビネット搭載時の取り扱い

ラックキャビネット搭載時、装置上面の空きエリアを棚または作業空間として使用しないでください。装置上面の空きエリアに重量物を置くと、落下によるけがの原因となります。



眼精疲労

ディスプレイを見る環境は 300 ~ 1000 ルクス明るさにしてください。また、ディスプレイを見続ける作業をするときは 1 時間に 10 分から 15 分程度の休息をとってください。長時間ディスプレイを見続けると眼に疲労が蓄積され、視力の低下を招くおそれがあります。

装置の損害を防ぐための注意



装置使用環境の確認

装置の使用環境は「[設置環境](#)」P.3 に示す条件を満足してください。たとえば、温度条件を超える高温状態で使用すると、内部の温度が上昇し装置の故障の原因となります。



使用する電源

使用できる電源は AC100V または AC200V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさにしたがって内部が破損したり過熱・劣化して、装置の故障の原因となります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると装置の故障の原因となります。

すぐに電源を入れたりせず、使用する場所で数時間そのまま放置し、室温と装置内温度がほぼ同じに安定してからご使用ください。たとえば、5℃の環境から25℃の環境に持ち込む場合、2時間ほど放置してください。



通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙や故障の原因となります。また、通気孔は常にほこりが付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。
→「[クリーニングについて](#)」P.141



装置内部への異物の混入

装置内部への異物の混入を防ぐため、次のことに注意してください。異物によるショートや異物のたい積による内部温度上昇が生じ、装置の故障の原因となります。

- 通気孔などから異物を中に入れない
- 花ピン、植木鉢などの水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属類を装置の上や周辺に置かない
- 装置のカバーを外した状態で使用しない



強い磁気の発生体

磁石やスピーカなどの強い磁気を発生するものを近づけないでください。装置の故障の原因となります。



落下などによる衝撃

落下させたりぶつけるなど、過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、装置の故障の原因となります。



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしてショートさせないでください。発煙したり接触不良による故障の原因となります。



煙霧状の液体

煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどで FLORA bd を完全に包んでください。FLORA bd 内部に入り込むと故障の原因となります。また、このとき FLORA bd の電源は切ってください。



装置の輸送

FLORA bd を輸送する場合、常に梱包を行ってください。また、梱包する向きに注意してください。梱包しなかったり、間違った向きで輸送すると、装置の故障の原因となります。

なお、工場出荷時の梱包材の再利用は1回のみ可能です。



サポート製品の使用

流通商品のハードウェア・ソフトウェア（他社から購入される Windows も含む）を使用された場合、FLORA bd が正常に動作しなくなったり故障したりすることがあります。

この場合の修理対応は有償となります。FLORA bd の安定稼働のためにも、サポートしている製品をご使用ください。

安全にお使いいただくために（続き）



バックアップ

ハードディスク装置のデータなどの重要な内容は、外部記憶装置（NAS など）にバックアップを取ってください。ハードディスク装置が壊れると、データなどをすべ消失しています。

詳細は「[データのバックアップ](#)」P.10 をご参照ください。



電源障害時の電源コードの扱い

障害が発生した電源モジュール以外の電源コードを抜くとクライアントモジュールの電源が切れてしまい、データを消失するおそれがあります。障害が発生した電源モジュール以外の電源コードを抜かないでください。



障害発生時のモジュール交換

エラーが発生したモジュールの交換はすべて保守員が行います。交換作業は行わないでください。誤った交換手順により、FLORA bd の故障やデータ消失のおそれがあります。

本マニュアル内の警告表示

⚠ 警告

本マニュアル内にはありません。

⚠ 注意

ラック搭載

FLORA bd のラックキャビネットへの搭載・取り外しはすべて保守員が行います。搭載・取り外しは行わないでください。取り付け不備により FLORA bd が落下し、けがをしたり装置の故障の原因となります。

【関連ページ】 → P.22

不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや装置の故障の原因となります。

【関連ページ】 → P.22

重量物の取り扱い

- 装置などの重量物を移動したり持ち上げたりする場合は、リフターを使用し 2 人以上で作業してください。リフターがない場合には、クライアントモジュールおよび背面の各モジュールをいったんすべて取り出し、重量を軽くしてから 2 人以上でベースユニットを移動してください。腕や腰を痛める原因となります。

各モジュールをいったん取り出した場合、ベースユニットの移動後、忘れずに各モジュールを取り付けてください。

- ラックキャビネットの 31U 以上に装置を取り付けたり取り外したりする場合は、リフターを使用してください。装置の落下により、けがや装置の故障の原因となります。

【関連ページ】 → P.22

ラックマウントキット

純正品以外のラックマウントキットを使用したり、ラックマウントキットを用いずにラックキャビネットに収納したりした状態では使用しないでください。FLORA bd の落下によるけがや装置の故障の原因となります。

【関連ページ】 → P.22

ダミーモジュール

ダミーモジュールを取り外した状態では使用しないでください。ダミーモジュールがない状態で動作中に空きスロットへ手を入れると、感電やけがの原因となります。また、冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。

【関連ページ】 → P.22、P.41、P.44、P.51、P.55

周辺機器や内蔵オプションの増設や接続

周辺機器や内蔵オプションを増設・接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を FLORA bd から抜いてください。感電や FLORA bd の故障の原因となります。

また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・内蔵オプション・ケーブル・電源コードをご使用ください。それ以外のもを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器・内蔵オプションや FLORA bd の故障の原因となります。

【関連ページ】 → P.25、P.51、P.55

金属など端面への接触

装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。綿手袋がない場合は十分注意して触れてください。

【関連ページ】 → P.41、P.44、P.47、P.51、P.55

装置内部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。装置内部品の追加・交換は約 10 分、時間を置いてから行ってください。やけどの原因となります。

【関連ページ】 → P.47、P.51、P.55

注意

電源モジュールベイ

電源モジュールの増設・交換時、手や工具を電源モジュールベイ内部に差し入れないでください。電源モジュールベイ内部には導体が露出した部分があり、万一手や工具などで触れると感電や装置の故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.55](#)

通知

クライアントモジュールの修理

クライアントモジュールの修理により、ハードディスク内のプログラムやデータ、各種設定内容が消失することがあります。修理を依頼されるときは、事前にバックアップをお取りください。

『関連ページ』 → [P.7](#)

FLORA bd の設置の向き

FLORA bd は正しく設置した状態でご使用ください。縦向きに設置したり、上下を逆に設置したりしないでください。FLORA bd が正常に動作しなかったり、故障したりする原因となります。

『関連ページ』 → [P.22](#)

USB デバイスの取り扱い

- オプション設定された機器以外の USB 機器は、接続しないでください。正常に動作しなかったり故障したりするおそれがあります。
- USB ケーブルは接続構成例のとおり接続してください。構成例とは異なるコネクタ色と USB 機器の組み合わせでは、正常に動作しなかったり故障したりするおそれがあります。

『関連ページ』 → [P.25](#)

電源操作

- 電源操作は決められた手順にしたがって行ってください。決められた手順にしたがわずに電源を入れたり切ったりすると、クライアントモジュールの故障やデータの消失の原因となります。
- 電源スイッチは、添付のスイッチピンを使用して、ゆっくり押してください。添付以外のものを使用したり乱暴に行ったりすると、クライアントモジュールの故障の原因となります。
- シャットダウン処理を行う必要がある OS をご使用の場合、シャットダウン処理が終了してから電源を切ってください。データを消失するおそれがあります。なお、OS により電源を切る手順が異なりますので、OS に添付されるマニュアルもあわせてご参照ください。

『関連ページ』 → [P.35](#)、[P.36](#)、[P.36](#)

通知

クライアントモジュールの取り扱い

- クライアントモジュールやメモリーボードを取り扱う場合は、金属製のドアノブなどに触れて静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないで電子部品に触れると装置の故障の原因となります。
- クライアントモジュールに搭載されたハードディスクは精密機械です。振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、クライアントモジュールを移設するときは電源を切り、30秒以上待ってからクライアントモジュールを取り外してください。取り扱いを誤ると、ハードディスク故障の原因となります。
- クライアントモジュールは、スロット奥側にあるCPU ヒートシンク側に重心が集中しています。レバーだけを持って引き抜くとクライアントモジュールが落下し、破損するおそれがあります。レバーを持って半分ほど引き出したあと、クライアントモジュールの中央部下側を支えながら引き抜いてください。

『関連ページ』 → [P.41](#)、[P.44](#)、[P.45](#)、[P.47](#)

クライアントモジュールの増設・移設

- クライアントモジュールを FLORA bd ベースユニットが通電された状態で増設や移設する場合、搭載されているほかのクライアントモジュールに振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、動作しているクライアントモジュールを誤って取り外さないようご注意ください。クライアントモジュールの故障やデータ消失の原因となります。
- クライアントモジュールの移設などでクライアントモジュールを取り外す際は、別のクライアントモジュールまたはダミーモジュールを取り付けてください。冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.41](#)、[P.44](#)、[P.47](#)

ハードディスクパスワード

ハードディスクパスワードを設定してパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスク内のデータを復旧することができず、データを消失します。パスワードは忘れないよう十分ご注意ください。

『関連ページ』 → [P.84](#)、[P.89](#)

クリーニング

- FLORA bd のクリーニングは、電源を切り、すべての電源コードを抜いた状態で行ってください。FLORA bd の故障の原因となります。
- 水などを FLORA bd につけないでください。また、水分を含んだ布などで拭かないでください。どちらも故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.141](#)

アルミ電解コンデンサについて

有寿命部品にはアルミ電解コンデンサを使用しているものがあります。

アルミ電解コンデンサは寿命があり、寿命を超えて使用すると電解液の漏れまたは枯渇により発煙や異臭の原因となることがあります。

これらの危険を避けるために、有寿命部品について、設計寿命を超える場合には交換してください。

なお、交換作業については保守員にご依頼ください。

『関連ページ』 → [P.142](#)


安全にお使いいただくために (続き)

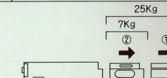
警告ラベルについて

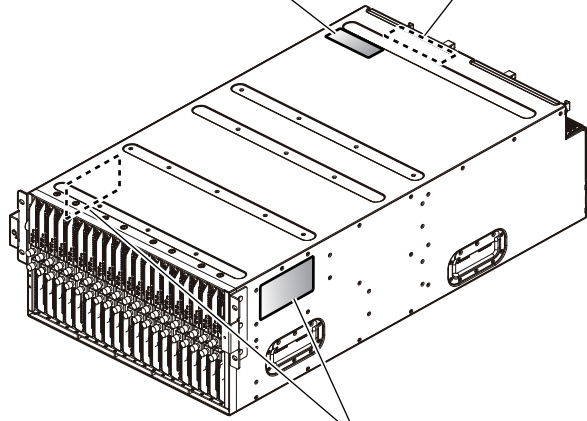
警告ラベルは次に示す箇所に貼り付けられています。

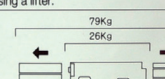
FLORA bd を取り扱う前に、警告ラベルが貼り付けられていること、および警告ラベルの内容をご確認ください。もし警告ラベルが貼り付けられていなかったり、はがれやすくなったりで読みづらかったりする場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
また、警告ラベルは汚したりはがしたりしないでください。

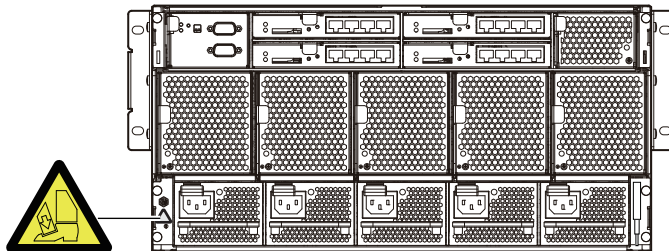
■ FLORA bd ベースユニット

⚠ 警告	⚠ WARNING	⚠ 경고
 <p>感電注意 本装置には複数の入力電源が供給されています。装置を分解すると感電などの事故の原因となります。保守員以外の方は装置を分解しないでください。保守作業の前に全ての電源コードを抜くこと。</p>	<p>Electric Shock Do not disassemble the equipment to avoid any risk of electric shock. The equipment is power-supplied by multiple power sources. Refer servicing to qualified personnel only. Disconnect all power supply cords before servicing.</p>	<p>감전주의 본 장비에는 복수의 입력전원이 공급되고 있습니다. 장비를 분해하면 감전사고 등의 원인이 됩니다. 전문 유지보수 담당자 이외는 장비를 분해하지 마십시오. 보수작업 전에 모든 전원 케이블을 장비에서 빼주십시오.</p>

⚠ 注意	⚠ CAUTION	⚠ 주의
<p>重量物注意 質量: 25kg (空筐体: 7kg) 腕や腰を痛める原因と なります。 交換時、搭載モジュールを 全て取り外し、作業のこと。</p>	<p>Heavy Load Weight: 25kg (Empty chassis: 7kg) Lifting this equipment may cause your arms and back pain. When replacing this equipment, make sure to remove all modules.</p>	<p>중량물 주의 질량: 25kg (채시: 7kg) 팔과 허리를 다칠 수 있습니다. 교환 시에는 탑재되어 있는 모듈을 모두 제거한 후, 작업할 것 또는 리프트로 작업할 것.</p>
		



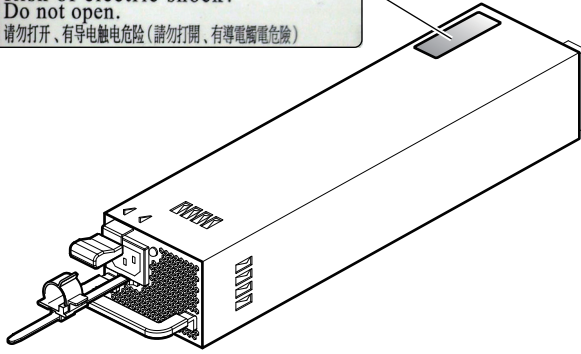
⚠ 注意	⚠ CAUTION	⚠ 주의
<p>重量物注意 質量: 79kg (空筐体: 26kg) 腕や腰を痛める原因と なります。 交換時搭載モジュールを全て取り 外し、2人以上での作業のこと。 またはリフトによる作業のこと。</p>	<p>Heavy Load Weight: 79kg (Empty chassis: 26kg) Lifting this equipment may cause your arms and back pain. When replacing this equipment, make sure to remove all modules and to get the replacement done by at least two men or using a lifter.</p>	<p>중량물 주의 질량: 79kg (채시: 26kg) 팔과 허리를 다칠 수 있습니다. 교환 시에는 탑재되어 있는 모듈을 모두 제거한 후, 2인 이상이 작업할 것 또는 리프트로 작업할 것.</p>
		



このラベルは次の注意を意味します。
「装置は重量物のため、取り扱いに注意してください。」

安全にお使いいただくために（続き）

■ 電源モジュール



マニュアルの使いかた

ここでは添付されるマニュアルについて説明します。

マニュアルの内容

『ユーザーズガイド』、『ソフトウェアガイド』の項目と内容は次のとおりです。網かけの項目は必ずお読みください。その他の項目は必要に応じてお読みください。

□ ユーザーズガイド

項目	内容
サービス&サポートのご案内	困ったときの対処方法などについて説明しています。
安全にお使いいただくために	FLORA bdの安全に関する注意事項について説明しています。
マニュアルの使いかた	FLORA bdに添付されるマニュアルの使いかたを説明しています。
1 お使いになる前に	FLORA bdの概要や取り扱い上の注意について説明しています。
2 FLORA bd各部の名称	FLORA bdの各部の名称と機能を説明しています。
3 FLORA bdの接続と電源の入れかた	FLORA bdを設置して、周辺機器を接続する方法を説明しています。電源の入れかたと切りかたについても説明しています。
4 FLORA bd内蔵オプションの増設	FLORA bdにクライアントモジュールやオプションの内蔵機器を取り付ける方法を説明しています。
5 BIOSの設定	BIOSの設定について説明しています。
6 コントロールボックスモジュールの設定	コントロールボックスモジュールの設定について説明しています。
7 内蔵LANスイッチモジュールの設定	内蔵LANスイッチモジュールの初期導入時の操作について説明しています。
8 困ったときには	FLORA bdが正常に作動しないときの対処方法を説明しています。
9 お手入れと交換品	FLORA bdのクリーニング方法を説明しています。交換が必要となる部品について説明しています。
10 付録	FLORA bdの技術的な情報などを記載しています。

□ ソフトウェアガイド

項目	内容
サービス&サポートのご案内	困ったときの対処方法などについて説明しています。
1 クライアントモジュールをはじめて使うときは	クライアントモジュールにはじめて電源を入れたときの対処や、電源の入り切りについて説明します。
2 システムの運用と管理	OS がはじめて起動したあとに、システム運用の設定が必要です。ネットワークの設定などについて説明します。
3 ご購入時の状態に戻すには	クライアントモジュールを、ご購入時の状態に戻す方法を説明しています。
4 付属ソフトウェアについて	未セットアップのソフトウェアや、個別セットアップする場合などに、ご参照ください。

目次

重要なお知らせ	iii
FLORA bd500 の信頼性について	iii
規制・対策などについて	iii
登録商標・商標について	iv
著作権について	iv
はじめに	v
マニュアルの表記	v
サポート & サービスのご案内	vi
納入時の欠品について	vi
困ったときは	vi
システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意	viii
安全にお使いいただくために	ix
一般的な安全上の注意事項	x
装置の損害を防ぐための注意	xii
本マニュアル内の警告表示	xiv
警告ラベルについて	xvii
マニュアルの使いかた	xix
マニュアルの内容	xix
目次	xxi
1 お使いになる前に	1
FLORA bd の概要	2
ネットワーク構成例	2
設置環境	3
制限事項	4
FLORA bd・周辺機器の使用環境	4
FLORA bd・周辺機器の取り扱い	4
FLORA bd ベースユニット / クライアントモジュールの組み合わせ	5
コンセントについて	6
サポートサービス	7
サポートサービスについて	7
サポートサービスの種類	8
製品保証について	8
サポートサービス期間について	8
有償サポートについて	9

トラブルを避けるために	10
データのバックアップ	10
コンピューターウイルスの予防について	10
2 FLORA bd 各部の名称	11
各部の名称と機能	12
FLORA bd ベースユニット	12
クライアントモジュール	14
コントロールボックスモジュール	16
内蔵 LAN スイッチモジュール	17
システム冷却ファンモジュール	19
LAN スイッチ冷却ファンモジュール	19
電源モジュール	20
3 FLORA bd の接続と電源の入れかた	21
FLORA bd の設置	22
FLORA bd のモジュール搭載	24
FLORA bd の接続	25
ディスプレイ・キーボードなどの接続	25
LAN ケーブルの接続	29
電源コードの接続	31
電源を入れる・切る	35
電源を入れる	35
電源を切る	36
4 FLORA bd 内蔵オプションの増設	39
クライアントモジュールを取り付ける	40
クライアントモジュールについて	40
取り付け位置	40
クライアントモジュールの取り付け手順	41
クライアントモジュールの取り外し手順	44
メモリーボードを取り付ける	46
メモリーボードについて	46
取り付け位置	46
メモリーボードの取り付け手順	47
メモリー 4GB 搭載時に使用可能な容量について	49
内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付ける	50
内蔵 LAN スイッチモジュールについて	50
取り付け位置	50
内蔵 LAN スイッチモジュールの取り付け手順	51

電源モジュールを取り付ける	54
電源モジュールについて	54
取り付け位置	54
電源モジュールの取り付け手順	55
5 BIOS の設定	59
セットアップメニュー	60
セットアップメニューの起動・終了	60
セットアップメニューのキー操作	61
セットアップメニューの内容	61
セットアップメニューの構成	63
セットアップメニューの画面について	64
セットアップメニューの設定項目	65
起動時のブートデバイスの設定	83
パスワードで保護する	84
設定できるパスワード	84
セットアップメニューパスワードの設定方法	87
ハードディスクパスワードの設定方法	89
BIOS の設定値について	91
BIOS 設定値一覧	91
6 コントロールボックスモジュールの設定	95
コントロールボックスモジュール設定の概要と準備	96
設定・表示できる内容	96
セットアップ端末の接続	97
コンソール操作の概要	98
ログイン	98
コマンドの説明	99
基本操作	99
7 内蔵 LAN スイッチモジュールの設定	109
ご使用上の注意事項	110
クライアントモジュールとの接続形態	111
内蔵 LAN スイッチモジュールのポート設定	111
クライアントモジュールと内部ポートの接続	112
セットアップ端末の接続	113
LAN 接続の場合	113
シリアル接続の場合	114

コマンド入力モードの概要	116
コマンド入力モードの種類	116
運用コマンド（一般ユーザ）モード	116
運用コマンド（装置管理者）モード	117
コンフィグレーションコマンドモード	117
初期導入時の操作の概要	118
初期導入時に必要な操作	118
ログイン	118
装置管理者のパスワードの設定	119
ユーザ ID の追加と「operator」の削除	119
モジュール情報のバックアップとリストア	121
バックアップ情報について	121
バックアップ / リストアの実施例	121
設定の初期化	124
初期化手順	124
8 困ったときには	127
こんな状態のときは	128
クライアントモジュールの不具合	128
コントロールボックスモジュールの不具合	131
内蔵 LAN スイッチモジュールの不具合	132
システム冷却ファンモジュールの不具合	133
LAN スイッチ冷却ファンモジュールの不具合	133
電源モジュールの不具合	134
クライアントモジュールの STATUS ランプが赤点滅	134
クライアントモジュール起動時のエラー	137
エラーメッセージが表示される場合	137
9 お手入れと交換品	139
日常のお手入れ項目	140
クリーニングについて	141
FLORA bd	141
有寿命部品	142

10 付録	143
FLORA bd の仕様	144
FLORA bd ベースユニットの仕様	144
クライアントモジュールの仕様	145
コントロールボックスモジュール	149
内蔵 LAN スイッチモジュール	149
システム冷却ファンモジュール	150
LAN スイッチ冷却ファンモジュール	150
電源モジュール	150
オプション一覧	151
索引	154

1

お使いになる前に

この章では、FLORA bd の概要や設置前に知っておいていただきたい内容について説明します。

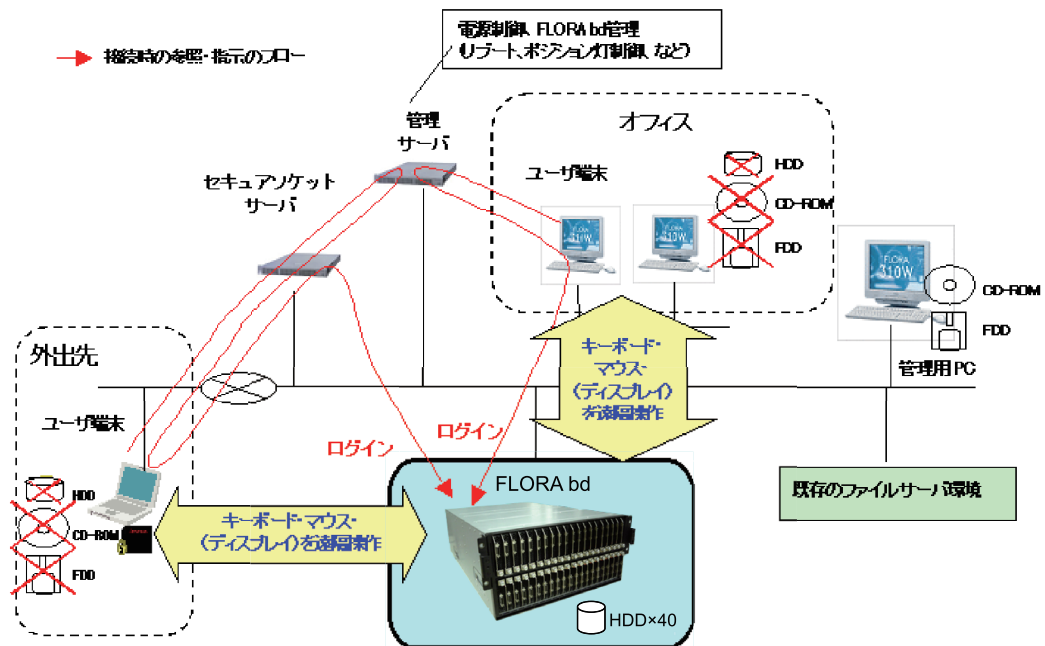
FLORA bd の概要.....	2
設置環境.....	3
制限事項.....	4
サポートサービス	7
トラブルを避けるために.....	10

FLORA bd の概要

ここでは FLORA bd を組み込んだネットワーク構成を例に、FLORA bd の概要を説明します。FLORA bd とは、クライアントモジュール（システム装置に相当）をベースユニットに最大 40 式搭載したものです。

ネットワーク構成例

FLORA bd は次のようなネットワーク構成の中核として稼働し、作成されたデータは社内のクライアントモジュールで一括管理できるようになります。ユーザ端末側は、ディスク類へのデータ保管が不要になり、重要なデータが誤って社外へ漏洩することがなくなります。クライアントモジュールを固定 IP アドレスで管理し、ユーザ端末からネットワークを通じ、自分のクライアントモジュールの電源の入り切りを可能にしています。なお、ネットワーク構成を行うためには、システムの設定が必要です。参照→『ソフトウェアガイド』「2 システムの運用と管理」



制限

IP アドレスは固定 IP アドレスを使用してください。
IP アドレスを DHCP で運用すると、クライアントモジュールを特定できなくなります。

設置環境

FLORA bd の設置環境条件を次に示します。

項目	許容範囲
温度	10～35℃ [非動作時：0～40℃]
湿度	20～80% [非動作時：10～90%] RH (結露のないこと)
湿球温度	最大 27℃
塵埃	一般事務室程度
雰囲気	一般事務室条件 (腐食性ガス、多量の塩分などがないこと)
設置スペース	

*1：地震対策でラックキャビネットを直接固定する場合は、800mm 必要です。

次のような場所には設置しないでください。

- 屋外など環境が安定しない場所
- 水を使用する場所の近く
- 直射日光の当たる場所
- 温湿度変化の激しい場所
- 電氣的ノイズを発生する機器の近く (モーターの近くなど)
- 強磁界を発生する機器の近く
- ごみ、ほこりの多い場所
- 傾いて水平にならない場所
- 振動の多い場所
- 結露の発生する場所
- 揮発性の液体の近く
- 腐食性ガス (亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアなど) や塩分を多量に含む空気が発生する場所
- 周囲が密閉された棚や箱の中などの、通気が妨げられる場所

・・・
補足

温度・湿度が 25℃・50% の環境でご使用いただくことを推奨します。

制限事項

ここでは FLORA bd や周辺機器の使用環境、使用方法における制限を説明します。

「装置の損害を防ぐための注意」P.xii もあわせてご参照ください。

FLORA bd ・ 周辺機器の使用環境

- FLORA bd は純正品のラックマウントキットを使用し、日立製ラックキャビネットに収納してください。FLORA bd 単体やクライアントモジュール単体では使用しないでください。
なお、FLORA bd のラックキャビネットへの搭載は保守員以外には行わないでください。FLORA bd をラックキャビネットに搭載する必要がある場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
- 暑い場所や寒い場所では、しばらく空調などを使用し室温が安定してからご使用ください。
- 直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
- ほこりが多い場所では、使用しないでください。
- 極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。
湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
- FLORA bd を使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。このときは、一度 FLORA bd の電源を切って再起動してください。

FLORA bd ・ 周辺機器の取り扱い

- システム起動中や使用中に、電源コードを抜いたり、クライアントモジュールを抜去すると、次回から起動しないことがあります。この場合はお買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
- FLORA bd やクライアントモジュールは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。
- ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は次のようにしてください。
 - ◆ テレビやラジオからできるだけ離す
 - ◆ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
 - ◆ コンセントを別にする
- FLORA bd やクライアントモジュールの電源を切ったら、再度電源を投入するまでに 30 秒以上、間隔を空けてください。間隔を空けないとクライアントモジュールが起動しないことがあります。

- じゅうたんのある部屋で FLORA bd を使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、FLORA bd に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。
- 工場出荷時の梱包材の再利用は 1 回のみ可能です。2 回以上再利用しないでください。
- 移動の際は周囲にぶつからないようにしてください。
- FLORA bd やクライアントモジュールは、定期的なお手入れが必要となります。9 章「[クリーニングについて](#)」 P.141 を参照し、お手入れを行ってください。
- システム起動中、キーボードリセット（[Ctrl] + [Alt] + [Delete]）を実行しないでください。システムエラーとなります。
- 本システム装置の 25 °C 環境下における通常動作時の騒音値は 55dB 以下です。設置環境や設置場所により、騒音が大きいと感じられることがありますので、一般事務室に設置する場合には、環境や場所に十分ご注意の上、導入してください。




FLORA bd ベースユニット / クライアントモジュールの組み合わせ

- ベースユニットに搭載可能なクライアントモジュールの組み合わせは次のとおりです。これ以外の組み合わせはサポートしておりません。

ベースユニット	クライアントモジュール
	500X7 モデル
2009 年 5 月モデル GXORF50*-**NNNNX （“*” は任意の英数字）	○

コンセントについて

- AC100V 使用時、FLORA bd およびコンセントボックスユニットが必要とするコンセントプラグおよびコンセント仕様は次のとおりです。仕様を満たすものをご使用ください。



電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC100V ± 10% 50Hz/60Hz ± 1Hz	2 極接地極付コンセント 15A-125V	 (JIS-C-8303 *1)	 (JIS-C-8303 *2)  (IEC60083 A5-15)

*1: NEMA5-15P 相当です。


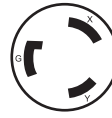
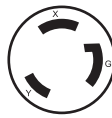
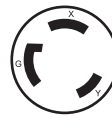
*2: NEMA5-15R 相当です。

- AC200V 使用時、FLORA bd およびコンセントボックスユニットが必要とするコンセントプラグおよびコンセント仕様は次のとおりです。仕様を満たすものをご使用ください。

[FLORA bd]

電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC200V ± 10% 50Hz/60Hz ± 1Hz	2 極接地極付コンセント 15A-250V	 (IEC60320-C14)	 (IEC60320-C13)

[コンセントボックスユニット]

電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC200V ± 10% 50Hz/60Hz ± 1Hz	2 極接地極付引掛形 コンセント 20A-250V *1	 (NEMA L6-20P)	 (NEMA L6-20R)
	2 極接地極付引掛形 コンセント 30A-250V *2	 (NEMA L6-30P)	 (NEMA L6-30R)

*1 電源ケーブル (GV-LG1042N) 使用時。

*2 電源ケーブル (GV-LG1045N) 使用時。

- 電源設備側コンセントは、電気用品安全法取得のコンセントをご使用ください。
- コンセントは活性導線 (L:Line)、接地導線 (N:Neutral)、接地 (G:Ground) からなります。ご使用前に、接地導線と接地が同電位であることをご確認ください。

サポートサービス

FLORA bd を最適な状態でお使いいただくためのサポートサービスについて説明します。

サポートサービスについて

FLORA bd をご購入いただいた日から一定期間は、無償保守を行います。保証書は紛失しないよう、大切に保管してください。

■ 1年無償保証モデル

無償修理期間	ご購入日から1年間 *1
対象形名	ベースユニット：GX0RF500-**NNNN*（**は任意の英数字） クライアントモジュール：GX*500X7-****NN*（*は任意の英数字）
サービス内容	障害時サービス員が即時出張による修復（無償）
サービス時間	平日 9:00～17:00 土曜 9:00～12:00 （日曜・祝日・年末年始を除く）*2
対象製品	FLORA bd *3（ソフトウェア製品は対象外）

*1 使用期間により寿命となる有寿命部品は交換が必要です。価格および納期についてはお買い求め先にご相談ください。

*2 交通事情・天候や地理条件（島嶼や山間部、遠隔地）などにより、上記日時は変更となる場合があります。

*3 FLORA bd 専用外付けオプションに関しては、無償修理期間はご購入日より1年間となります。

■ 3年無償保証モデル

無償修理期間	ご購入日から3年間 *1	
対象形名	ベースユニット：GX0RF50A-**NNNN*（**は任意の英数字） クライアントモジュール：GX*50AX7-****NN*（*は任意の英数字）	
サービス内容	1年目	障害時サービス員が即時出張による修復（無償）
	2、3年目	障害ご連絡後の翌営業日にサービス員が出張による修復（無償）
サービス時間	1年目	平日 8:00～19:00（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く）*2
	2、3年目	平日 9:00～17:00（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く）*2
対象製品	FLORA bd *3（ソフトウェア製品は対象外）	

*1 使用期間により寿命となる有寿命部品は交換が必要です。価格および納期についてはお買い求め先にご相談ください。

*2 交通事情・天候や地理条件（島嶼や山間部、遠隔地）などにより、上記日時は変更となる場合があります。

*3 FLORA bd 専用外付けオプションに関しては、無償修理期間はご購入日より1年間となります。

無償修理期間後や無償修理期間内でも別のサポートサービスをお受けになる場合や、ハードディスク交換後のファイル回復をご希望の際は、有償となります。お買い求め先にご相談ください。

通知

クライアントモジュールの修理により、ハードディスク内のプログラムやデータ、各種設定内容が消失することがあります。修理を依頼されるときは、事前にバックアップをお取りください。

サポートサービスの種類

- 契約保守
あらかじめお客様とお買い求め先の間で「保守契約」を結び、製品にトラブルが発生した場合にサポートサービスを行います。
- パーコール保守
何らかの事情で、上記の保守契約を結んでいないお客様からの修理依頼を受け、サポートサービスを行います。

製品保証について

- 保証規定
保証規定は保証書の裏面に記載されておりますので、よくお読みください。
- 保証期間
保証期間は保証書に記載されておりますのでご参照ください。
- 有寿命部品の扱いについて
FLORA bd には、使用しているうちに劣化・消耗する有寿命部品があります。→ [「有寿命部品」 P.142](#)
寿命に達した有寿命部品は FLORA bd の故障やデータの消失などの原因となりますので、早期に交換してください。なお、寿命に達した有寿命部品の交換は無償修理の対象外となります。価格および納期についてはお買い求め先にご相談ください。

サポートサービス期間について

サポートサービス期間は、製品の納入時から5年間です。

有償サポートについて

ハードウェアやソフトウェアに関する操作方法、動作に関する各種問合せは、原則有償サポートでの対応となります。

□ オプション保守サービス

無償保証期間以降について、お客様の要求に合わせて、次のサポートサービスをご用意しております。

- 維持保守サービス
年契約（定額）で、障害発生時サービス員が即時出張による修理を行うサービスです。
サービス時間 平日 9:00～17:00 土曜 8:00～12:00（日曜・祝日・年末年始を除く）
- 出張修理サービス
年契約（定額）で、障害発生時の連絡から翌平日以降、サービス員の出張による修復を行うサービスです。
サービス時間 平日 9:00～17:00（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く）

補足

上記サポートサービスをご契約いただかない場合は、お客様からの依頼により随時修理サービスを実施します。修理サービス内容により、技術料・技術者派遣費・部品代・旅費などのサービス料金が必要となります。

（障害修復のご利用回数は、契約毎に1回のご利用となります）

□ ソフトウェアサポートサービス

FLORA bd を安心して継続的にご利用いただくためには、ソフトウェアのサポートサービスが必要です。ソフトウェア利用上のご質問や万が一のトラブルへの対応など、必要に応じたさまざまなサポートサービスを用意しています。詳細はソフトウェアサポートサービスのホームページで紹介しています。

- ホームページアドレス
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/service/index.html>

トラブルを避けるために

データのバックアップ

ハードディスクはその容量の大きさから、フロッピーディスクのように1枚ごとに使い分ける必要がなく、たいへん便利です。しかし、故障やフォーマットなどの誤操作で、大切なデータやプログラムのすべてが使用できなくなることもあります。ハードディスクの内容を定期的に外部記憶装置（NAS* など）へバックアップしてください。

* NAS : Network Attached Storage

コンピューターウイルスの予防について

プログラムやデータが急に壊れたり、予期せぬ動作や画面が現われたときは、クライアントモジュールがコンピューターウイルスに感染している可能性があります。コンピューターウイルスとは、クライアントモジュールに侵入し、クライアントモジュールに制御不能な動作をさせたり、データやプログラムを破壊する悪質なプログラムです。感染の原因の多くは、インターネットでの正体不明なプログラムのダウンロードや、不明なホームページへの接続、インターネットメールの添付ファイルなどにあるといわれています。これらの行為は極力避けるが、ワクチンプログラムなどで予防策を講じてください（JEITAのガイドラインに基づく表示）。

2

FLORA bd 各部の名称

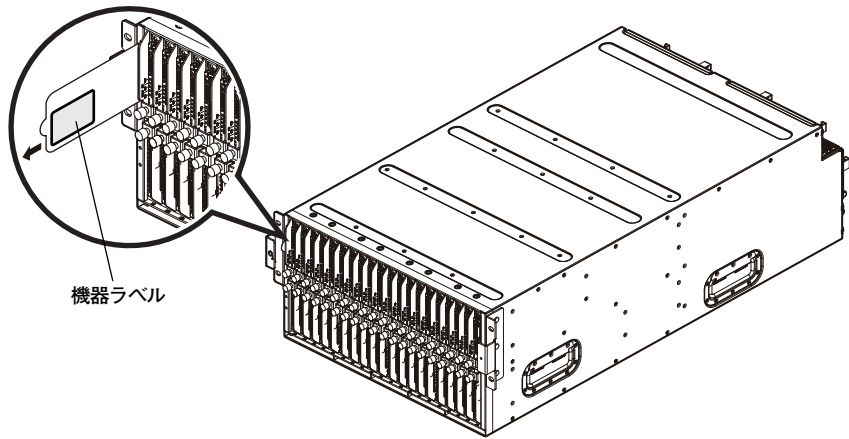
この章では、FLORA bd の各部の名称や機能について説明します。

各部の名称と機能	12
----------------	----

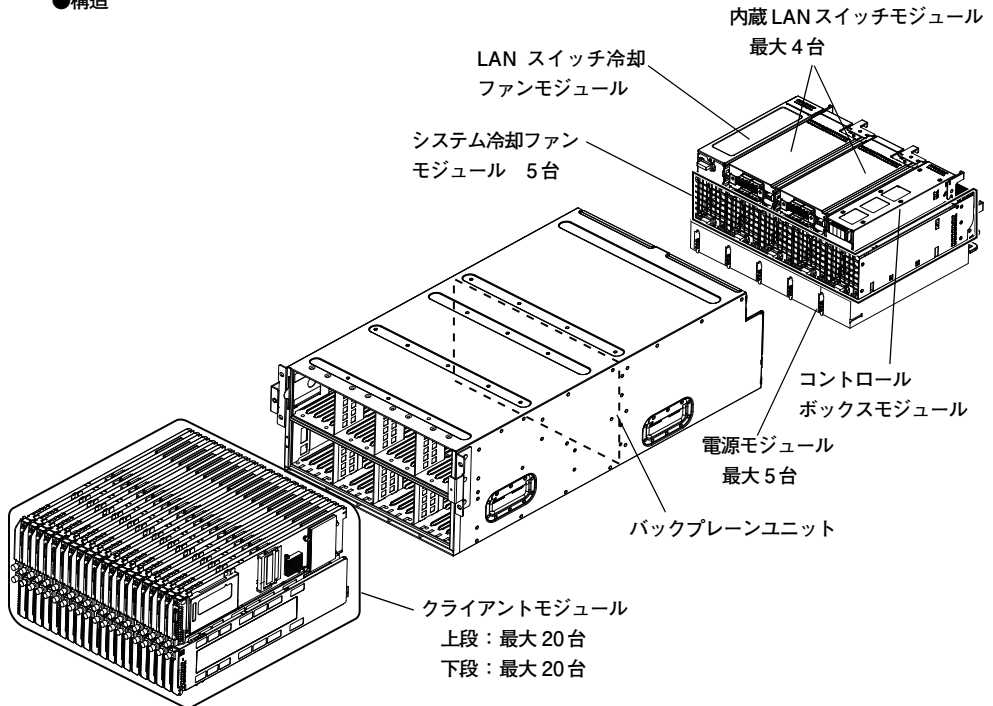
各部の名称と機能

FLORA bd ベースユニット

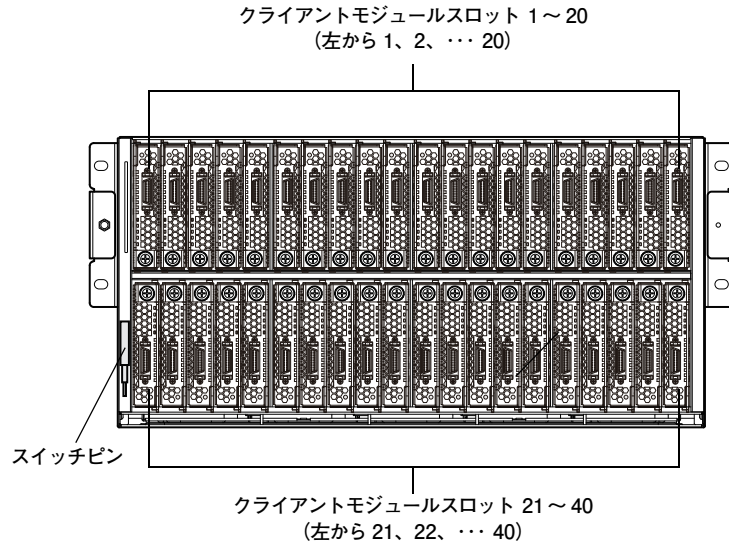
●外観



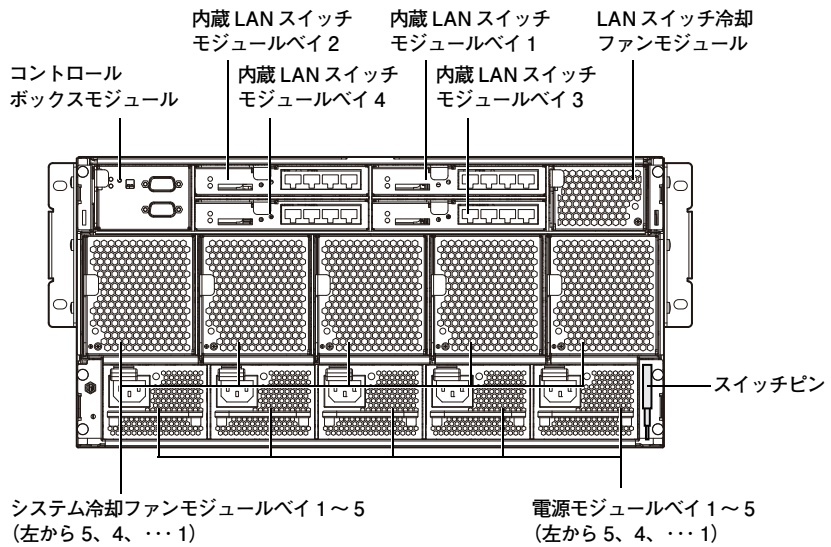
●構造



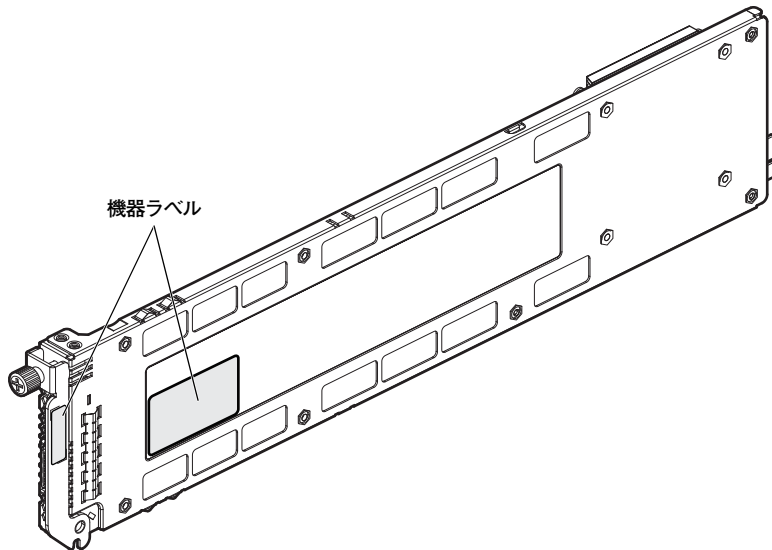
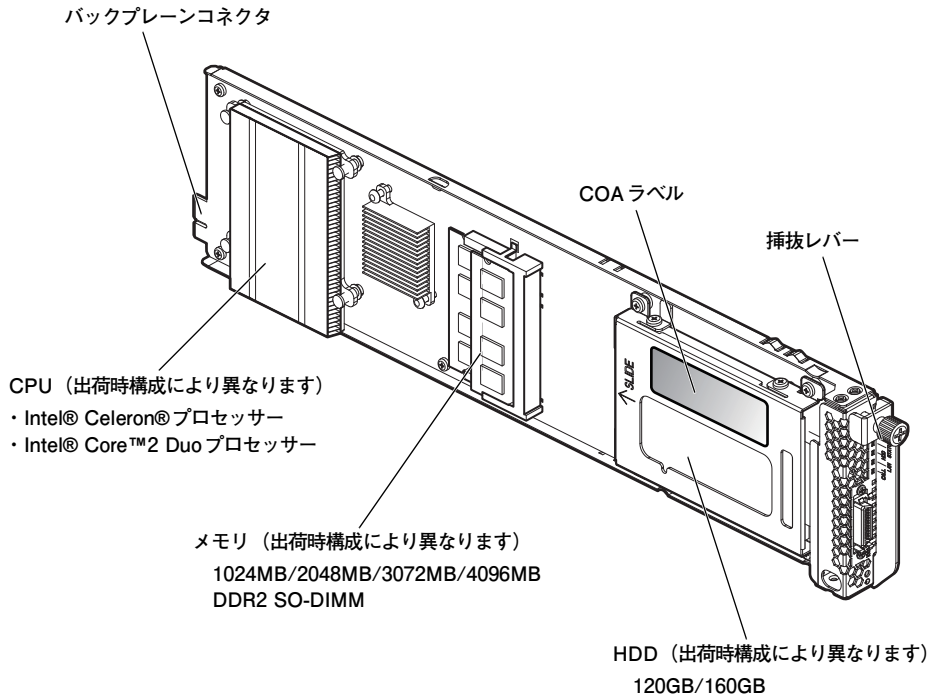
●前面

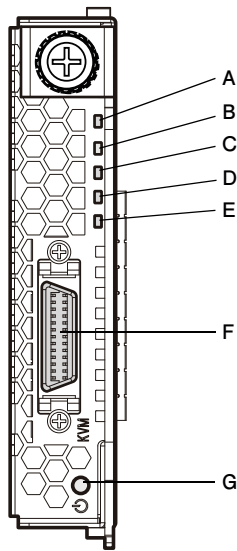


●背面



クライアントモジュール





補足

クライアントモジュールのランプ輝度にはバラツキがあります。動作上問題ありません。

A 電源ランプ (PWR)

橙点灯：クライアントモジュールをベースユニットに挿入し、AC 電源を投入したときに橙点灯します。

また、OS をシャットダウンした場合および休止状態の場合に橙点灯します。

緑点灯：クライアントモジュール起動および稼動中に緑点灯します。

緑点滅：スタンバイモード、スリープモードのときに緑点滅します。

B STATUS ランプ (STATUS)

消灯：正常に動作しています。通常は消灯しています。

赤点滅：エラーを検出したときに赤点滅します。

特定のクライアントモジュールが赤点滅の場合、クライアントモジュール自体でエラーが発生しています。

ベースユニット内のすべてのクライアントモジュールが赤点滅の場合、ベースユニットでエラーが発生しています。

C HDD ランプ (HDD)

緑点滅：HDD アクセス時に緑点滅します。

D LAN ランプ (LAN)

緑点灯：LAN がポートとリンク確立したときに緑点灯します。

緑点滅：LAN がデータの送受信を検知したときに緑点滅します。

E CALL ランプ (CALL)

黄点滅：保守を必要とするクライアントモジュールを特定するため、ネットワーク経由で指示したときに点滅します。

F KVM コネクタ

ビデオ出力および USB ポートが 3 つ出力されるポートです。KVM ケーブルを接続して使用します。

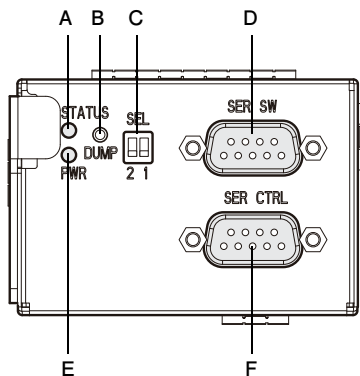
保護用の KVM コネクタカバーを添付しています。KVM ケーブルを接続しないときは、ほこりや接触を防ぐために KVM コネクタカバーを付けてください。また、KVM コネクタカバーはなくさないように保管してください。

G 電源スイッチ (⏻)

電源スイッチを添付のスイッチピンで、4 秒未満押しした場合は、起動または終了します。電源スイッチを添付のスイッチピンで、4 秒以上押し続けた場合は、強制終了します。

コントロールボックスモジュール

コントロールボックスモジュールは、FLORA bd の各モジュールの制御・監視を行います。また、コントロールボックスモジュールおよび内蔵 LAN スイッチモジュールの保守・設定用のシリアルインタフェースを備えます。



A STATUS ランプ (STATUS)

消灯：正常に動作しています。通常は消灯しています。

橙点灯：コントロールボックスモジュール内のエラーを検出したときに橙点灯します。

橙点滅：FLORA bd 内の構成違反や特定のエラーを検出したときに橙点滅します。

B DUMP スイッチ (DUMP)

保守時に使用します。

運用時は使用しません。スイッチは押さないでください。

C SELECT スイッチ (SEL)

内蔵 LAN スイッチモジュールの設定を行う場合に、どの内蔵 LAN スイッチに対して設定を行うかを選択します。→ [「7 内蔵 LAN スイッチモジュールの設定」 P.109](#)

運用時は使用しません。

D 内蔵 LAN スイッチ設定用ポート (SER SW)

内蔵 LAN スイッチモジュールの保守・設定時に、設定用の PC クライアントとシリアルインタフェースケーブルで接続します。

→ 「7 内蔵 LAN スイッチモジュールの設定」 P.109

運用時は使用しません。

E 電源ランプ (PWR)

緑点灯：コントロールボックスモジュールが稼働中に緑点灯します。

消灯：コントロールボックスモジュールが通電されていないとき消灯します。

また、コントロールボックス内のエラーを検出し、停止したときにも消灯します。

F コントロールボックス設定用ポート (SER CTRL)

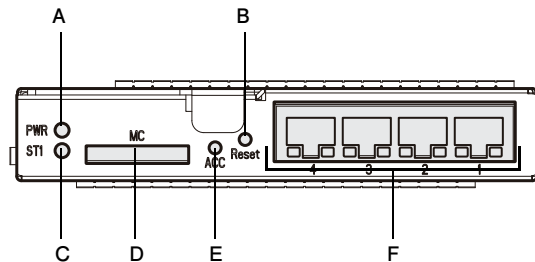
コントロールボックスモジュールの保守・設定時に、設定用の PC クライアントとシリアルインタフェースケーブルで接続します。

→ 「6 コントロールボックスモジュールの設定」 P.95

運用時は使用しません。

内蔵 LAN スイッチモジュール

1Gbps/100Mbps/10Mbps 対応の LAN スイッチです。スイッチのルーティング機能としてレイヤー 3 までサポートしています。(内部 20 ポート、外部 4 ポート)

**A 電源ランプ (PWR)**

緑点灯：内蔵 LAN スイッチモジュールが稼働中に緑点灯します。

消灯：内蔵 LAN スイッチモジュールが通電されていないとき消灯します。

また、内蔵 LAN スイッチモジュール内のエラーを検出し、停止したときにも消灯します。

B Reset スイッチ (Reset)

内蔵 LAN スイッチモジュールをリセットする場合に押します。

運用時は押さないでください。必要がある場合のみ、付属のスイッチピンで押してください。

C STATUS ランプ (ST1)

緑点灯：正常に動作しています。

緑点滅：パワーオン時の診断中またはソフト起動中に緑点滅します。

赤点滅：動作中に縮退動作可能なエラーを検出したときに赤点滅します。

赤点灯：動作不可のエラーを検出し、停止したときに赤点灯します。

D メモリーカードスロット (MC)

オプションのメモリーカード (GX-MC9LSMC128M) を挿することができます。構成定義、ユーザー定義情報のバックアップや復元を行う場合に使用します。

→「[モジュール情報のバックアップとリストア](#)」P.121

また、保守時にも使用します。

E ACCESS ランプ (ACC)

緑点灯：メモリーカードにアクセス中に緑点灯します。

消灯：メモリーカードにアクセスしていないか、未挿入です。



ACCESS ランプが緑点灯中は、メモリーカードを抜かないください。メモリーカードのデータを破損するおそれがあります。

F LAN インタフェースコネクタ 1～4

LAN ケーブルを接続します。左から LAN インタフェースコネクタ 4、3、2、1 となります。

LAN インタフェースコネクタ 1 (line 1) は工場出荷時、管理用として専用 VLAN を設定しています (解除可能)。

通常使用できるポートは LAN インタフェースコネクタ 2、3、4 (line 2～4) となります。



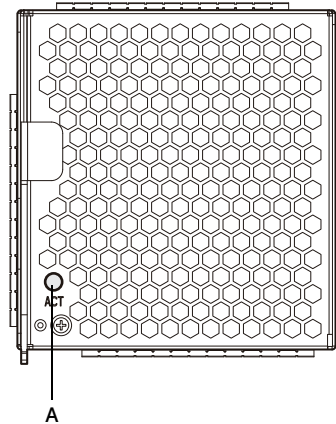
物理ポートである LAN インタフェースコネクタ 1～4 は、論理ポート：line 1～4 に対応します。

なお、コネクタ下部左側にポートのリンク状態を示すランプがあり、リンクが確立されているときは緑色に点灯します。また通信中は緑色に点滅します。

コネクタ下部右側にポートのエラー状態を示すランプがあり、動作中に縮退動作可能なエラーを検出したときに橙色に点滅します。

システム冷却ファンモジュール

FLORA bd ベースユニットの冷却用ファンです。標準で5台搭載されます。



A ACTIVE ランプ (ACT)

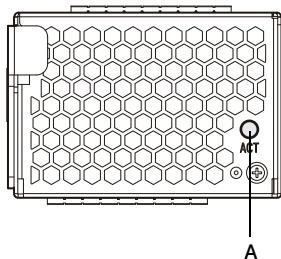
緑点灯：ファンが正常に動作しています。

消灯：動作中にエラーを検出したときに消灯します。

また、通電されていない場合やコントロールボックスモジュールが取り外されているときも消灯します。

LAN スイッチ冷却ファンモジュール

内蔵 LAN スイッチモジュールの冷却用ファンです。



A ACTIVE ランプ (ACT)

緑点灯：ファンが正常に動作しています。

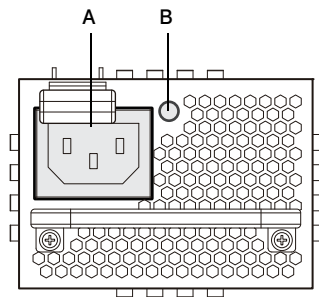
消灯：動作中にエラーを検出したときに消灯します。

また、通電されていない場合やコントロールボックスモジュールが取り外されているときも消灯します。

電源モジュール

AC100V/AC200V に対応した電源モジュールです。

搭載されるクライアントモジュール数により、標準で3台または5台搭載されます。(冗長構成)



A 電源コネクタ

電源コードを接続します。

電源コードは AC100V 用と AC200V 用で異なります。

B STATUS ランプ

緑点灯：パワーオンされて正常に動作しています。

緑点滅：通電（AC 入力）され、パワーオンされていない（省電力モード）とき緑点滅します。

橙点灯：動作不可のエラーを検出したときや、対象の電源モジュールに通電（AC 入力）されていないときに橙点灯するとともに、すべてのクライアントモジュールの STATUS ランプが赤点滅します。

クライアントモジュールの STATUS ランプが消灯している場合、電源モジュールは正常です。

橙点滅：動作中に縮退動作可能なエラーを検出したときに橙点滅します。

消灯：FLORA bd 内のいずれの電源モジュールにもパワーオンされておらず、通電（AC 入力）されていないとき消灯します。

3

FLORA bd の接続と電源の 入れかた

この章では、FLORA bd の設置・接続方法やクライアントモジュールの電源の入れかた・切りかたについて説明します。

FLORA bd の設置.....	22
FLORA bd の接続.....	25
電源を入れる・切る	35

FLORA bd の設置

ここでは FLORA bd の設置について説明します。

⚠ 注意

- 傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。
- 装置などの重量物を移動したり持ち上げたりする場合は、リフターを使用し2人以上で作業してください。リフターがない場合には、クライアントモジュールおよび背面の各モジュールをいったんすべて取り出し、重量を軽くしてから2人以上でベースユニットを移動してください。腕や腰を痛める原因となります。
各モジュールをいったん取り出した場合、ベースユニットの移動後、忘れずに各モジュールを取り付けてください。
- ラックキャビネットの31U以上に装置を取り付けたり取り外したりする場合は、リフターを使用してください。装置の落下により、けがや装置の故障の原因となります。
- FLORA bdのラックキャビネットへの搭載・取り外しはすべて保守員が行います。搭載・取り外しは行わないでください。取り付け不備によりFLORA bdが落下し、けがをしたりFLORA bdの故障の原因となります。
- 純正品以外のラックマウントキットを使用したり、ラックマウントキットを用いずにラックキャビネットに収納したりした状態では使用しないでください。FLORA bdの落下によるけがや装置の故障の原因となります。
- ダミーモジュールを取り外した状態では使用しないでください。ダミーモジュールがない状態で動作中に空きスロットへ手を入れると、感電やけがの原因となります。また、冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。

通知

FLORA bdは正しく設置した状態でご使用ください。縦向きに設置したり、上下を逆に設置したりしないでください。FLORA bdが正常に動作しなかったり、故障したりする原因となります。

□ 同梱品の確認

梱包を解いたら、『同梱品チェックリスト』ですべての添付品がそろっていることと、各部品に損傷がないことをご確認ください。不足している部品があるなどの問題があるときは、お買い求め先にご連絡ください。

□ 設置場所の確認と設置

「設置環境」P.3を参照して設置場所の環境を確認し、設置場所を決定します。

ラックキャビネットの設置についてはラックキャビネットに添付の『ラックキャビネット取扱説明書』を参照し、装置の作業を行ってください。

なお、FLORA bdのラックキャビネットへの搭載は、保守員以外は行わないでください。搭載する必要がある場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

補足

地震などによる振動で装置の移動、転倒あるいは窓などからの飛び出しが発生し、重大な事故へと発展するおそれがあります。これを防ぐため、地震・振動対策を保守会社や専門業者にご相談いただき、実施してください。

ねずみなどによるコンピュータシステムの被害として次のようなものがあります。

- ケーブル類の被覆の破損断線
- 機器内部の部品の腐食、接触不良、汚損

これを防ぐため、ねずみ対策を専門業者にご相談いただき、実施してください。

FLORA bd のモジュール搭載

ここでは FLORA bd を使用する上で必要となるモジュール数について説明します。

クライアントモジュールの搭載数および使用する LAN ポートにより、FLORA bd を構成するモジュールの必要数が異なります。

次の表を参考に、必要モジュール数をご確認ください。

必要モジュール数に満たない場合は増設が必要です。お買い求め先にご連絡ください。

クライアントモジュール *1		必要モジュール数				
搭載数	使用する LAN ポート	コントロールボックスモジュール	内蔵 LAN スイッチモジュール *1	システム冷却ファンモジュール	LAN スイッチ冷却ファンモジュール	電源モジュール *1
クライアントモジュール スロット 1～10、 21～30 を使用し、 合計 20 台以下	LAN1 のみ	コントロール ボックス モジュールベイ に 1 台 *2	内蔵 LAN スイッチ モジュールベイ 1 に 1 台	システム 冷却ファン モジュールベイ 1～5 に 5 台 *2	LAN スイッチ 冷却ファン モジュールベイ に 1 台 *2	電源モジュール ベイ 1～3 に 3 台 *3
	LAN1、2 両方		内蔵 LAN スイッチ モジュールベイ 1、3 に 2 台			
合計 21 台以上	LAN1 のみ		内蔵 LAN スイッチ モジュールベイ 1、2 に 2 台			電源モジュール ベイ 1～5 に 5 台
	LAN1、2 両方		内蔵 LAN スイッチ モジュールベイ 1～4 に 4 台			

*1: スロット、ベイに空きがある場合は、忘れずにダミーモジュールを取り付けてください。

*2: 標準搭載されます。

*3: 電源モジュールベイ 4、5 に増設し、5 台構成としても問題なく動作します。

FLORA bd の接続

ここではディスプレイ、キーボード、LAN ケーブル、電源コードなどの接続方法を説明します。

⚠ 注意

周辺機器や内蔵オプションを増設・接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を FLORA bd から抜いてください。感電や FLORA bd の故障の原因となります。

また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・内蔵オプション・ケーブル・電源コードをご使用ください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器・内蔵オプションや FLORA bd の故障の原因となります。

ディスプレイ・キーボードなどの接続

接続構成例 1 または例 2、例 3 に従い、接続してください。

通知

- オプション設定された機器以外の USB 機器は、接続しないでください。正常に動作しなかったり故障したりするおそれがあります。
- USB ケーブルは接続構成例のとおりに接続してください。構成例とは異なるコネクタ色と USB 機器の組み合わせでは、正常に動作しなかったり故障したりするおそれとなります。

⚠ 制限

- OS を起動中に KVM ケーブルの接続または取り外しを行わないでください。正しく起動しないことがあります。
- KVM ケーブルに接続したマウスで OS 上から [スタート] メニューのスリープ (またはスタンバイ) を選択しないでください。クライアントモジュールがスリープ (またはスタンバイ) に移行せず、電源ランプが緑点灯のまま動作しなくなることがあります。

⋯ 補足

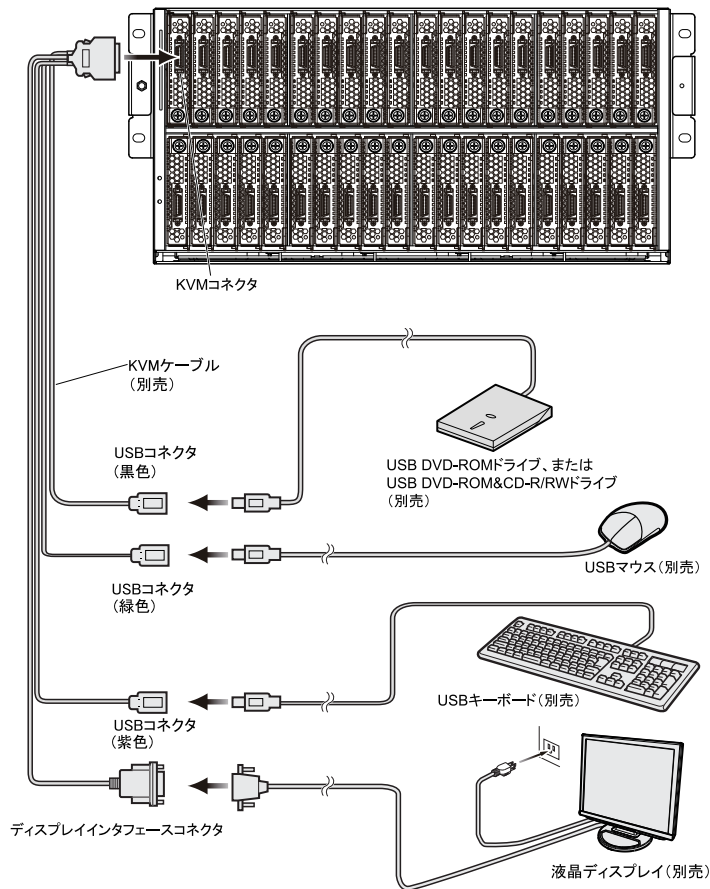
- クライアントモジュールとディスプレイを KVM ケーブルにて接続した状態で、ネットワーク経由のリモートユーザ端末を使用すると、リモートユーザ端末側のディスプレイ解像度が、KVM ケーブルで接続したディスプレイの解像度以外に変更できなくなります。この場合は、KVM ケーブルで接続したディスプレイを切り離れた上で、クライアントモジュールを再起動してください。なお、KVM ケーブルで接続するディスプレイは、保守時以外クライアントモジュールに接続しないでください。

補足

- OS を起動したあとに、KVM ケーブルを接続すると、ディスプレイに正しく表示されないことがあります。
この場合は、[Ctrl] + [Alt] + [F1] キーを押してください。
ただし、キーを押しても回復しない場合があります。
- 正常に動作しない場合は、KVMケーブルを抜き差ししてください。
KVM ケーブルは、システム移動中に挿抜することができます。
- ディスプレイインタフェースコネクタにディスプレイインタフェースケーブルを接続した後、ディスプレイの電源プラグをコンセントに接続します。
- DVD-ROM&CD-R/RWドライブやDVD-ROMドライブの設置
USB FDD 搭載用簡易トレイ (GQ-AU7A81) を利用します。
- KVM ケーブルの同時使用
同時に接続できる KVM ケーブルは、4 本までです。

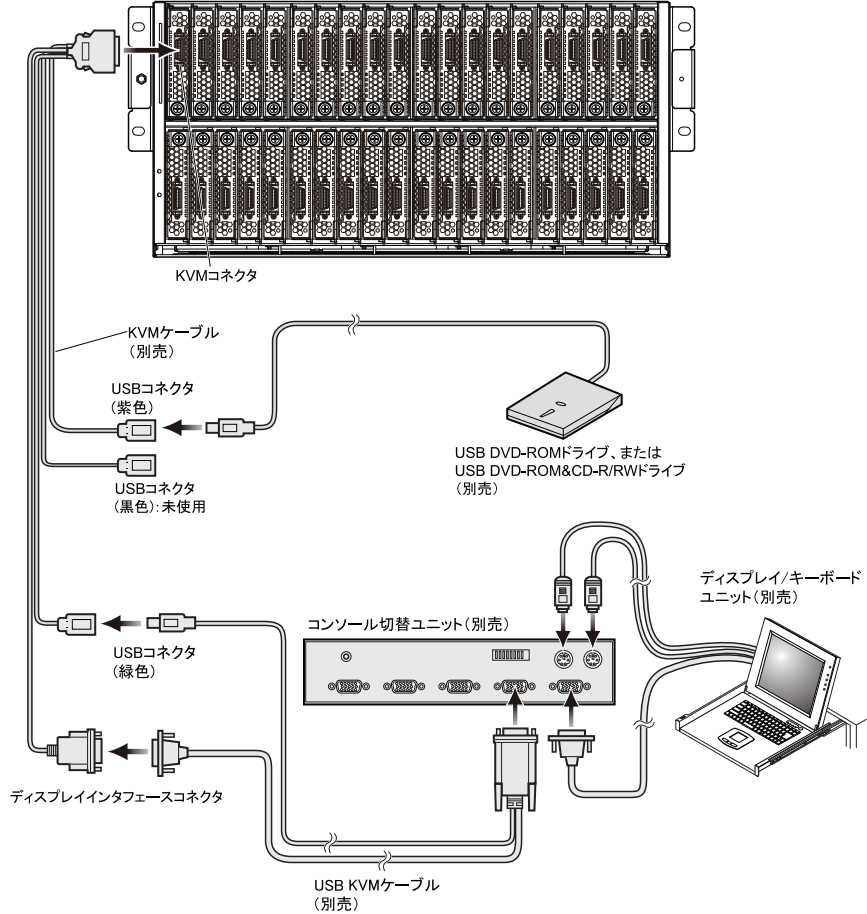
□ 接続構成例 1

KVM ケーブルとキーボード/マウスは 1 ラックに 1 式、USB DVD-ROM ドライブ (または USB DVD-ROM & CD-R/RW ドライブ)・液晶ディスプレイは 1 サイトに 1 式必要です。



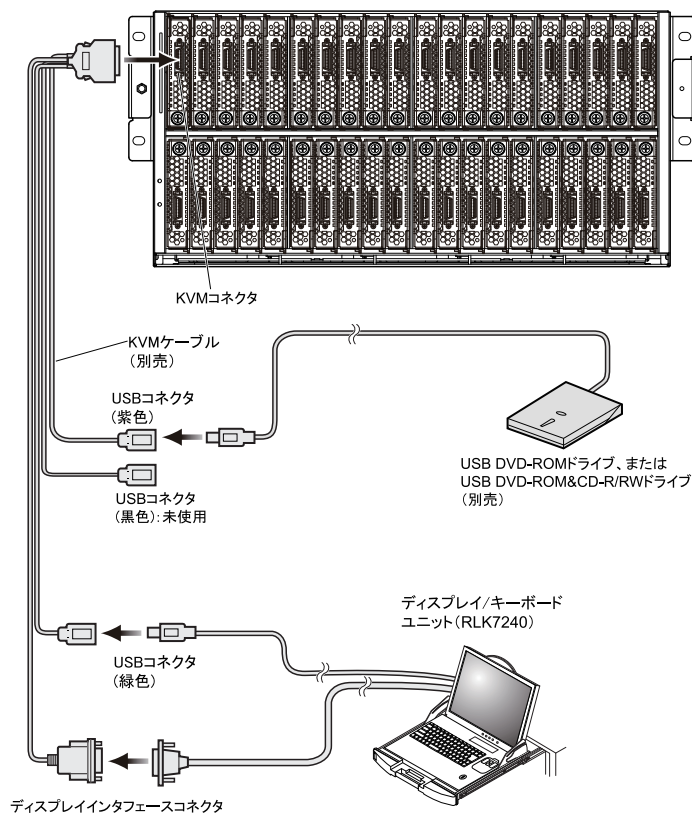
□ 接続構成例 2

KVMケーブルと USB KVMケーブル、コンソール切替ユニット付きディスプレイ / キーボードユニットは1ラックに1式、USB DVD-ROMドライブ（またはUSB DVD-ROM & CD-R/RWドライブ）は1サイトに1式必要です。



□ 接続構成例 3

KVM ケーブルと USB KVM ケーブル、ディスプレイ / キーボードユニット (GQ-RLK7240) は 1 ラックに 1 式、USB DVD-ROM ドライブ (または USB DVD-ROM & CD-R/RW ドライブ) は 1 サイトに 1 式必要です。



補足

ディスプレイ / キーボードユニット (RLK7240) に添付されているインタフェースケーブル (PS/2) とインタフェースケーブル (USB) を同時に接続し、動作させることはできません。

既設 / 増設のコンソール切替ユニットにディスプレイ / キーボードユニット (RLK7240) を接続する場合は、別売りの USB KVM ケーブル (LUB7113) が必要になります。詳細は「[接続構成例 2](#)」P.27 をご参照ください。

LAN ケーブルの接続

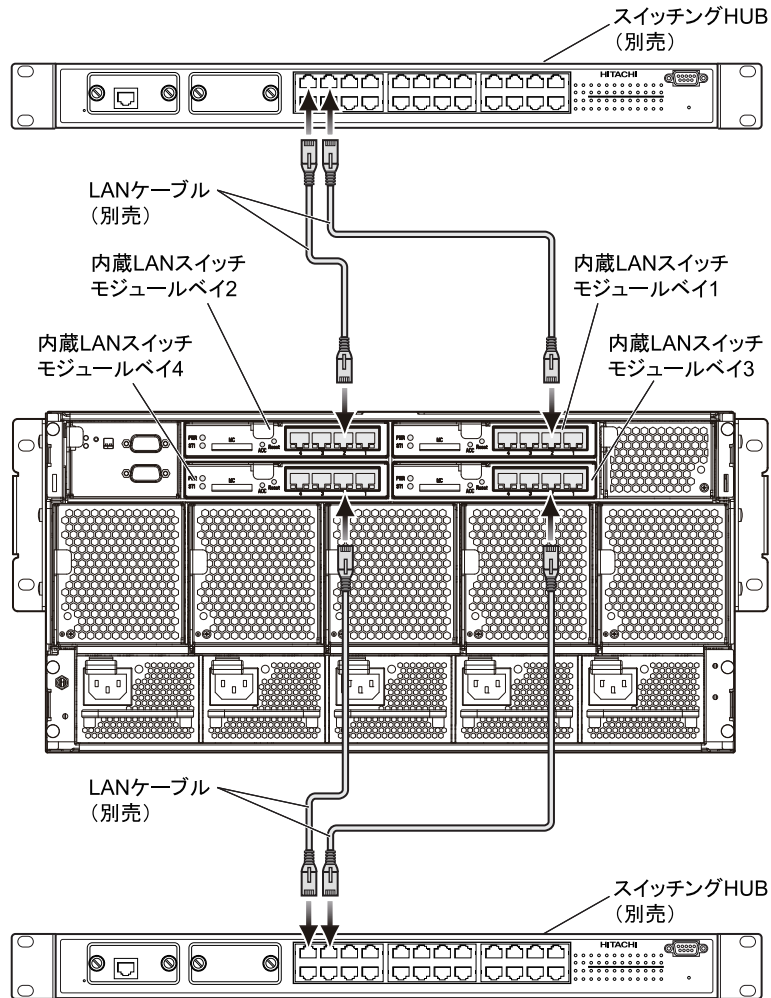
FLORA bd の内蔵 LAN スイッチモジュールとスイッチング HUB を LAN ケーブルで接続しません。

内蔵 LAN スイッチモジュールの内部ポートと、クライアントモジュールの LAN ポートの接続構成については、「[クライアントモジュールとの接続形態](#)」 P.111 をご参照ください。



- LAN インタフェースコネクタへの LAN ケーブル接続は次のとおり扱ってください。取り扱いを誤ると、LAN インタフェースコネクタが破損したり、LAN ケーブルが破損・断線したりするおそれがあります。
 - ・LAN ケーブルは RJ45/ISO8877 準拠のコネクタを使用したものをご使用ください。
 - ・LAN ケーブルはネットワークインタフェースコネクタに負荷がかからないようにルーティングしてください。
 - ・LAN ケーブルを抜くときは、ケーブル側コネクタのフックを押しながらまっすぐ抜いてください。
- 内蔵 LAN スイッチモジュールの LAN インタフェースコネクタ 1 は管理用に設定されています。設定変更しない限り、クライアントモジュールとの接続には使用できません。この場合 LAN インタフェースコネクタ 2、3、4 をご使用ください。
- 工場出荷時の設定では、内蔵 LAN スイッチモジュールの LAN インタフェースコネクタ 2、3、4 のうち、いずれか 1 ポートを外部スイッチング HUB に接続してください。複数ポートをお使いになる場合は、VLAN などを設定してください。
- クライアントモジュールの LAN1 と 2 を両方ご使用になる場合は、通常別セグメントに設定してください。その場合、内蔵 LAN スイッチモジュールベイ 1 と 3、および 2 と 4 はカスケード接続しないでください。
- 内蔵 LAN スイッチモジュールからスイッチング HUB への接続は、セグメントごとに別々のスイッチング HUB に接続してください。
- VLAN などを設定してご使用になる場合は、内蔵 LAN スイッチモジュールおよびスイッチング HUB を正しく設定・接続し、ネットワーク構築してください。

なお、必要となる内蔵 LAN スイッチモジュール数は、クライアントモジュールの搭載数および使用する LAN ポート数により異なります。詳細は「[FLORA bd のモジュール搭載](#)」 P.24 をご参照ください。



内蔵 LAN スイッチモジュールとクライアントモジュールスロットの対応位置については、「内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付ける」[「取り付け位置」 P.50](#) をご参照ください。

補足

上の図は、スイッチング HUB に接続した場合の一例です。

1 つのラックキャビネットに FLORA bd を最大 6 台搭載する場合、内蔵 LAN スイッチモジュールの搭載数により必要となるスイッチング HUB のポート数は次のとおりです。

- 内蔵 LAN スイッチモジュール 1 台：最小 6 ポート
- 内蔵 LAN スイッチモジュール 2 台：最小 12 ポート
- 内蔵 LAN スイッチモジュール 4 台：最小 24 ポート

電源コードの接続

FLORA bd の電源モジュールに 3 本または 5 本の電源コードを接続すると、FLORA bd の電源が入ります。必要となる電源モジュール数は、クライアントモジュールの搭載数により異なります。詳細は「[FLORA bd のモジュール搭載](#)」P.24 をご参照ください。

コンセントは、AC100V 接続の場合 2 極接地極付の AC100V が必要です。
また、AC200V 接続の場合 2 極接地極付の AC200V が必要です。

電源コードは、AC100V 接続用として 1 種類、AC200V 接続用として 2 種類あります。
FLORA bd を接続する環境に合わせ選択してください。

形名	仕様
GX-AR7100VB	AC100V 用、1.5m
GX-AR7200VA	AC200V 用、2.5m
GX-AR7200VB	AC200V 用、0.9m

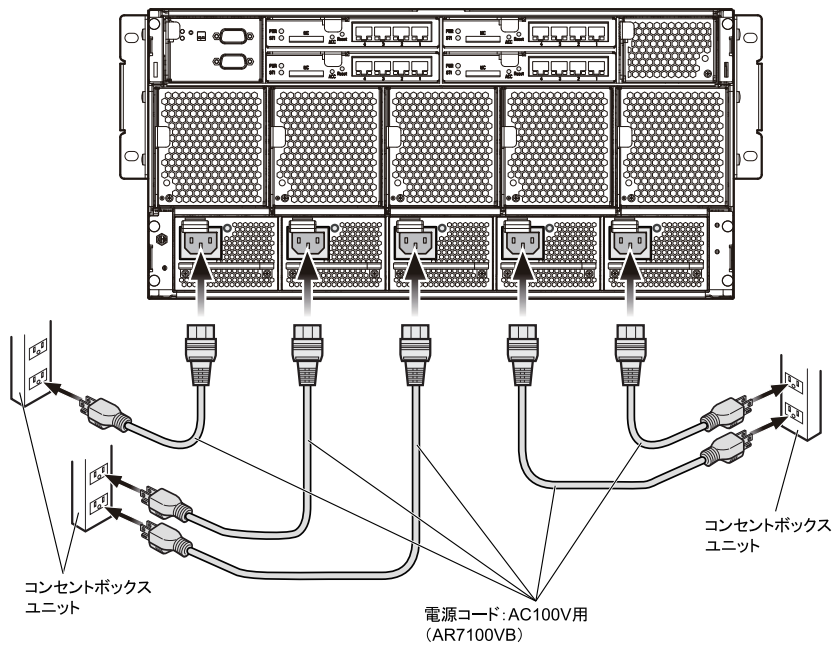


- 電源コードはコンセントボックスユニットに接続してください。商用電源のコンセントに直接接続しないでください。
- AC100V 接続の場合、1 台のコンセントボックスユニットに 3 本以上の FLORA bd の電源コードを接続しないでください。コンセントボックスユニットの定格電流をオーバーするおそれがあります。
- FLORA bd またはコンセントボックスユニットから電源プラグを抜いた場合、30 秒以上経過してから再接続してください。これを行わないと、FLORA bd が起動しないことがあります。
- 1 台の FLORA bd に AC100V と AC200V の混在接続はしないでください。正常に動作しません。

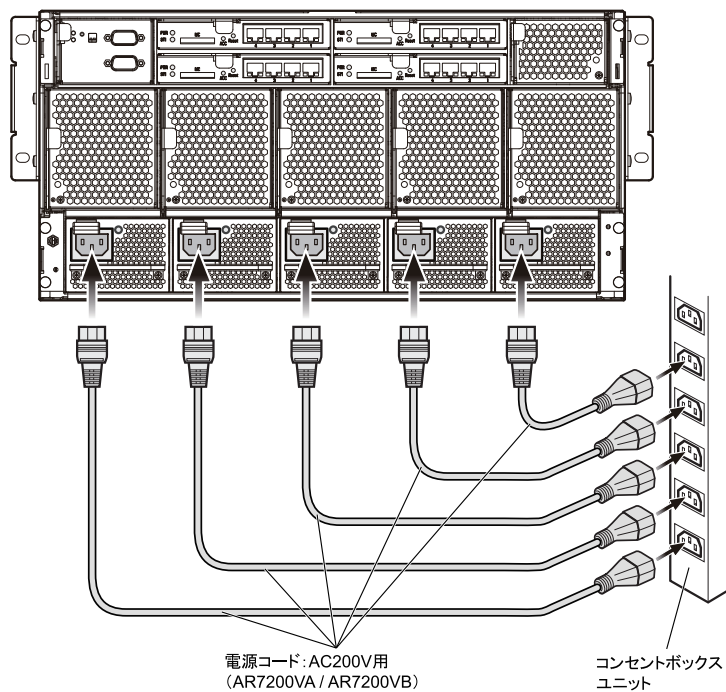


電源コードのプラグ形状や必要となるコンセント形状は、「[コンセントについて](#)」P.6 をご参照ください。

[AC100V 接続]



[AC200V 接続]

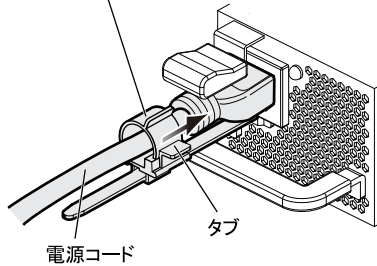


・・・
補足

電源モジュールがショートモードで故障した場合、コンセントボックスユニットのブレーカが作動し、コンセントボックスユニット全体の電源が遮断されます。FLORA bd の電源断を回避するには、電源コードを複数のコンセントボックスユニットに分散させる必要があります。

電源コードは脱落防止のため、FLORA bd に接続したあと電源モジュールにあるケーブルクランプで固定します。ケーブルクランプは電源コードを固定したあと、電源プラグの方向に押し込みます。

ケーブルクランプ：
取り外すときはタブを押しながら引き抜きます。



電源コードとコンセントボックスユニットの接続構成

FLORA bd の電源コードとコンセントボックスユニットは次のとおり接続してください。

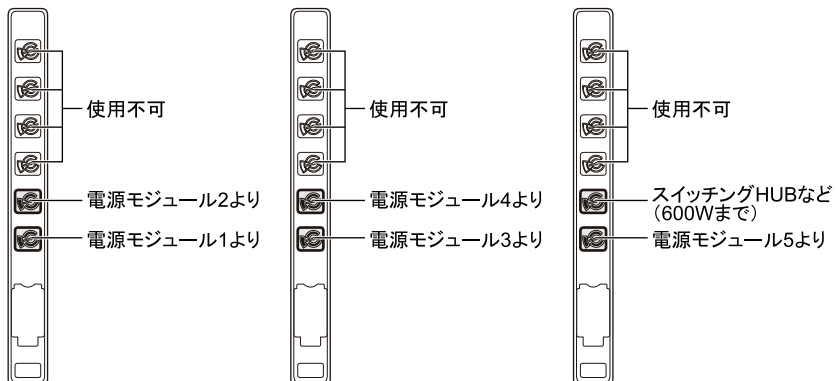


コンセントボックスユニットの出力定格を超えて接続しないでください。ブレーカが作動し給電されません。

■ AC100V 接続の場合

コンセントボックスユニット (GH-AG7107) 1 台に対して、FLORA bd の電源コードは 2 本までとします。

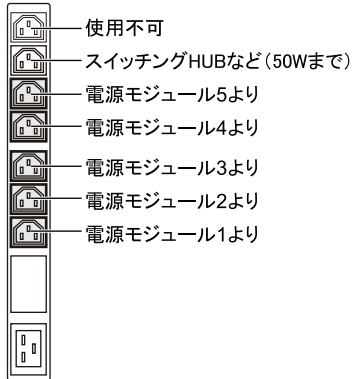
- ◆ 電源モジュール 1 台あたりの最大電流：約 6A
(電源モジュール 1 台が故障した場合 4 台動作となり、最大約 7.4A になります)
- ◆ コンセントボックスユニット (GH-AG7107) の出力定格：15A



■ AC200V 接続の場合

コンセントボックスユニット (GV-AG1207) 1 台に対して、FLORA bd の電源コードは 5 本まで (FLORA bd1 ユニット単独) とします。

- ◆ 電源モジュール 1 台あたりの最大電流：約 3A
(電源モジュール 1 台が故障した場合 4 台動作となり、最大約 3.7A になります)
- ◆ コンセントボックスユニット (GV-AG1207) の出力定格：16A



電源を入れる・切る

ここでは、クライアントモジュールの電源の入れかたと切りかたについて説明します。

通知

電源操作は決められた手順にしたがって行ってください。決められた手順にしたがわずに電源を入れたり切ったりすると、クライアントモジュールの故障やデータの消失の原因となります。

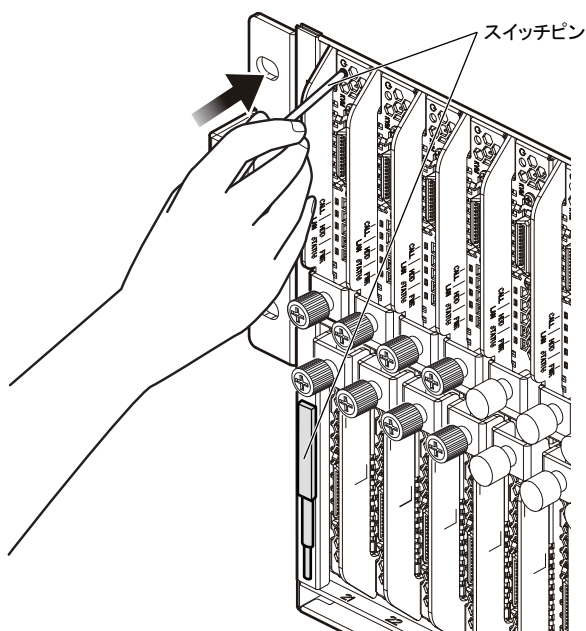


電源を切ってから入れるまで、または電源を入れてから切るまでは30秒間以上、間隔を空けてください。クライアントモジュールが起動しないことがあります。

電源を入れる

電源を入れる前に、使用している電源コードに合わせて、コンセントやコンセントボックスユニットにAC100VまたはAC200Vが給電されていることをご確認ください。

- 1 KVM ケーブルに接続したディスプレイなどの周辺機器の電源を入れます。
- 2 フロントパネルの電源（PWR）ランプが橙色に点灯したあと、フロントパネルの電源スイッチを付属のスイッチピンで4秒未満押しします。



通知

電源スイッチは、添付のスイッチピンを使用して、ゆっくり押してください。添付以外のものを使用したり乱暴に行ったりすると、クライアントモジュールの故障の原因となります。

補足

- スイッチピンは大事に保管してください。シャーシにはスイッチピンを固定する穴があいています。ご購入時には、ここに取り付けられています。
- クライアントモジュールスロット 1～20（上段）と、21～40（下段）に搭載するクライアントモジュールの向きは、上下逆になります。

- 3 はじめて電源を入れたときには、『ソフトウェアガイド』を参照し、初期設定を行います。

電源を切る

ここでは、ハードウェアによる電源の切りかたについて説明します。

OS（ソフトウェア）による電源の切りかたについては、『ソフトウェアガイド』「1 クライアントモジュールをはじめて使うときは」「電源を入れ直す」をご参照ください。

通知

シャットダウン処理を行う必要がある OS をご使用の場合、シャットダウン処理が終了してから電源を切ってください。データを消失するおそれがあります。なお、OS により電源を切る手順が異なりますので、OS に添付されるマニュアルもあわせてご参照ください。

制限

周辺機器によっては、FLORA bd よりも前に電源を切る必要がある場合があります。詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご参照ください。

- 1 フロントパネルの電源（PWR）ランプが緑色に点灯していることを確認し、電源スイッチを付属のスイッチピンで 4 秒未満押しします。

電源が切れると、フロントパネルの電源（PWR）ランプが橙色に変わります。

補足

OS をシャットダウンして終了した場合、電源も切れます。ここでの操作は必要ありません。

□ 強制的に電源を切る

OS が正常に作動しなくなったときなど、クライアントモジュールのシャットダウン処理／パワーダウン処理が正しくできないことがあります。この場合、電源スイッチを付属のスイッチピンで4秒以上押し、電源を切ることができます。

なお、強制的に電源を切った場合は、その後 OS・アプリケーションが正常に動作しなかったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。このような場合、OS・アプリケーションの再セットアップや、バックアップデータからの復旧を行ってください。

4

FLORA bd 内蔵オプション の増設

この章では、FLORA bd にクライアントモジュールおよびオプションの内蔵機器を取り付ける方法と、クライアントモジュールにオプションのメモリーボードを取り付ける方法を説明します。

クライアントモジュールを取り付ける	40
メモリーボードを取り付ける	46
内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付ける	50
電源モジュールを取り付ける	54

クライアントモジュールを取り付ける

ここでは、FLORA bd ベースユニットにクライアントモジュールを取り付ける方法を説明します。

クライアントモジュールについて

FLORA bd500X7 のクライアントモジュールは次の 4 種類です。

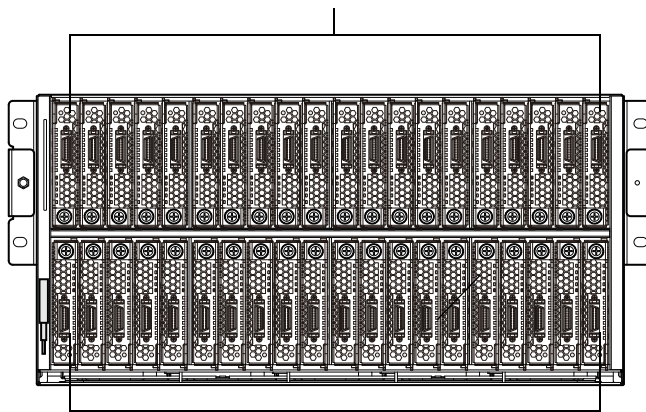
- Celeron プロセッサ 585 モデル：GX*50*X7-4***NN*
- Celeron プロセッサ 900 モデル：GX*50*X7-9***NN*
- Core 2 Duo プロセッサ P8600 モデル：GX*50*X7-5***NN*
- Core 2 Duo プロセッサ P9600 モデル：GX*50*X7-6***NN*

: "" は任意の英数字

取り付け位置

クライアントモジュールは、FLORA bd ベースユニット前面のクライアントモジュールスロットに取り付けます。

クライアントモジュールスロット 1～20
(左から 1、2、… 20)



クライアントモジュールスロット 21～40
(左から 21、22、… 40)



FLORA bd ベースユニットに搭載するクライアントモジュール数および使用する LAN ポートにより、内蔵 LAN スイッチモジュールおよび電源モジュールの必要数が異なります。詳細は「[FLORA bd のモジュール搭載](#)」 P.24 をご参照ください。

クライアントモジュールの増設により、内蔵 LAN スイッチモジュールおよび電源モジュールの増設も必要となる場合があります。

→ 「[内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付ける](#)」 P.50、
「[電源モジュールを取り付ける](#)」 P.54

クライアントモジュールの取り付け手順

クライアントモジュールスロット 1、21 にクライアントモジュールを取り付ける手順を説明します。クライアントモジュールは、FLORA bd ベースユニットが通電された状態において増設することができます。

⚠ 注意

- ダミーモジュールを取り外した状態では使用しないでください。ダミーモジュールがない状態で動作中に空きスロットへ手を入れると、感電やけがの原因となります。また、冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。
- 装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。綿手袋がない場合は十分注意して触れてください。

通知

- クライアントモジュールやメモリーボードを取り扱う場合は、金属製のドアノブなどに触れて静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないで電子部品に触れると装置の故障の原因となります。
- クライアントモジュールに搭載されたハードディスクは精密機械です。振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、クライアントモジュールを移設するときは電源を切り、30秒以上待ってからクライアントモジュールを取り外してください。取り扱いを誤ると、ハードディスク故障の原因となります。
- クライアントモジュールは、スロット奥側にある CPU ヒートシンク側に重心が集中しています。レバーだけを持って引き抜くとクライアントモジュールが落下し、破損するおそれがあります。レバーを持って半分ほど引き出したあと、クライアントモジュールの中央部下側を支えながら引き抜いてください。
- クライアントモジュールを FLORA bd ベースユニットが通電された状態で増設や移設する場合、搭載されているほかのクライアントモジュールに振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、動作しているクライアントモジュールを誤って取り外さないようご注意ください。クライアントモジュールの故障やデータ消失の原因となります。



クライアントモジュールのジャンパーピン設定は変更しないでください。正常に動作しない原因となります。

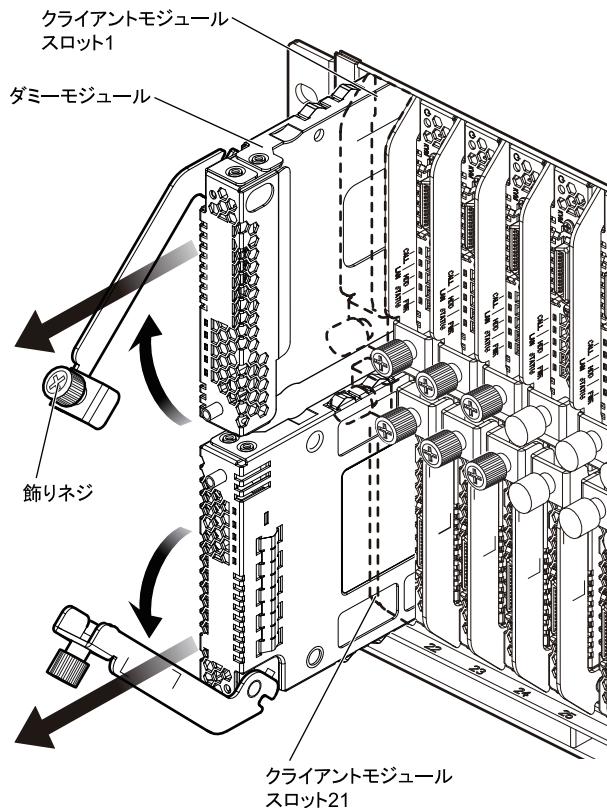
取り付け手順のイラストは、クライアントモジュールスロット 1、21 の作業を両方説明するため、同時に作業を行っているように記載していますが、実際は1スロットずつ作業を行ってください。FLORA bd ベースユニットの冷却効率が悪くなります。



クライアントモジュールスロット 1～20 (上段) と、21～40 (下段) に搭載するクライアントモジュールの向きは、上下逆になります。

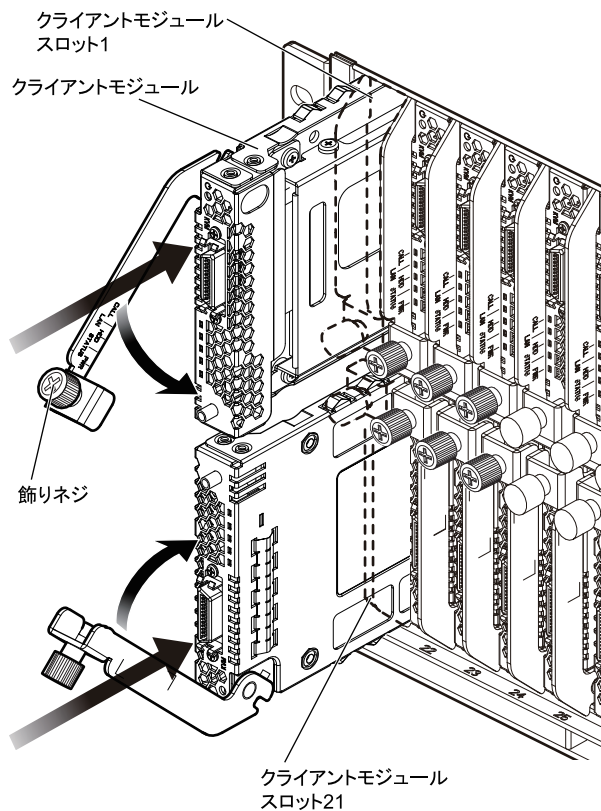
- 1 クライアントモジュールを取り付けるクライアントモジュールスロットに搭載されているダミーモジュールを取り外します。

ダミーモジュール前面の飾りネジをゆるめ、レバーを手前に起こしてロックを外します。そのあと、レバーを持って半分ほど引き出したあと、ダミーブラケット本体を支えながら引き抜きます。



取り外したダミーモジュールは紛失しないように保管してください。クライアントモジュールを移設する際に、取り外したダミーモジュールが必要となります。

- 2 取り付けるクライアントモジュール前面の飾りネジをゆるめ、レバーを開いた状態でクライアントモジュールスロットに差し込み、止まったところでレバーを閉じて飾りネジを締めます。



…
補足

クライアントモジュールを取り付けると、電源が入る場合があります。→「電源を入れる・切る」P.35

- 3 FLORA bd に電源コードを接続していない場合、電源コードを接続し、さらにコンセントボックスユニットへ接続します。→「電源コードの接続」P.31
- 4 クライアントモジュールの電源ランプが橙点灯しているか確認します。

電源ランプが橙点灯しない場合は、クライアントモジュールがしっかり取り付けられているか確認してください。取り付けられていなければクライアントモジュールをいったん取り外し（「クライアントモジュールの取り外し手順」P.44）、再度手順 2 からやり直してください。

しっかり取り付けられているにもかかわらず橙点灯しない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

以上でクライアントモジュールの取り付けは終了です。

クライアントモジュールの取り外し手順

クライアントモジュールを取り外す手順を説明します。

クライアントモジュールを取り外すのは、クライアントモジュールへのメモリーボード増設と、クライアントモジュールの他の FLORA bd ベースユニットへの移設をする場合のみです。

⚠ 注意

- ダミーモジュールを取り外した状態では使用しないでください。ダミーモジュールがない状態で動作中に空きスロットへ手を入れると、感電やけがの原因となります。また、冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。
- 装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。綿手袋がない場合は十分注意して触れてください。

通知

- クライアントモジュールやメモリーボードを取り扱う場合は、金属製のドアノブなどに触れて静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないで電子部品に触れると装置の故障の原因となります。
- クライアントモジュールに搭載されたハードディスクは精密機械です。振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、クライアントモジュールを移設するときは電源を切り、30秒以上待ってからクライアントモジュールを取り外してください。取り扱いを誤ると、ハードディスク故障の原因となります。
- クライアントモジュールを FLORA bd ベースユニットが通電された状態で増設や移設する場合、搭載されているほかのクライアントモジュールに振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、動作しているクライアントモジュールを誤って取り外さないようご注意ください。クライアントモジュールの故障やデータ消失の原因となります。
- クライアントモジュールの移設などでクライアントモジュールを取り外す際は、別のクライアントモジュールまたはダミーモジュールを取り付けてください。冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。



制限

クライアントモジュールのジャンパーピン設定は変更しないでください。正常に動作しない原因となります。

取り付け手順のイラストは、クライアントモジュールスロット 1、21 の作業を両方説明するため、同時に作業を行っているように記載していますが、実際は1スロットずつ作業を行ってください。FLORA bd ベースユニットの冷却効率が悪くなります。



補足

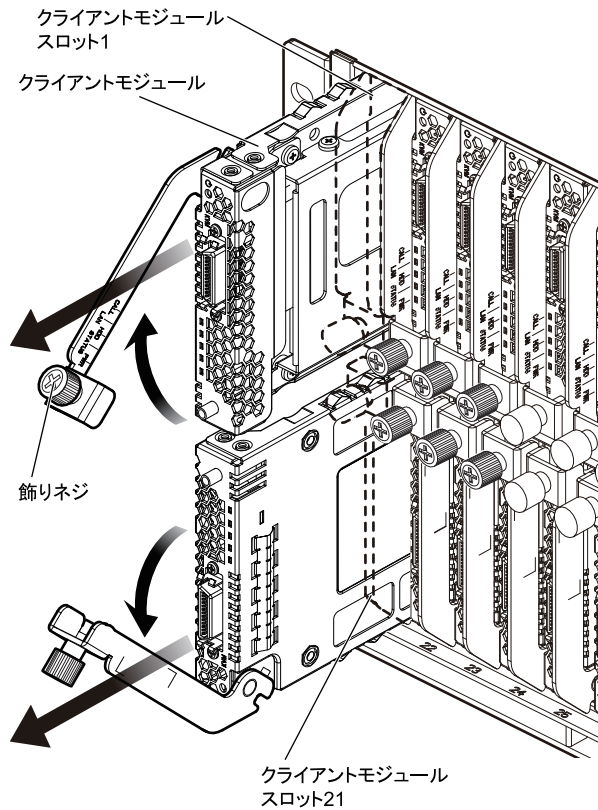
クライアントモジュールスロット 1～20 (上段) と、21～40 (下段) に搭載するクライアントモジュールの向きは、上下逆になります。

- 1 取り外すクライアントモジュールの電源を切ります。→ 「電源を切る」 P.36
- 2 電源を切ったあと、30 秒以上待ちます。

- 3 クライアントモジュールにディスプレイ・キーボードなどが接続されている場合、KVM ケーブルを外します。→「ディスプレイ・キーボードなどの接続」P.25
- 4 クライアントモジュール前面の飾りネジをゆるめ、レバーを手前に起こしてロックを外します。
- 5 レバーを持って半分ほど引き出したあと、クライアントモジュールの中央部下側を支えながら引き抜きます。

通知

クライアントモジュールは、スロット奥側にある CPU ヒートシンク側に重心が集中しています。レバーだけを持って引き抜くとクライアントモジュールが落下し、破損するおそれがあります。レバーを持って半分ほど引き出したあと、クライアントモジュールの中央部下側を支えながら引き抜いてください。



以上でクライアントモジュールの取り外しは終了です。

メモリーボードを取り付ける

ここでは、クライアントモジュールにメモリーボードを取り付ける方法を説明します。

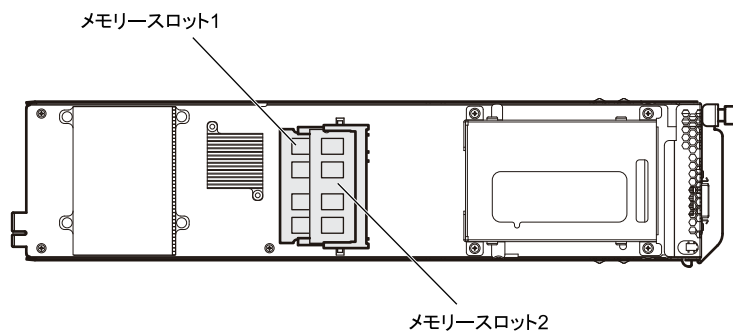
メモリーボードについて

FLORA bd500X7のクライアントモジュールに取り付けられるメモリーボードは次の2種類です。

形名	メモリー容量
MK701GCBA	1024MB
MK702GCBA	2048MB

取り付け位置

メモリーボードは、クライアントモジュール上のメモリースロットに取り付けます。メモリースロットは2つあり、工場出荷時メモリースロット1にはメモリーボードが搭載されています。



・・・
補足

出荷時構成によっては、既にメモリースロット2にもメモリーボードが搭載されています。

出荷時構成により、メモリースロット2に増設可能なメモリーボードは次のとおりです。

メモリー容量		搭載メモリーボード	
出荷時	増設後	メモリースロット1 (標準)	メモリースロット2 (増設)
1024MB	2048MB	1024MB	1024MB (MK701GCBA)
1024MB	3072MB	1024MB	2048MB (MK702GCBA)
2048MB	3072MB	2048MB	1024MB (MK701GCBA)
2048MB	4096MB	2048MB	2048MB (MK702GCBA)



制限

2GB を超える物理メモリーを搭載した場合、サウンドレコーダーを使用して .wav ファイルを録音するとエラーが表示されることがあります。詳細は次の URL をご参照ください。

- 「サウンドレコーダーで .wav ファイルの録音時にエラーメッセージ「メモリ不足のためこの操作を実行できません」が表示される」
<http://support.microsoft.com/kb/284893/ja>

メモリーボードの取り付け手順

クライアントモジュールのメモリースロット 2 にメモリーボードを取り付ける手順を説明します。

注意

- 電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。装置内部品の追加・交換は約 10 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因となります。
- 装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。綿手袋がない場合は十分注意して触れてください。

通知

- クライアントモジュールやメモリーボードを取り扱う場合は、金属製のドアノブなどに触れて静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないで電子部品に触れると装置の故障の原因となります。
- クライアントモジュールに搭載されたハードディスクは精密機械です。振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、クライアントモジュールを移設するときは電源を切り、30 秒以上待ってからクライアントモジュールを取り外してください。取り扱いを誤ると、ハードディスク故障の原因となります。
- クライアントモジュールを FLORA bd ベースユニットが通電された状態で増設や移設する場合、搭載されているほかのクライアントモジュールに振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。また、動作しているクライアントモジュールを誤って取り外さないようご注意ください。クライアントモジュールの故障やデータ消失の原因となります。



制限

クライアントモジュールのジャンパーピン設定は変更しないでください。正常に動作しない原因となります。



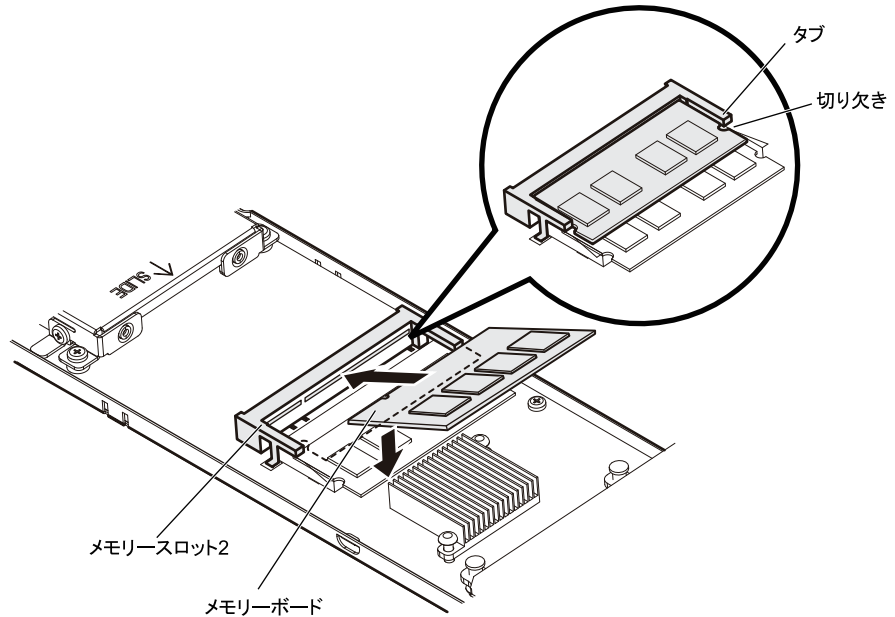
補足

メモリースロット 1 に取り付けられているメモリーボードを取り外す必要はありません。

- 1 メモリーボードを取り付けるクライアントモジュールを FLORA bd ベースユニットから取り外します。→ 「クライアントモジュールの取り外し手順」 P.44

- 2 メモリスロット2に対し、メモリーボードのコネクタエッジの切り欠き位置を合わせて、メモリーボードのコネクタエッジを上から斜めに差し込み、押し込んでロックします。

ロックしたとき、メモリーボードの切り欠きとメモリスロットコネクタのタブの位置が合っていることを確認してください。合っていない場合、両側のタブを外側に押し開いてロックを解除し、メモリーボードを取り付け直してください。



- 3 クライアントモジュールを FLORA bd ベースユニットに取り付けます。
→ [「クライアントモジュールの取り付け手順」 P.41](#)
- 4 クライアントモジュールにディスプレイ・キーボード・マウスを接続します。
→ [「ディスプレイ・キーボードなどの接続」 P.25](#)
- 5 クライアントモジュールの電源を入れます。→ [「電源を入れる」 P.35](#)
- 6 セットアップメニューを起動します。→ [「起動方法」 P.60](#)
- 7 Main：メインメニューの「System Memory」－「Available」の値を確認します。
クライアントモジュールに搭載しているメモリーボードの総容量から、ディスプレイ機能ほかに割り当てている容量を除いた値となっていれば正しく取り付けられています。もし値が異なる場合はメモリーボードが正しく取り付けられていません。セットアップメニューを終了し（[「終了方法」 P.60](#)）、手順1からやり直してください。
しっかり取り付けられているにもかかわらず値が異なる場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

以上でメモリーボードの取り付けは終了です。

メモリー 4GB 搭載時に使用可能な容量について

クライアントモジュールに 4GB の物理メモリーを搭載した場合でも、次の技術的な理由により、実際に OS で使用可能なメモリー容量は約 3GB に制限されます。

■ メモリーホールによる制限

クライアントモジュールは PCI デバイスが使用するメモリー領域（メモリーリソース）を、アドレス FFFF_FFFFh を先頭とした 4GB 以下のメモリー空間に確保します。PCI デバイス用に確保した領域は OS が使用できないためメモリーホールと呼ばれ、メモリーホールの大きさは約 1GB になります。これにより、3GB を超える物理メモリーを搭載した場合、使用可能メモリー容量が減少します。

詳細は次の URL をご参照ください。

- 「4GB の RAM が搭載されている場合、Windows Vista の [システム情報] ダイアログ ボックスで報告されるシステムメモリが予想より小さい」
<http://support.microsoft.com/kb/929605/ja>
- 「合計 4GB のメモリーを搭載した際に、物理メモリーが少なく表示される。」
http://www.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/4gb_memory_issue.htm

内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付ける

ここでは、FLORA bd ベースユニットに内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付ける方法を説明します。

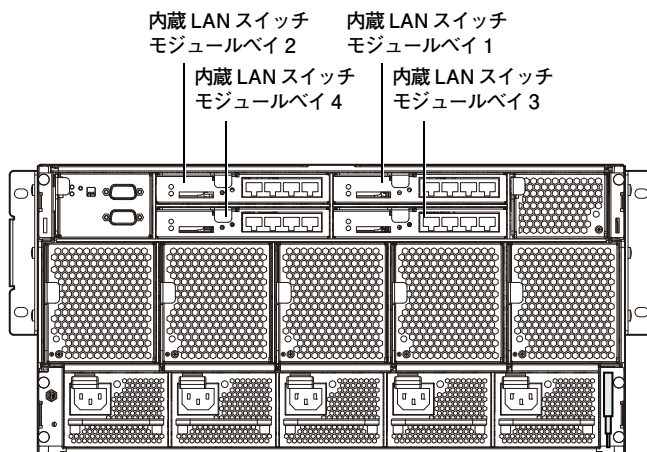
内蔵 LAN スイッチモジュールについて

FLORA bd ベースユニットに取り付けられる内蔵 LAN スイッチモジュールは次の 1 種類です。

形名	仕様
GX-BEX501GL	1Gbps/100Mbps/10Mbps 対応

取り付け位置

内蔵 LAN スイッチモジュールは、FLORA bd ベースユニット背面の内蔵 LAN スイッチモジュールベイに取り付けます。



内蔵 LAN スイッチモジュールの取り付け位置と、クライアントモジュールの LAN ポートは次のとおり対応しています。

内蔵 LAN スイッチモジュールの搭載ベイ	接続されるクライアントモジュールの LAN ポート
1	クライアントモジュールスロット 1～10、21～30 の LAN1
2	クライアントモジュールスロット 11～20、31～40 の LAN1
3	クライアントモジュールスロット 1～10、21～30 の LAN2
4	クライアントモジュールスロット 11～20、31～40 の LAN2

内蔵 LAN スイッチモジュールの取り付け手順

内蔵 LAN スイッチモジュールベイに内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付ける手順を説明します。

⚠ 注意

- 周辺機器や内蔵オプションを増設・接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を FLORA bd から抜いてください。感電や FLORA bd の故障の原因となります。
また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・内蔵オプション・ケーブル・電源コードをご使用ください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器・内蔵オプションや FLORA bd の故障の原因となります。
- ダミーモジュールを取り外した状態では使用しないでください。ダミーモジュールがない状態で動作中に空きスロットへ手を入れると、感電やけがの原因となります。また、冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。
- 電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。装置内部品の追加・交換は約 10 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因となります。
- 装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。綿手袋がない場合は十分注意して触れてください。

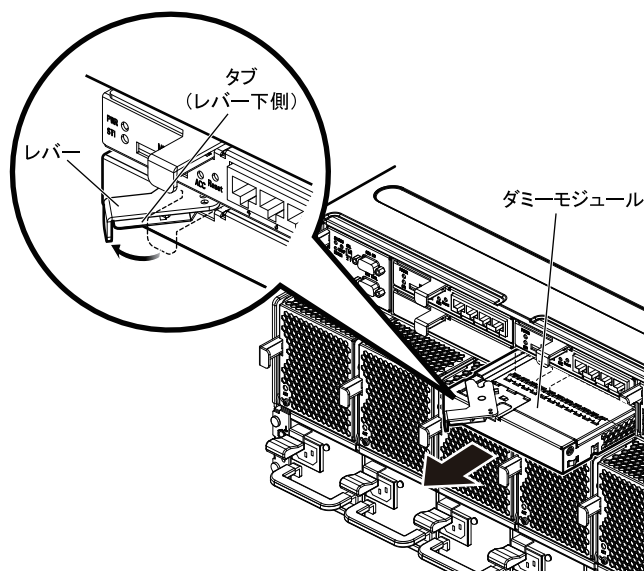
… 補足

ここでは内蔵 LAN スイッチモジュールベイ 3 に取り付ける手順を説明します。その他のベイも同様に取り付けます。

- 1 すべてのクライアントモジュールの電源を切ります。→ 「電源を切る」 P.36
- 2 FLORA bd に接続されている電源コードを、コンセントボックスユニットおよび FLORA bd から抜きます。→ 「電源コードの接続」 P.31
- 3 FLORA bd に接続されている周辺機器のインタフェースケーブルを外します。
→ 「ディスプレイ・キーボードなどの接続」 P.25、 「LAN ケーブルの接続」 P.29

- 4 内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付ける内蔵 LAN スイッチモジュールベイに搭載されているダミーモジュールを取り外します。

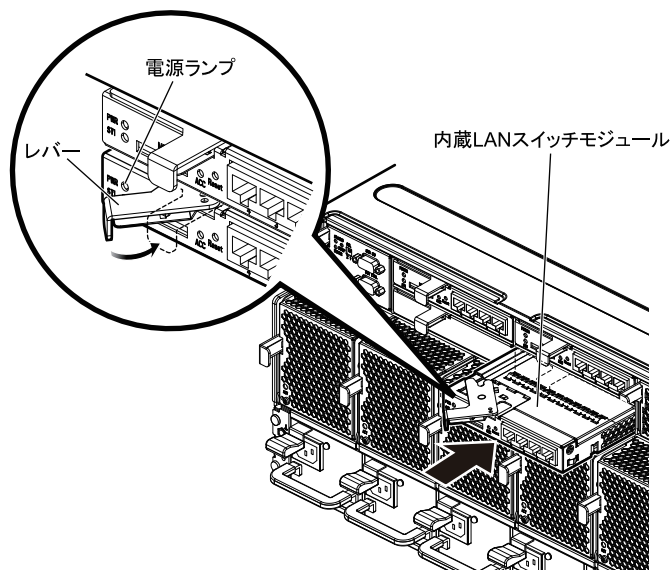
レバー下側にあるタブを押し上げながらレバーを開き、レバーを持って半分ほど引き出したあと、ダミーモジュール本体を支えながら引き抜きます。



補足

取り外したダミーモジュールは紛失しないように保管してください。内蔵 LAN スイッチモジュールを取り外した場合などに必要となります。

- 5 取り付ける内蔵 LAN スイッチモジュールのレバーを開いた状態で内蔵 LAN スイッチモジュールベイに差し込み、押し込んだあとレバーを閉じてロックします。





内蔵 LAN スイッチモジュールを取り付けたあと、きちんとロックされているか確認してください。ロックが不完全な場合、内蔵 LAN スイッチモジュールが正しく取り付けられていません。再度取り付け直してください。

- 6 FLORA bd に周辺機器のインタフェースケーブルを接続します。
→ [「ディスプレイ・キーボードなどの接続」 P.25](#)、[「LAN ケーブルの接続」 P.29](#)
- 7 FLORA bd に電源コードを接続し、コンセントボックスユニットへ接続します。
→ [「電源コードの接続」 P.31](#)
- 8 内蔵 LAN スイッチモジュールの電源ランプが緑点灯しているか確認します。
電源ランプが緑点灯しない場合は、内蔵 LAN スイッチモジュールがしっかりと取り付けられているか確認し、取り付けられていなければ手順 1 からやり直してください。しっかり取り付けられているにもかかわらず緑点灯しない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

以上で内蔵 LAN スイッチモジュールの取り付けは終了です。

電源モジュールを取り付ける

ここでは、FLORA bd ベースユニットに電源モジュールを取り付ける方法を説明します。

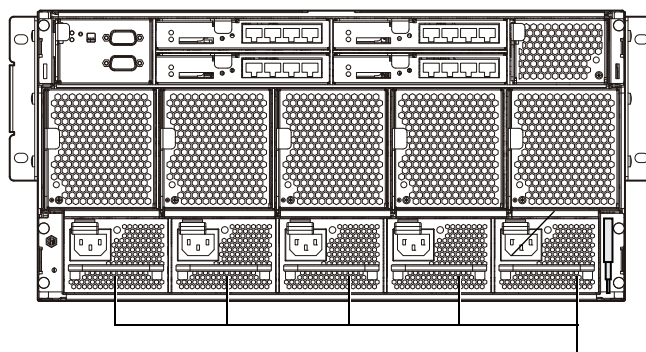
電源モジュールについて

FLORA bd ベースユニットに取り付けられる電源モジュールは次の 1 種類です。

形名	仕様
GX-BPX5011	AC100V/AC200V 対応、750W

取り付け位置

電源モジュールは、FLORA bd ベースユニット背面の電源モジュールベイに取り付けます。



電源モジュールベイ 1～5
(左から 5、4、…1)

電源モジュールは、搭載されるクライアントモジュール数により、次のとおり標準搭載されません。

搭載されるクライアントモジュール数	標準搭載される電源モジュール数 (標準搭載される電源モジュールベイ)
1～20	3 (電源モジュールベイ 1～3)
21～40	5 (電源モジュールベイ 1～5)

電源モジュールは、搭載数が 3 台のときは「2 + 1 台」で、5 台のときは「4 + 1 台」で冗長構成されます。

…
補足

電源コードは電源モジュール 1 台につき 1 本必要となります。

電源コードは、AC100V 接続用、AC200V 接続用としてそれぞれ 2 種類あります。→「[電源コードの接続](#)」P.31

電源モジュールの取り付け手順

電源モジュールベイに電源モジュールを取り付ける手順を説明します。

電源モジュールは冗長構成となるように搭載します。

- クライアントモジュール数が 20 台以下の場合：必要電源モジュール数 3 台
- クライアントモジュール数が 21 台以上の場合：必要電源モジュール数 5 台

⚠ 注意

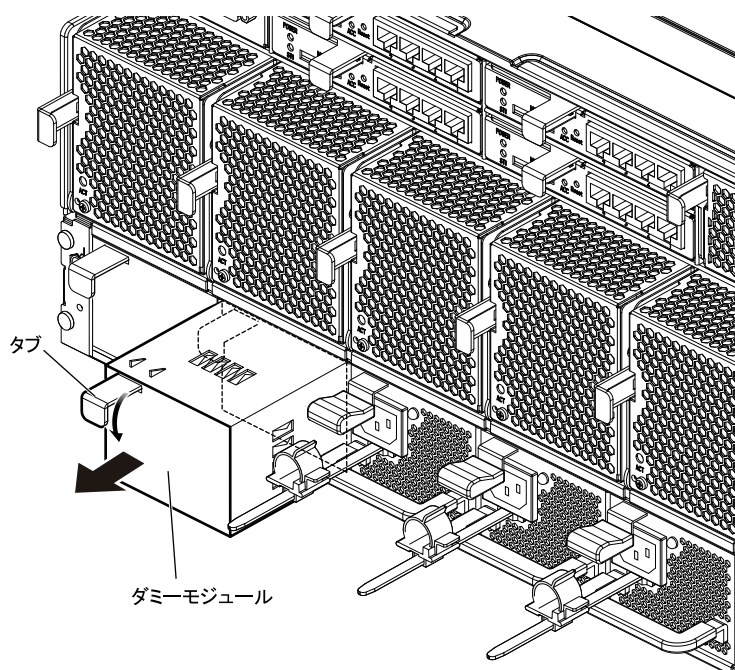
- 周辺機器や内蔵オプションを増設・接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を FLORA bd から抜いてください。感電や FLORA bd の故障の原因となります。
また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・内蔵オプション・ケーブル・電源コードをご使用ください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器・内蔵オプションや FLORA bd の故障の原因となります。
- ダミーモジュールを取り外した状態では使用しないでください。ダミーモジュールがない状態で動作中に空きスロットへ手を入れると、感電やけがの原因となります。また、冷却効果低下などによる装置の故障の原因となります。
- 電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。装置内部品の追加・交換は約 10 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因となります。
- 装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。綿手袋がない場合は十分注意して触れてください。
- 電源モジュールの増設・交換時、手や工具を電源モジュールベイ内部に差し入れないでください。電源モジュールベイ内部には導体が露出した部分があり、万一手や工具などで触れると感電や装置の故障の原因となります。

…
補足

ここでは電源モジュールベイ 4 に取り付ける手順を説明します。その他のベイも同様に取り付けます。

- 1 すべてのクライアントモジュールの電源を切ります。→「電源を切る」P.36
- 2 FLORA bd に接続されている電源コードを、コンセントボックスユニットおよび FLORA bd から抜きます。→「電源コードの接続」P.31
- 3 FLORA bd に接続されている周辺機器のインタフェースケーブルを外します。
→「ディスプレイ・キーボードなどの接続」P.25、「LAN ケーブルの接続」P.29
- 4 電源モジュールを取り付ける電源モジュールベイに搭載されているダミーモジュールを取り外します。

タブを持ち、タブを押し下げながら半分ほど引き出したあと、ダミーモジュール本体を支えながら引き抜きます。

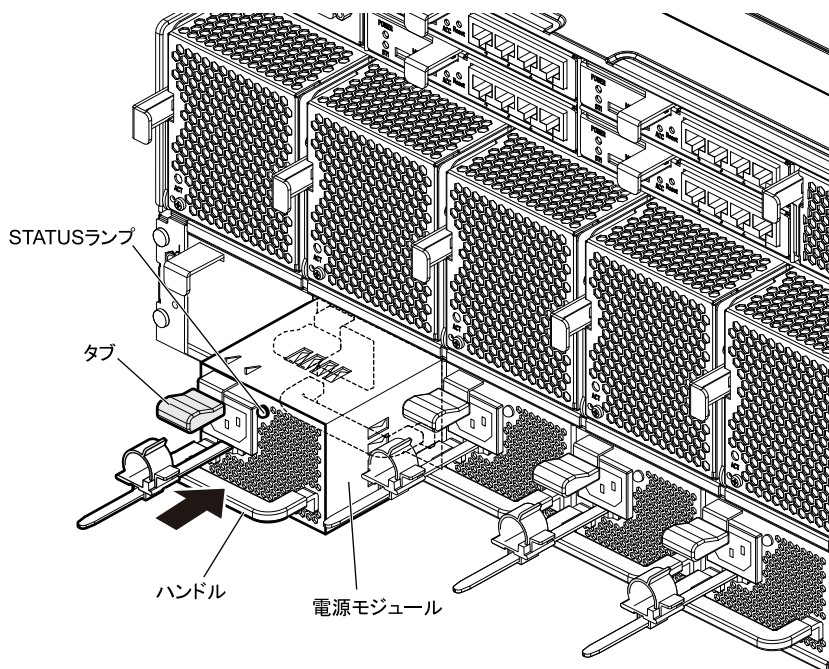


・・・
補足

取り外したダミーモジュールは紛失しないように保管してください。電源モジュールを取り外した場合などに必要となります。

- 5 電源モジュールを電源モジュールベイに差し込み、ハンドルを持って、タブがロックされるまで押し込みます。

カチッと音がするまで押し込んでください。



制限

電源モジュールを取り付けたあと、きちんとロックされているか確認してください。ロックが不完全な場合、電源モジュールが正しく取り付けられていません。再度取り付け直してください。

- 6 FLORA bd に周辺機器のインターフェースケーブルを接続します。
→ [「ディスプレイ・キーボードなどの接続」 P.25](#)、[「LAN ケーブルの接続」 P.29](#)
- 7 FLORA bd に電源コードを接続し、コンセントボックスユニットへ接続します。
→ [「電源コードの接続」 P.31](#)
- 8 電源モジュールの STATUS ランプが緑点滅しているか確認します。

STATUS ランプが緑点滅しない場合は、電源モジュールがしっかりと取り付けられているか確認し、取り付けられていなければ手順 1 からやり直してください。しっかり取り付けられているにもかかわらず緑点滅しない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

以上で電源モジュールの取り付けは終了です。

5

BIOS の設定

この章では、BIOS の設定項目の内容について説明します。

セットアップメニュー	60
パスワードで保護する	84
BIOS の設定値について.....	91

セットアップメニュー

セットアップメニューでは、クライアントモジュールの BIOS の設定を行います。

セットアップメニューの起動・終了

□ 起動方法

セットアップメニューは次の方法で起動します。

- 1 クライアントモジュールの電源を入れます。
- 2 クライアントモジュール起動中、画面下部に「Press DEL to enter SETUP, F12 to enter BOOT MENU」と表示されたら、[Delete] キーを押します。

セットアップメニューが起動し、メインメニューが表示されます。

キーの入力が間に合わず OS が起動した場合は、クライアントモジュールを再起動させてください。OS 終了時にシャットダウンなどの操作が必要です。

□ 終了方法

セットアップメニューは次の方法で終了します。

- 1 [F10] キーを押します。
設定内容を保存する確認のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?

- 2 [OK] を選択し [Enter] キーを押します。
セットアップメニューの内容が更新・保存され、クライアントモジュールが再起動されます。
変更した内容を保存しない場合は [Esc] キーを押します。

…
補足

セットアップメニューの変更を保存せず終了する場合は [Esc] キーを 1 回から数回押し、次の確認メッセージが表示されたら [OK] を選択し [Enter] キーを押します。

Discard changes and exit setup?

セットアップメニューのキー操作

セットアップメニューでは、次のキー操作で各項目を設定します。

キー	働き
[←]、[→]	セットアップメニューの画面を選択する。
[↑]、[↓]	メニュー内のカーソルを移動させる。
[+]、[-]	値を変更する。
[Enter]	<ul style="list-style-type: none"> サブメニューを表示させる。 コマンドを実行する。 設定値を決定し、次へ進む。
[PageUp]、 [PageDown]	メニュー画面を上下に移動させる。
[Home]、[End]	メニュー内のカーソルを画面の上下端に移動させる。
[F1]	キー操作の説明画面を表示する。
[F7]	セットアップメニューの設定値を以前の値に戻す。
[F9]	セットアップメニューの設定値をデフォルト値に戻す。
[F10]	設定内容を保存し、セットアップメニューを終了する。
[Esc]	<ul style="list-style-type: none"> サブメニューを終了させる。 終了メニューに移動させる。

セットアップメニューの内容

セットアップメニューでは、次の内容が設定できます。

■ Main (メインメニュー)

- ◆ システム情報の確認
- ◆ 内蔵タイマーの日付と時刻の設定

■ Advanced (拡張メニュー)

- ◆ CPU の設定
- ◆ 表示 BIOS の設定
- ◆ ハードディスクの設定
- ◆ シリアルポートの設定
- ◆ 瞬停後などの再起動方法の設定
- ◆ PME 起動の設定
- ◆ 内蔵タイマーによる復帰の設定
- ◆ DOS 環境における USB キーボードや USB マウスの有効・無効
- ◆ 高精度タイマーの有効・無効
- ◆ 仮想化技術の有効・無効

■ Server (サーバメニュー)

- ◆ システムイベントログ消去の設定 (使用できません)
- ◆ リモートアクセス制御の設定

■ Security (セキュリティメニュー)

- ◆ 管理者パスワードの設定
- ◆ 使用者パスワードの設定
- ◆ ハードディスクパスワードの設定
- ◆ AUDIO、LAN2 の有効・無効

■ Boot (ブートメニュー)

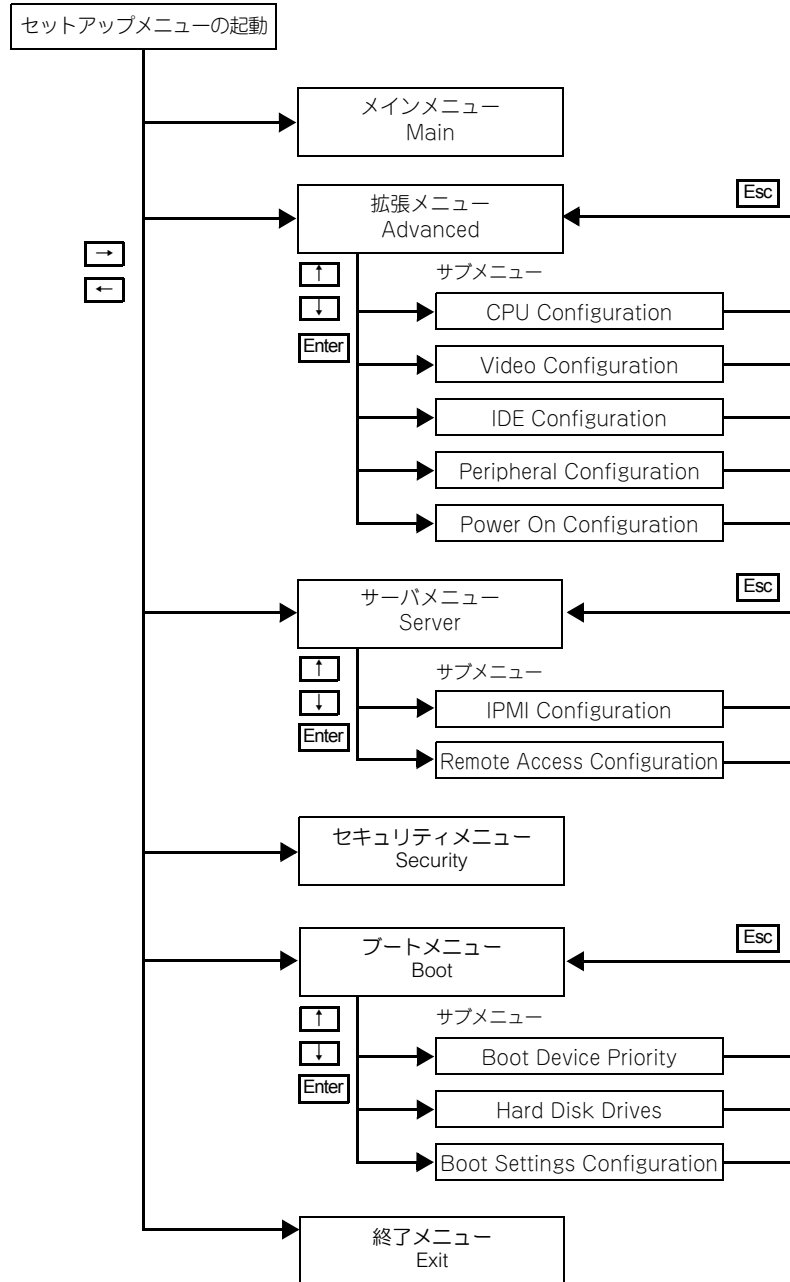
- ◆ 起動デバイスの設定
- ◆ 起動時の自己診断の設定
- ◆ PXE ブートの有効・無効

■ Exit (終了メニュー)

- ◆ セットアップデータの保存と終了
- ◆ セットアップデータを保存せずに終了
- ◆ デフォルト値の設定

セットアップメニューの構成

セットアップメニューは、次のように構成されます。



各メニューへは、矢印キー（[←]、[→]）で移動します。

サブメニューへは、矢印キー（[↓]、[↑]）で移動し、[Enter] キーを押します。

サブメニューから元のメニューへ戻るときは、[Esc] キーを使用します。

セットアップメニューの画面について

セットアップメニューが起動すると、次のメインメニュー画面が表示されます。

BIOS SETUP UTILITY																																										
A	<table border="1"> <tr> <td>Main</td> <td>Advanced</td> <td>Server</td> <td>Security</td> <td>Boot</td> <td>Exit</td> </tr> </table>	Main	Advanced	Server	Security	Boot	Exit																																			
Main	Advanced	Server	Security	Boot	Exit																																					
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">System Overview</td> <td rowspan="2">Use [Enter], [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.</td> </tr> <tr> <td colspan="2">-----</td> </tr> <tr> <td colspan="3">BIOS</td> </tr> <tr> <td>Version</td> <td>xxxx.xxx</td> <td rowspan="2">Use [+] or [-] to configure system Time.</td> </tr> <tr> <td>Build Date</td> <td>xx/xx/xxxx</td> </tr> <tr> <td colspan="3">BMC</td> </tr> <tr> <td>Firmware Version</td> <td>xx.xx</td> <td rowspan="2">B</td> </tr> <tr> <td>Config. Version</td> <td>xxxxxxx</td> </tr> <tr> <td colspan="3">Processor</td> </tr> <tr> <td>Brand</td> <td>xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx</td> <td rowspan="2">←→ Select Screen ↑ ↓ Select Item + - Change Field Tab Select Field F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit</td> </tr> <tr> <td>Speed</td> <td>x.xxGHz</td> </tr> <tr> <td colspan="3">System Memory</td> </tr> <tr> <td>Available</td> <td>xxxxMB</td> <td></td> </tr> <tr> <td>System Time</td> <td>[hh:mm:ss]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>System Date</td> <td>[xxx mm/dd/yyyy]</td> <td></td> </tr> </table>	System Overview		Use [Enter], [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.	-----		BIOS			Version	xxxx.xxx	Use [+] or [-] to configure system Time.	Build Date	xx/xx/xxxx	BMC			Firmware Version	xx.xx	B	Config. Version	xxxxxxx	Processor			Brand	xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx	←→ Select Screen ↑ ↓ Select Item + - Change Field Tab Select Field F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit	Speed	x.xxGHz	System Memory			Available	xxxxMB		System Time	[hh:mm:ss]		System Date	[xxx mm/dd/yyyy]	
System Overview		Use [Enter], [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.																																								

BIOS																																										
Version	xxxx.xxx	Use [+] or [-] to configure system Time.																																								
Build Date	xx/xx/xxxx																																									
BMC																																										
Firmware Version	xx.xx	B																																								
Config. Version	xxxxxxx																																									
Processor																																										
Brand	xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx	←→ Select Screen ↑ ↓ Select Item + - Change Field Tab Select Field F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit																																								
Speed	x.xxGHz																																									
System Memory																																										
Available	xxxxMB																																									
System Time	[hh:mm:ss]																																									
System Date	[xxx mm/dd/yyyy]																																									
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.																																										

A メニュー選択

各設定項目を設定します。メニュー名にカーソルを合わせるとメニューが表示されます。また、メニュー画面の「▶」が表示されている設定項目にカーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューが表示されます。

B メニューガイダンス／キーガイダンス

カーソル位置のメニューの概要が表示されます。また、下部にはキー操作方法が表示されます。

セットアップメニューの設定項目

ここでは、セットアップメニューの設定項目と設定値について説明します。



各設定項目は、推奨値（デフォルト値）以外に設定しないでください。推奨値以外に設定された場合はサポートの対象外となり、正常に動作しないおそれがあります。

□ Main：メインメニュー

BIOS SETUP UTILITY	
Main	Advanced Server Security Boot Exit
System Overview	

BIOS	
A	Version xxx.xxx
	Build Date xx/xx/xxxx
BMC	
	Firmware Version xx.xx
	Config. Version xxxxxxxx
Processor	
	Brand xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
	Speed x.xxGHz
System Memory	
	Available xxxMB
B	System Time [hh:mm:ss]
	System Date [xxx mm/dd/yyyy]
C	LAN1 Address xx.xx.xx.xx.xx
	LAN2 Address xx.xx.xx.xx.xx
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.	

Use [Enter], [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.

Use [+] or [-] to Configure system Time.

←→ Select Screen
 ↑ ↓ Select Item
 + - Change Field
 Tab Select Field
 F1 General Help
 F10 Save and Exit
 ESC Exit

A Version ~ Available

自動でシステム情報を表示します。

B System Time、System Date

内蔵タイマーの日付と時刻を設定します。

- ◆ System Time

hh : mm : ss
ss = “秒” を設定します。
mm = “分” を設定します。
hh = 24 時間制で “時” を設定します。

- ◆ System Date

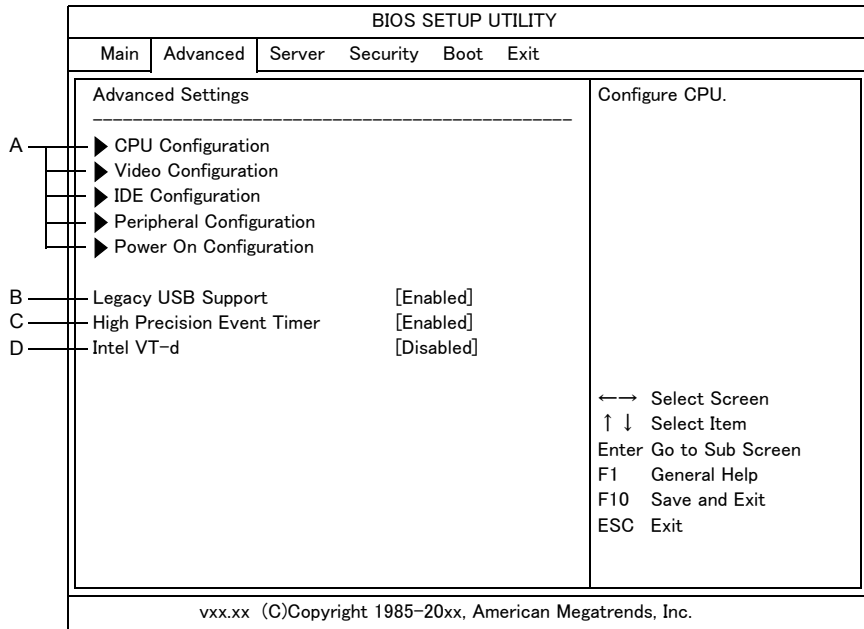
xxx mm dd yyyy
yyyy = 西暦 4 桁で “年” を設定します。
dd = “日” を設定します。
mm = “月” を設定します。
xxx = “曜日” を表示します。

「System Time」「System Date」内でのカーソルの移動には、[Tab] キー、[Enter] キーなどを押してください。

C LAN1 Address、LAN2 Address

自動でシステム情報を表示します。

□ Advanced : 拡張メニュー



A CPU Configuration ~ Power On Configuration

各サブメニューを表示します。

B Legacy USB Support

DOS 環境での USB キーボードや USB マウスの有効/無効を設定します。

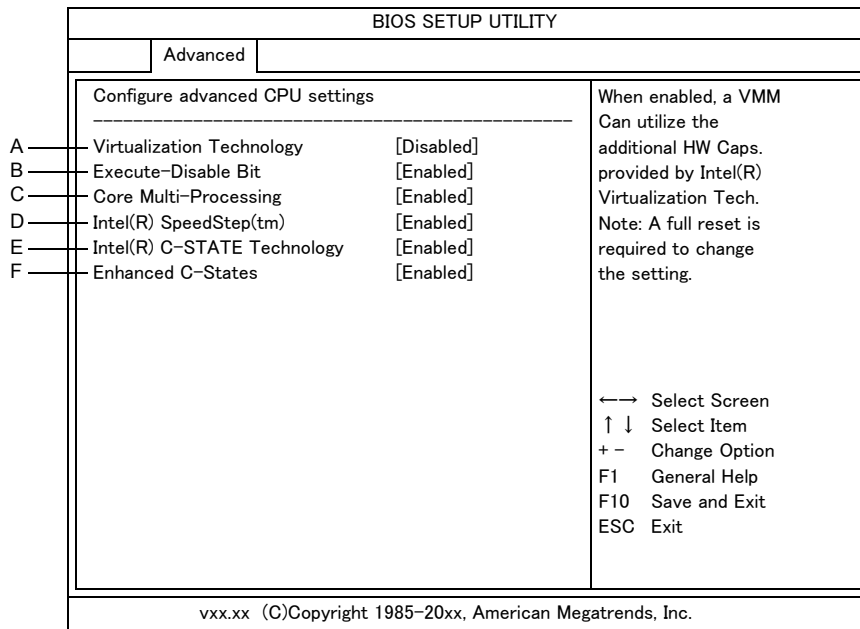
C High Precision Event Timer

高精度イベントタイマーの有効/無効を設定します。設定は変更しないでください。

D Intel VT-d

Virtualization Technology for Directed I/O 機能（仮想化技術）の有効/無効を設定します。Virtualization Technology 機能を有効にしたときに設定することができます。Celeron プロセッサモデルでは変更できません。

CPU Configuration : CPU 設定サブメニュー

**A Virtualization Technology**

Virtualization Technology 機能（仮想化技術）の有効／無効を設定します。
Celeron プロセッサモデルでは表示されません。

B Execute-Disable Bit

データ実行防止（DEP）機能を設定します。

C Core Multi-Processing

マルチコア動作を設定します。
Celeron プロセッサモデルでは表示されません。

D Intel(R) SpeedStep(tm)

Intel SpeedStep テクノロジーの有効／無効を設定します。
Celeron プロセッサモデルでは表示されません。

E Intel(R) C-STATE Technology

Intel C-STATE テクノロジーの有効／無効を設定します。

F Enhanced C-States

拡張 C-STATE の有効／無効を設定します。
Celeron プロセッサモデルでは表示されません。

Video Configuration : Video 設定サブメニュー

BIOS SETUP UTILITY		
Advanced		
Video settings		Select the amount of system memory used by the Internal graphics device.
A	Internal Graphics Mode Select [Enabled, 32MB]	
B	DVMT/FIXED Memory [256MB]	
		←→ Select Screen ↑ ↓ Select Item + - Change Option F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.		

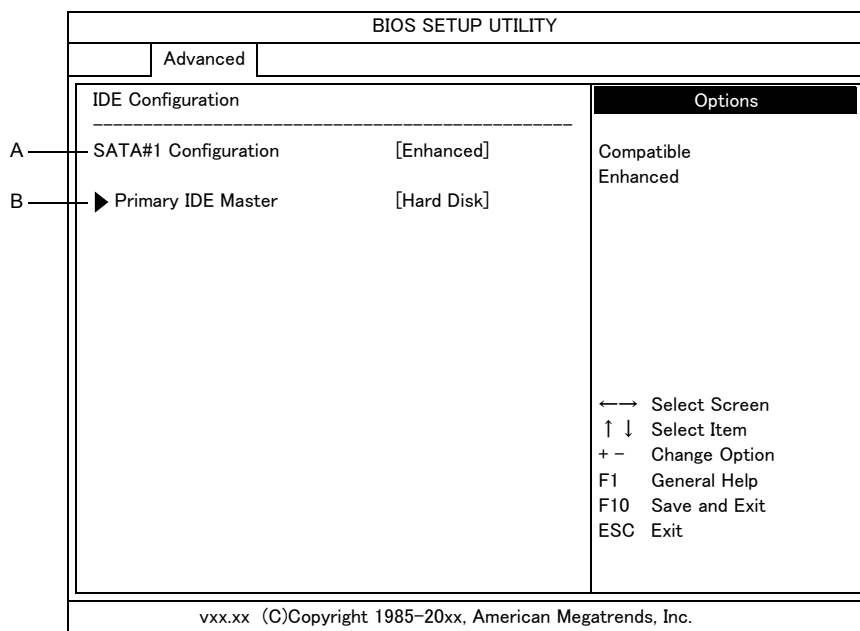
A Internal Graphics Mode Select

メインメモリーからディスプレイ機能に割り当てる最低メモリー容量を設定します。

B DVMT/FIXED Memory

内蔵グラフィック機能に割り当てる最大メモリーサイズを設定します。

IDE Configuration : IDE 設定サブメニュー

**A SATA#1 Configuration**

IDE デバイスの動作モードを設定します。

B Primary IDE Master

ハードディスク設定サブメニューを表示します。

Primary IDE Master : ハードディスク設定サブメニュー

BIOS SETUP UTILITY		
Advanced		
Primary IDE Master		
A	Device :Hard Disk	Select the type of device connected to the system.
	Vendor :xxxxx	
	Size :xxxxx	
	LBA Mode :xxxxx	
	Block Mode :xxxxx	
	PIO Mode :xx	
	Async DMA :xxxxx	
	Ultra DMA :xxxxx	
	S.M.A.R.T. :xxxxx	
B	Type [Auto]	
	LBA/Large Mode [Auto]	↑ ↓ Select Item
	Block (Multi-Sector Transfer) [Auto]	+ - Change Option
	PIO Mode [Auto]	F1 General Help
	DMA Mode [Auto]	F10 Save and Exit
	S.M.A.R.T. [Auto]	ESC Exit
	32Bit Data Transfer [Enabled]	
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.		

A Device ~ S.M.A.R.T.

自動でハードディスク情報を表示します。

B Type ~ 32Bit Data Transfer

ハードディスクの動作を設定します。設定は変更しないでください。

Peripheral Configuration : ペリフェラル設定サブメニュー

BIOS SETUP UTILITY		
	Advanced	
Peripheral Configuration		Allows BIOS to Select Serial Port1 Base Addresses.
A	Serial Port1 Address [3F8]	
B	Serial Port2 Address [2F8]	
←→ Select Screen ↑↓ Select Item +- Change Option F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit		
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.		

A Serial Port1 Address

使用しません。設定は変更しないでください。

B Serial Port2 Address

リモートアクセス制御で使用します。設定は変更しないでください。

Power On Configuration : 電源オン設定サブメニュー

BIOS SETUP UTILITY		
	Advanced	
	Power On Configuration	
A	Restore on AC Power Loss	[Power Off]
B	Resume On PME#	[Enabled]
C	Resume On RTC Alarm	[Disabled]
D	RTC Alarm Date (Days)	[xx]
E	RTC Alarm Time	[xx:xx:xx]
		Options
		Power Off
		Power On
		Last State
		←→ Select Screen
		↑ ↓ Select Item
		+ - Change Option
		F1 General Help
		F10 Save and Exit
		ESC Exit
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.		

A Restore on AC Power Loss

停電などで電源供給が遮断された場合、電源供給が復旧したときの動作を設定します。

B Resume On PME#

LAN1/LAN2 からの受信で起動させるかどうかを設定します。

C Resume On RTC Alarm

電源が切れている状態から、指定した日時で復帰する機能の有効/無効を設定します。

D RTC Alarm Date (Days)

復帰する日付を設定します。

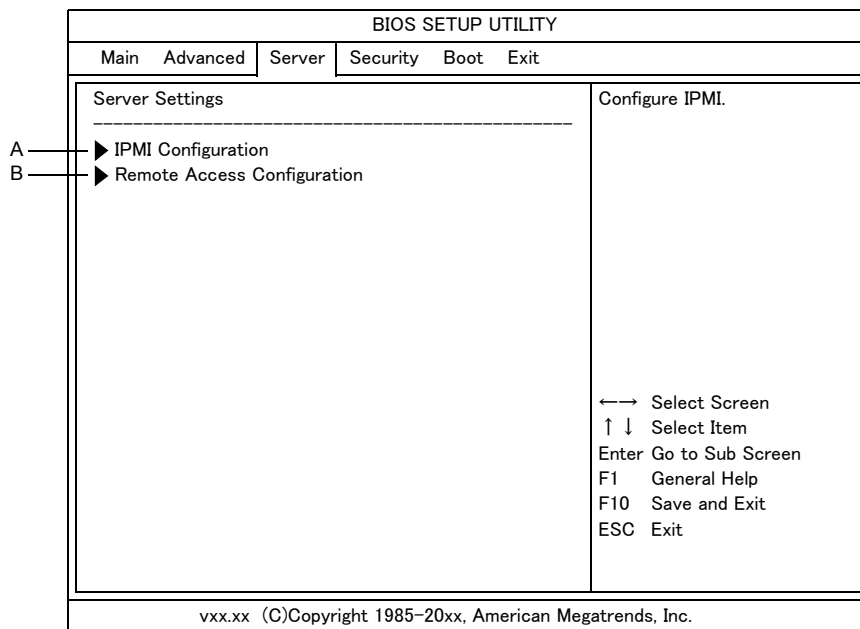
Resume On RTC Alarm を有効にしたときに表示されます。

E RTC Alarm Time

復帰する時刻を設定します。

Resume On RTC Alarm を有効にしたときに表示されます。

□ Server : サーバメニュー



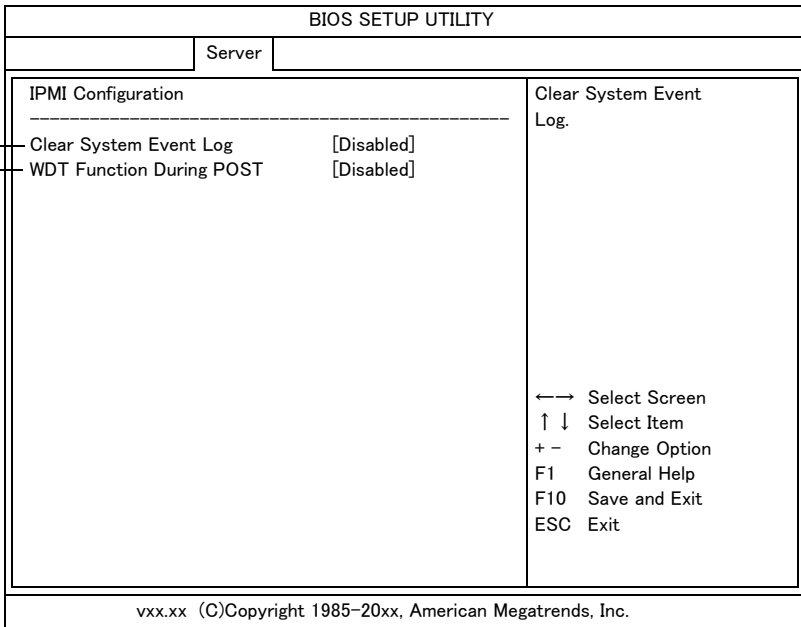
A IPMI Configuration

IPMI 設定サブメニューを表示します。

B Remote Access Configuration

リモートアクセス設定サブメニューを表示します。

IPMI Configuration : IPMI 設定サブメニュー



BIOS SETUP UTILITY	
Server	
IPMI Configuration	
Clear System Event Log	[Disabled]
WDT Function During POST	[Disabled]
Clear System Event Log.	
←→ Select Screen	
↑ ↓ Select Item	
+ - Change Option	
F1 General Help	
F10 Save and Exit	
ESC Exit	
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.	

A Clear System Event Log ~ WDT Function During POST

使用しません。設定は変更しないでください。

Remote Access Configuration : リモートアクセス設定サブメニュー

BIOS SETUP UTILITY	
Server	
Configure Remote Access type and parameters	
A	Remote Access [Enabled]
B	Serial port number [COM2]
	Baudrate [57600 8,n,1]
	Flow Control [None]
	Redirection After BIOS POST [Always]
	Terminal Type [ANSI]
	VT-UTF8 Combo Key Support [Enabled]
Select Remote Access type.	
←→ Select Screen ↑ ↓ Select Item + - Change Option F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit	
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.	

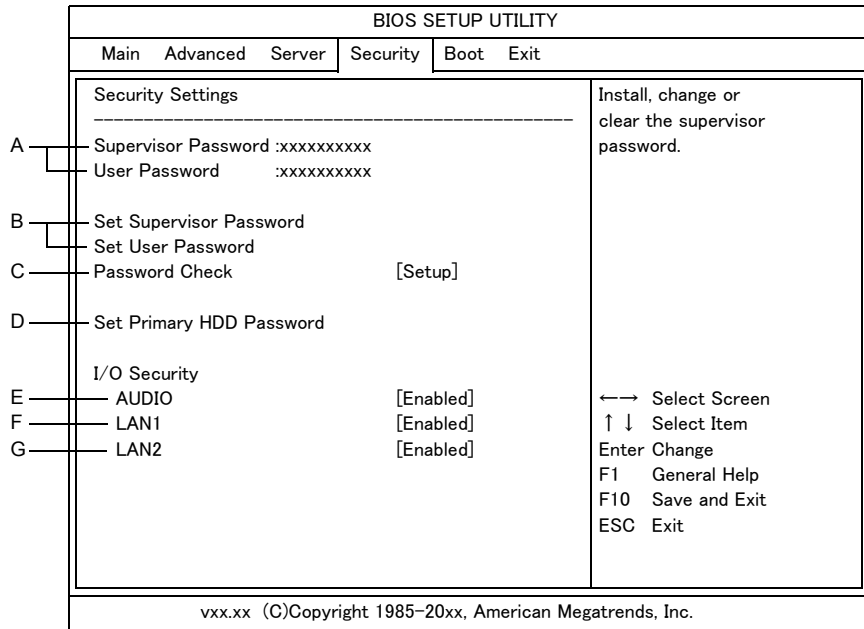
A Remote Access

リモートアクセスの有効/無効を設定します。

B Serial port number ~ VT-UTF8 Combo Key Support

リモートアクセス制御で使用します。設定は、変更しないでください。

□ Security : セキュリティメニュー



A Supervisor Password、User Password

各パスワードの設定状況を表示します。

パスワードが設定されている場合、「Installed」と表示します。

パスワードが設定されていない場合、「Not Installed」と表示します。

B Set Supervisor Password、Set User Password

各パスワードを設定、変更、解除します。

C Password Check

パスワード入力を行う条件を指定します。

- ◆ Setup : セットアップメニューを起動したときのみパスワード入力を行うことができます。
- ◆ Always : セットアップメニューを起動したとき、およびシステムを起動したときにパスワードを入力することができます。

D Set Primary HDD Password

ハードディスクパスワードを設定、解除します。

E AUDIO

AUDIO コントローラの有効/無効を設定します。

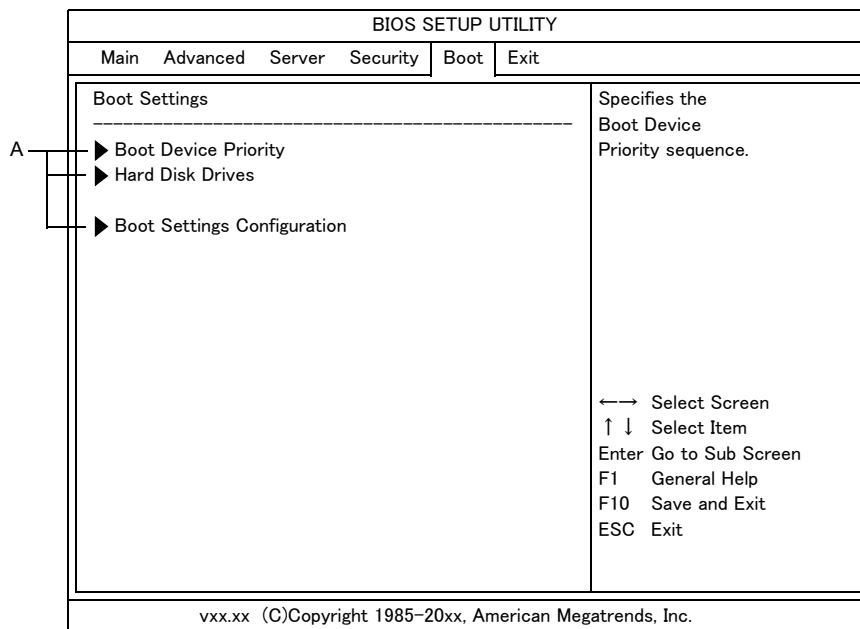
F LAN1

変更できません。

G LAN2

LAN コントローラ 2 の有効/無効を設定します。

□ Boot : ブートメニュー



A Boot Device Priority ~ Boot Settings Configuration

各サブメニューを表示します。

Boot Device Priority : ブートデバイス設定サブメニュー

BIOS SETUP UTILITY		
	Boot	
Boot Device Priority		Specifies the boot sequence from the available devices. A device enclosed in parenthesis has been disabled in the corresponding type menu. ← → Select Screen ↑ ↓ Select Item + - Change Option F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit
A	1st Boot Device [SATA:xxxxxxxxx]	
	2nd Boot Device [Removable Dev.]	
	3rd Boot Device [CD/DVD]	
B	4th Boot Device [Network:xxxxxxxxx]	
	5th Boot Device [Network:xxxxxxxxx]	
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.		

A 1st Boot Device ~ 3rd Boot Device

1 番目、2 番目、3 番目にブートを行う、おのおののデバイスを設定します。

B 4th Boot Device、5th Boot Device

ネットワークブートを有効にすると表示されます。

「Network:IBA GE Slot 0200 v1324」は LAN1 を表します。

「Network:IBA GE Slot 0201 v1324」は LAN2 を表します。

Hard Disk Drives : ハードディスクドライブ設定サブメニュー

BIOS SETUP UTILITY	
Boot	
Hard Disk Drives	Specifies the boot sequence from the available devices.
A — 1st Drive [SATA:xxxxxxxx]	
<p>←→ Select Screen ↑↓ Select Item +- Change Option F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit</p>	
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.	

A 1st Drive

ハードディスクが複数接続されている場合、どのハードディスクからブートするかを設定します。

Boot Settings Configuration : ブート設定サブメニュー

BIOS SETUP UTILITY		
		Boot
Boot Settings Configuration		Allows BIOS to skip certain tests while booting. This will decrease the time needed to boot the system. ←→ Select Screen ↑ ↓ Select Item + - Change Option F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit
A	Quick Boot [Enabled]	
B	Full Logo Display [Enabled]	
C	Network Boot [Disabled]	
D	Multi-Boot Menu [Enabled]	
E	Setup Prompt [Enabled]	
F	Halt On [No errors]	
G	Bootup Num-Lock [On]	
vxx.xx (C)Copyright 1985-20xx, American Megatrends, Inc.		

A Quick Boot

起動時の Power On Self Test を簡略化するかどうかを設定します。

B Full Logo Display

起動時に日立ロゴを表示させるかどうかを設定します。

C Network Boot

ネットワークブートの有効/無効を設定します。有効にすると、ブートデバイスにネットワークデバイスが追加されます。

D Multi-Boot Menu

起動時にブートデバイスを選択するメニューを表示させるかどうかを設定します。

E Setup Prompt

起動時に「Press DEL to enter SETUP, F12 to enter BOOT MENU」を表示させるかどうかを設定します。

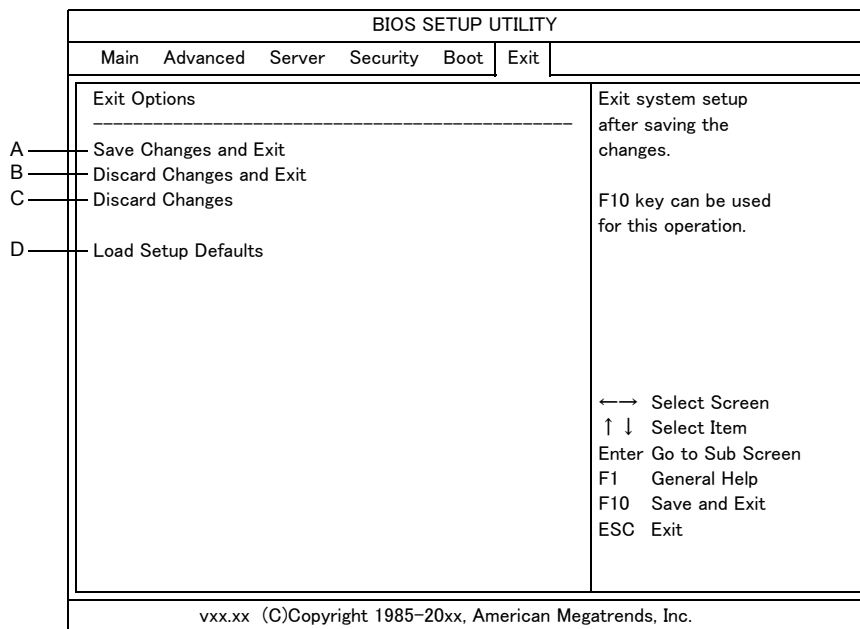
F Halt On

起動時のシステムテストのエラー結果による、システムの停止/続行を設定します。出荷時は、どんなエラーでも続行します。

G Bootup Num-Lock

起動時に USB キーボードのテンキー部を NumLock 状態にするかどうかを設定します。

□ Exit : 終了メニュー



A Save Changes and Exit

セットアップデータを保存してセットアップメニューを終了し、再起動します。
[F10] キーと同等の機能です。

B Discard Changes and Exit

セットアップデータを保存せずにセットアップメニューを終了し、クライアントモジュールの起動を続行します。

C Discard Changes

直前までのセットアップデータの変更を取り消します。

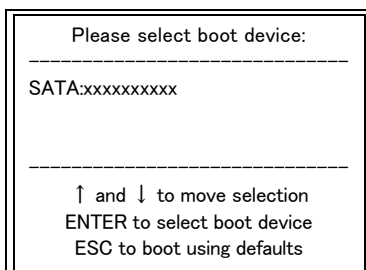
D Load Setup Defaults

セットアップデータをデフォルト値に戻します。

起動時のブートデバイスの設定

クライアントモジュールの起動時に、ブートするデバイスを選択することができます。手順は次のとおりです。

- 1 クライアントモジュールの電源を入れます。
- 2 クライアントモジュールの起動中、画面下部に「Press DEL to enter SETUP, F12 to enter BOOT MENU」と表示されたら [F12] キーを押します。
「Boot Menu」が表示されます。



- 3 ブートするデバイスを [↑]、[↓] キーで選択し、[Enter] キーを押します。



接続されていないデバイスや OS がインストールされていないデバイスは選択しないでください。ブートできません。



[Esc] キーを押すと、セットアップメニューで設定したデバイスの順位でブートします。

パスワードで保護する

ここではパスワードの設定方法を説明します。パスワードは必要なときにだけ設定してください。パスワードを設定すると、正しいパスワードを入力した人がクライアントモジュールを起動したり、セットアップメニューの内容を変更したりできます。

通知

ハードディスクパスワードを設定してパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスク内のデータを復旧することができず、データを消失します。パスワードは忘れないよう十分ご注意ください。



制限

パスワードを設定したときは、パスワードをメモにとり安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合は、お問い合わせください。有償で対処します。ただしハードディスクパスワードの場合は、HDD を有償で交換し、OS を再インストールする場合があります。

お問い合わせについて→「[お問い合わせ先](#)」P.vii

設定できるパスワード

設定できるパスワードには、次のものがあります。

- セットアップメニューのパスワード
- ハードディスクパスワード

□ セットアップメニューのパスワード

セットアップメニューのパスワードを設定すると、不正な使用を防ぐことができます。

セットアップメニューのパスワードには、次のものがあります。

- 管理者用パスワード (Supervisor Password)
- 使用者用パスワード (User Password)



制限

パスワードを設定すると、セットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示されます。このとき誤ったパスワードを3回入力すると、クライアントモジュールが操作できなくなります。この場合は、いったん電源スイッチを押し、クライアントモジュールの電源を切ってやり直してください。

●管理者用パスワード (Supervisor Password)

セットアップメニューの設定を変更できる人を制限したり、クライアントモジュールを使用できる人を制限するためのパスワードです。設定すると、管理者用パスワードを知っている人だけが、セットアップメニューのすべての設定を変更できるようになります。

補足

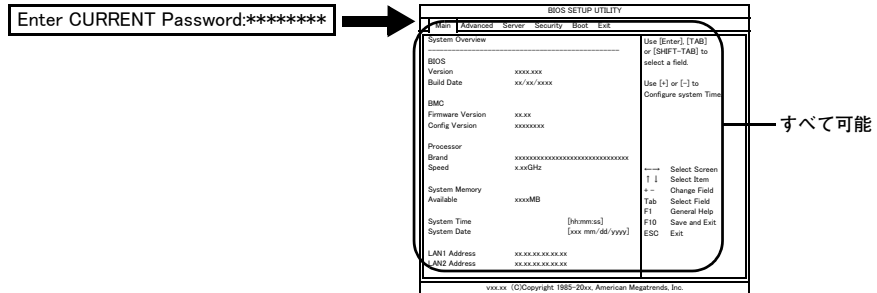
管理者用パスワードの設定について

→「管理者用またはユーザー用パスワードを設定/変更する」P.87

■ セットアップメニューを表示する場合

パスワード入力

セットアップメニューのすべてが設定可能



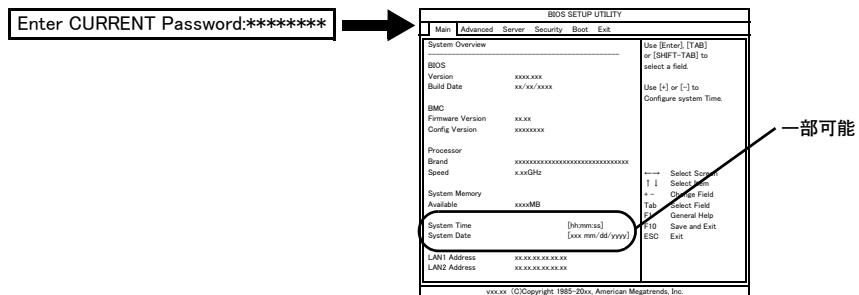
●ユーザー用パスワード (User Password)

セットアップメニューのすべての設定を変更する権限はありませんが、クライアントモジュールを使用する権限を与えるパスワードです。管理者用パスワードを設定したあとで設定できます。設定すると、ユーザー用パスワードを知っている人だけが、セットアップメニューの一部の設定を変更できるようになります。

■ セットアップメニューを表示する場合

パスワード入力

セットアップメニューの一部が設定可能



セットアップメニューで設定可能/不可能な項目は、次のとおりです。

[Main] : メインメニュー	[System Time]、[System Date] のみ設定できます。
[Advanced] : 拡張メニュー	すべて設定できません。
[Server] : サーバメニュー	
[Security] : セキュリティメニュー	[Set User Password] のみ設定できます。
[Boot] : ブートメニュー	すべて設定できません。
[Exit] : 終了メニュー	[Save Changes and Exit]、[Discard Changes and Exit]、[Discard Changes] のみ設定できます。

補足

使用者用パスワードの設定について

→「管理者用または使用者用パスワードを設定／変更する」P.87

□ ハードディスクパスワード

ハードディスクパスワードには、次のものがあります。

- HD マスターパスワード（設定および使用できません）
- HD ユーザーパスワード

搬送時の紛失などによる情報漏えい防止をはかることができます。

HD ユーザーパスワードの設定が不正に変更されないように、管理者用パスワードを設定することをお勧めします。

制限

- HD ユーザーパスワードを設定すると、クライアントモジュールの起動時にパスワードの入力画面が表示されます。このとき誤ったパスワードを3回入力すると、ハードディスクを利用できなくなります。この場合は、いったん電源スイッチを押しクライアントモジュールの電源を切って、パスワードの入力をやり直してください。
- クライアントモジュール起動時のパスワード入力で、HD マスターパスワードは使用できません。HD ユーザーパスワードを入力してください。

● HD ユーザーパスワード（HD User Password）

クライアントモジュールの使用者が設定するパスワードです。

HD ユーザーパスワードを設定すると、クライアントモジュールの起動時に HD ユーザーパスワードを入力する必要があります。

- クライアントモジュールを起動する場合
パスワード入力

Hard Disk Locked, enter user Password:*****

クライアントモジュールが起動する



補足

HD ユーザーパスワードの設定について

→「HD ユーザーパスワードを設定／変更する」P.89

セットアップメニューパスワードの設定方法

□ 管理者用またはユーザー用パスワードを設定／変更する

セットアップメニュー起動時に、管理者用またはユーザー用のパスワードを入力するかどうかを設定します。

制限

パスワードはメモなどを取り、安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合はお問い合わせください。有償にて対応いたします。
お問い合わせについて→「お問い合わせ先」 P.vii

補足

- パスワードでは、大文字と小文字を別の文字として扱います。
- パスワードの設定を途中でやめるときは、[Esc] キーを押します。

- 1 クライアントモジュールの電源を入れ、セットアップメニューを起動する。
セットアップメニューが起動する。
セットアップメニューの起動方法→「起動方法」 P.60
- 2 [←]、[→] キーで [Security] を選ぶ。
[Security] メニューが表示される。
- 3 [↑]、[↓] キーで、[Set Supervisor Password] または [Set User Password] を選び、[Enter] キーを押す。
パスワード入力画面 [Enter New Password] が表示される。
- 4 半角 8 桁以内の数値または文字でパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。
パスワード入力画面 [Confirm New Password] が表示される。

補足

- パスワードには数字の0～9とアルファベットのa～z およびA～Z が使えます。それ以外は使用しないでください。
- パスワードを入力すると画面に「*** ……」と表示されます。

- 5 再度同じパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。
- 6 [Enter] キーを押す。
[Security] メニューに戻る。
再度入力したパスワードが間違っていると、警告の画面が表示されるので [Enter] キーを押し、手順 3 からやり直してください。

- 7 [F10] キー押す。
設定内容の保存確認のメッセージが表示される。
- 8 [OK] を選び、[Enter] キーを押す。
パスワードが設定され、クライアントモジュールが再起動される。

□ 管理者用または使用者用パスワードを解除する

管理者用または使用者用パスワードの解除方法を説明します。

- 1 クライアントモジュールの電源を入れ、セットアップメニューを起動する。
セットアップメニューが起動する。
セットアップメニューの起動方法→「[起動方法](#)」P.60
- 2 [←]、[→] キーで [Security] を選ぶ。
[Security] メニューが表示される。
- 3 [↑]、[↓] キーで、[Set Supervisor Password] または [Set User Password] を選び、[Enter] キーを押す。
パスワード入力画面 [Enter New Password] が表示される。
- 4 各項目にパスワードを入力しないで [Enter] キーを押す。
パスワードが解除される。
- 5 [F10] キー押す。
設定内容の保存確認のメッセージが表示される。
- 6 [OK] を選び、[Enter] キーを押す。
パスワードが解除され、クライアントモジュールが再起動される。

ハードディスクパスワードの設定方法

□ HD ユーザーパスワードを設定／変更する

ハードディスクパスワードの使用者用パスワードを設定します。

通知

ハードディスクパスワードを設定してパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスク内のデータを復旧することができず、データを消失します。パスワードは忘れないよう十分ご注意ください。



パスワードはメモなどを取り、安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合はお問い合わせください。その場合、HDD を有償で交換し、OS を再インストールする場合があります。

お問い合わせについて→「[お問い合わせ先](#)」 P.vii



パスワードの設定を途中でやめるときは、[Esc] キーを押します。

- 1 クライアントモジュールの電源を入れ、セットアップメニューを起動する。
セットアップメニューが起動する。
セットアップメニューの起動方法→「[起動方法](#)」 P.60
- 2 [←]、[→] キーで [Security] を選ぶ。
[Security] メニューが表示される。
- 3 [↑]、[↓] キーで、[Set Primary HDD Password] を選び、[Enter] キーを押す。
パスワード入力画面 [Enter New Password] が表示される。



クライアントモジュール起動時に HD ユーザーパスワードを解除していない場合は、すでに設定しているパスワードを先に入力します。

- 4 半角 32 桁以内の数値または文字でパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。
パスワード入力画面 [Confirm New Password] が表示される。



- パスワードには数字の0～9とアルファベットのa～z およびA～Z が使えます。それ以外は使用しないでください。
- パスワードを入力すると画面に「*** ……」と表示されます。

- 5 再度同じパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。
[Password installed] 画面が表示される。

- 6 [Enter] キーを押す。
[Security] メニューに戻る。
再度入力したパスワードが間違っていると、警告の画面が表示されるので [Enter] キーを押し、手順3からやり直してください。
- 7 [F10] キー押す。
設定内容の保存確認のメッセージが表示される。
- 8 [OK] を選び、[Enter] キーを押す。
パスワードが設定され、クライアントモジュールが再起動される。

□ HD ユーザーパスワードを解除する

- 1 クライアントモジュールの電源を入れ、セットアップメニューを起動する。
セットアップメニューが起動する。
セットアップメニューの起動方法→「[起動方法](#)」P.60
- 2 [←]、[→] キーで [Security] を選ぶ。
[Security] メニューが表示される。
- 3 [↑]、[↓] キーで、[Set Primary HDD Password] を選び、[Enter] キーを押す。
パスワード入力画面 [Enter New Password] が表示される。

…
補足

クライアントモジュール起動時に HD ユーザーパスワードを解除していない場合は、すでに設定しているパスワードを先に入力します。

- 4 パスワードを入力しないで [Enter] キーを押す。
パスワードが解除される。
- 5 [Enter] キーを押す。
[Security] メニューに戻る。
- 6 [F10] キー押す。
設定内容の保存確認のメッセージが表示される。
- 7 [OK] を選び、[Enter] キーを押す。
パスワードが解除され、クライアントモジュールが再起動される。

BIOS の設定値について

ここでは、BIOS の出荷時設定値（デフォルト値）と設定項目について説明します。

BIOS 設定値一覧

項目	設定値
Main	
Version	自動判定
Build Date	自動判定
Firmware Version	自動判定
Config. Version	自動判定
Brand	自動判定
Speed	自動判定
Available	自動判定
System Time	使用者による設定
System Date	使用者による設定
LAN1 Address	自動判定
LAN2 Address	自動判定
Advanced	
CPU Configuration	
Virtualization Technology	Disabled *1
Execute-Disable Bit	Enabled
Core Multi-Processing	Enabled *1
Intel(R) SpeedSetp(tm)	Enabled *1
Intel(R) C-STATE Technology	Enabled
Enhanced C-States	Enabled *1
Video Configuration	
Internal Graphics Mode Select	Enabled, 32MB
DVMT/FIXED Memory	256MB

項目	設定値
IDE Configuration	
SATA#1 Configuration	Enhanced
Primary IDE Master	Hard Disk
Device	自動判定
Vendor	自動判定
Size	自動判定
LBA Mode	自動判定
Block Mode	自動判定
PIO Mode	自動判定
Async DMA	自動判定
Ultra DMA	自動判定
S.M.A.R.T.	自動判定
Type	Auto
LBA/Large Mode	Auto
Block (Multi-Sector Transfer)	Auto
PIO Mode	Auto
DMA Mode	Auto
S.M.A.R.T.	Auto
32Bit Data Transfer	Enabled
Peripheral Configuration	
Serial Port1 Address	3F8
Serial Port2 Address	2F8
Power On Configuration	
Restore on AC Power Loss	Power Off
Resume On PME#	Enabled
Resume On RTC Alarm	Disabled
Legacy USB Support	Enabled
High Precision Event Timer	Enabled
Intel VT-d	Disabled
Server	
IPMI Configuration	
Clear System Event Log	Disabled
WDT Function During POST	Disabled
Remote Access Configuration	
Remote Access	Enabled
Serial port number	COM2
Baudrate	57600 8,n,1
Flow Control	None
Redirection After BIOS POST	Always
Terminal Type	ANSI
VT-UTF8 Combo key Support	Enabled

項目	設定値
Security	
Supervisor Password	自動判定
User Password	自動判定
Set Supervisor Password	使用者による設定
Set User Password	使用者による設定
Password Check	Setup
Set Primary HDD Password	使用者による設定
AUDIO	Enabled
LAN1	Enabled
LAN2	Enabled
Boot	
Boot Device Priority	
1st Boot Device	SATA
2nd Boot Device	Removable Dev.
3rd Boot Device	CD/DVD
Hard Disk Drives	
1st Drive	SATA
Boot Settings Configuration	
Quick Boot	Enabled
Full Logo Display	Enabled
Network Boot	Disabled
Multi-Boot Menu	Enabled
Setup Prompt	Enabled
Halt On	No errors
Bootup Num-Lock	On

*1: Celeron プロセッサモデルでは表示されません。

6

コントロールボックス モジュールの設定

この章では、コントロールボックスモジュールから FLORA bd のシャーシ ID や時刻を設定したり、情報を表示したりする操作について説明します。

コントロールボックスモジュール設定の概要と準備	96
コンソール操作の概要	98
コマンドの説明	99

コントロールボックスモジュール 設定の概要と準備

設定・表示できる内容

コントロールボックスモジュールからFLORA bdの設定・表示ができる内容は次のとおりです。

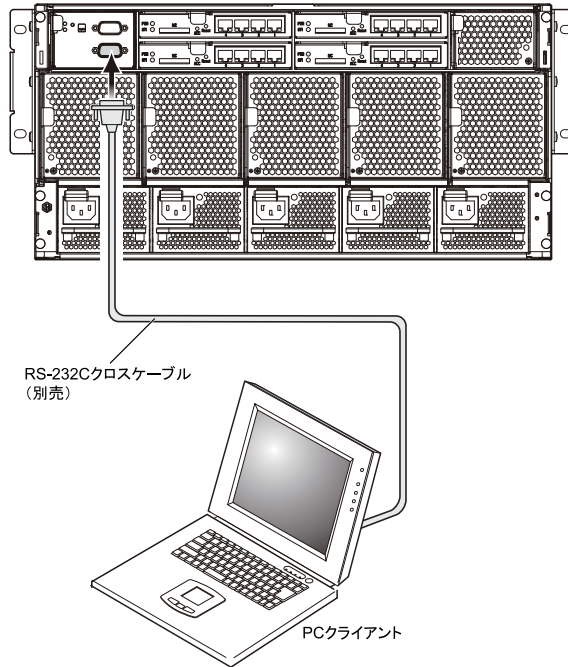
- シャーシ ID の表示／設定
- シャーシ状態表示
- コントロールボックス FRU 表示
- コントロールボックス バージョン表示
- コントロールボックス 時刻表示／設定

これらの操作は、コントロールボックスモジュールとシリアルインタフェースケーブルで接続したセットアップ端末から行います。

セットアップ端末の接続

コントロールボックスの操作は、シリアル接続された PC クライアント（セットアップ端末）が必要です。

次のとおり、コントロールボックスモジュールのコントロールボックス設定用ポート（SER CTRL）と PC クライアントを、RS-232C クロスケーブルで接続します。



PC クライアント必要条件

項目		仕様
通信ポート		RS-232C ポート
通信ソフト		以下のいずれかの通信ソフトまたはそれに準ずる通信ソフト ・ Windows 2000 または Windows XP 付属のハイパーターミナル ・ Tera Term Pro (Version 2.3)
通信設定	通信手順	ZMODEM 手順
	通信パラメータ	8ビット、1ストップビット、パリティ無し
	通信速度 *1	19200bit/s、9600bit/s、4800bit/s、2400bit/s、1200bit/s

*1 工場出荷時、コントロールボックス設定用ポートの通信速度は9600bit/sに設定しています。

コンソール操作の概要

ここでは、コントロールボックス設定を行うコンソールへのログイン方法について説明します。

ログイン

FLORA bdに通電し、コントロールボックスモジュールが起動すると、コンソール画面が表示されます。

プロンプトに対して何も入力せずに [Enter] キーを押すとログインできます。

コマンドの説明

コントロールボックスモジュールのコンソールからは、次のコマンドを実行できます。

No.	コマンド	説明	ページ
1	CI	シャーシ ID の表示／設定	P.99
2	DCS	シャーシ状態の表示	P.100
3	DF	コントロールボックス FRU 情報の表示	P.104
4	FV	コントロールボックスモジュール ファームウェアのバージョン表示	P.106
5	SD	コントロールボックスモジュールの時刻設定表示・変更	P.107

基本操作

- プロンプトからの入力は [Enter] キーを入力することで、コントロールボックスモジュールに入力します。
- 選択肢に () がついている場合は、その中の文字が入力可能であることを表します。
- 「Q」はプロンプトに戻ることを表します。
- 「unchange」は変更を行わないことを表します。
- [] がついている入力は、[Enter] キーだけの入力でその値が入力されることを表します。

□ CI コマンド

シャーシ ID の表示・変更を行います。工場出荷時、シャーシ ID はコントロールボックスモジュールのシリアルナンバーが設定されています。

[Enter] キーを押してログインしてください。

プロンプト「CBS>」に対して、「CI」を入力し [Enter] キーを押してください。次の画面が表示されます。

```
CBS>CI

<<CI- Chassis ID>>

Chassis ID : ***** ([unchange]) :
Confirm (Y/[N]) :
```

シャーシ ID を変更したい場合は「Chassis ID」に変更したい ID を入力し [Enter] キーを押します。その後、「Confirm (Y/[N])」において [Y] キーを押します。
変更しない場合は「Chassis ID」において [Enter] キーを押します。

□ DCS コマンド

シャーシ内各モジュールの状態を表示します。

[Enter] キーを押してログインしてください。

プロンプト「CBS>」に対して、「DCS」を入力し [Enter] キーを押してください。次の画面が表示されます。ご使用の環境により表示は変わります。

```

CBS> DCS
<<DCS- Display Chassis status>>
Current Time : 20**-**-** **:**:**

Chassis ID : *****
BLADE#  IPMB  BLD_STS  INIT  MB_TEMP[C]  CPU_TEMP[C]
-----
01      OK      ON       COMP  **          **
02      OK      ON       COMP  **          **
03      OK      ON       COMP  **          **
04      OK      ON       COMP  **          **
05      OK      ON       COMP  **          **
06      OK      ON       COMP  **          **
07      OK      ON       COMP  **          **
08      OK      ON       COMP  **          **
09      OK      ON       COMP  **          **
10      OK      ON       COMP  **          **
11      OK      ON       COMP  **          **
12      OK      ON       COMP  **          **
13      OK      ON       COMP  **          **
14      OK      ON       COMP  **          **
15      OK      ON       COMP  **          **
16      OK      ON       COMP  **          **
17      OK      ON       COMP  **          **
18      OK      ON       COMP  **          **
19      OK      ON       COMP  **          **
20      OK      ON       COMP  **          **
21      OK      ON       COMP  **          **
22      OK      ON       COMP  **          **
23      OK      ON       COMP  **          **
24      OK      ON       COMP  **          **
25      OK      ON       COMP  **          **
26      OK      ON       COMP  **          **
27      OK      ON       COMP  **          **
28      OK      ON       COMP  **          **
29      OK      ON       COMP  **          **
30      OK      ON       COMP  **          **
31      OK      OFF      COMP  -           -
32      OK      OFF      COMP  -           -
33      OK      OFF      COMP  -           -
34      OK      OFF      COMP  -           -
35      OK      OFF      COMP  -           -
36      OK      OFF      COMP  -           -
37      OK      OFF      COMP  -           -
38      OK      OFF      COMP  -           -
39      OK      OFF      COMP  -           -
40      ERR      OFF      -       -           -

LANSW#  PRESENCE  POW_SUPPLY  LED(G)  LED(R)
-----
01      INS       NRM         ON       OFF
02      INS       NRM         ON       OFF
03      INS       NRM         ON       OFF
04      INS       NRM         ON       OFF

PSU#    PRESENCE  AC_IN  DC_OUT
-----
01      INS       NRM   NRM
02      INS       NRM   NRM
03      INS       NRM   NRM
04      INS       NRM   NRM
05      INS       NRM   NRM

SYSFAN# PRESENCE  RPM1  RPM2  LED
-----
01      INS      ****  ****  ON
02      INS      ****  ****  ON
03      INS      ****  ****  ON
04      INS      ****  ****  ON
05      INS      ****  ****  ON

SWFAN#  PRESENCE  RPM1  RPM2  RPM3  LED
-----
01      INS      ****  ****  ****  ON

CNTBOX# INTAKE_TEMP  POW_SAVING  LED(G)  LED(A)
-----
01      **          OFF        ON       OFF

```

表示項目の内容は次のとおりです。

- Current Time
現在時刻を表示します。
- Chassis ID
シャーシ ID を表示します。
- BLADE#, IPMB, BLD_STS, INIT, MB_TEMP[C], CPU_TEMP[C]
クライアントモジュールの状態を表示します。

項目	表示	説明
BLADE	01 ~ 40	クライアントモジュールスロット番号
IPMB	OK	コントロールボックスモジュール間との IPMB 通信が正常
	ERR	搭載なし または 通信エラー
BLD_STS	ON	パワーオン
	OFF	パワーオフ または 搭載なし
INIT	COMP	初期化完了
	-	初期化未完了 または 搭載なし
MB_TEMP[C]	**	入気温度 (°C)
CPU_TEMP[C]	**	CPU 温度 (°C)

- LANSW#, PRESENCE, POW_SUPPLY, LED(G), LED(R)
内蔵 LAN スイッチモジュールの状態を表示します。

項目	表示	説明
LANSW#	01 ~ 04	内蔵 LAN スイッチモジュールベイ番号
PRESENCE	INS	ベイに搭載
	-	ベイに未搭載
POW_SUPPLY	NRM	電源正常
	ERR	通電なし
LED(G)	ON	STATUS ランプ 緑点灯
	BLNK	STATUS ランプ 緑点滅
	OFF	STATUS ランプ 緑消灯
LED(R)	ON	STATUS ランプ 赤点灯
	BLNK	STATUS ランプ 赤点滅
	OFF	STATUS ランプ 赤消灯

■ PSU#, PRESENCE, AC_IN, DC_OUT

電源モジュールの状態を表示します。

項目	表示	説明
PSU#	01 ~ 05	電源モジュールベイ番号
PRESENCE	INS	ベイに搭載
	-	ベイに未搭載
AC_IN	NRM	AC 入力正常
	ERR	AC 入力異常
DC_OUT	NRM	DC 出力正常
	ERR	DC 出力異常

■ SYSFAN#, PRESENCE, RPM1, RPM2, LED

システム冷却ファンモジュールの状態を表示します。

項目	表示	説明
SYSFAN#	01 ~ 05	システム冷却ファンモジュールベイ番号
PRESENCE	INS	ベイに搭載
	-	ベイに未搭載
RPM1	****	ファン回転数 (rpm)
RPM2		
LED	ON	ACTIVE ランプ点灯
	OFF	ACTIVE ランプ消灯

■ SWFAN#, PRESENCE, RPM1, RPM2, RPM3, LED

LAN スイッチ冷却ファンモジュールの状態を表示します。

項目	表示	説明
SWFAN#	01	LAN スイッチ冷却ファンモジュールベイ番号
PRESENCE	INS	ベイに搭載
	-	ベイに未搭載
RPM1	****	ファン回転数 (rpm)
RPM2		
RPM3		
LED	ON	ACTIVE ランプ点灯
	OFF	ACTIVE ランプ消灯

- CNTBOX#, INTAKE_TEMP、POW_SAVING、LED(G)、LED(A)
コントロールボックスモジュールの状態を表示します。

項目	表示	説明
CNTBOX#	01	コントロールボックスモジュールベイ番号
INTAKE_TEMP	**	入気温度 (°C)
POW_SAVING	ON	電源モジュール 省電力モード
	OFF	電源モジュール 非省電力モード
LED(G)	ON	電源ランプ点灯
	OFF	電源ランプ消灯
LED(A)	ON	STATUS ランプ点灯
	OFF	STATUS ランプ消灯

□ DF コマンド

シャーシ内各モジュールの FRU を表示します。

[Enter] キーを押してログインしてください。

プロンプト「CBS>」に対して、「DF」を入力し [Enter] キーを押してください。次の画面が表示されます。ご使用の環境により表示は変わります。

```
CBS> DF
<<DF- Display Chassis status>>
- Chassis Information -
  Chassis ID : *****

- Control Module Information -
  Slot No      : 1
  Product Part Number : *****
  Product Version : *****
  Board Product Name : *****
  Board Serial Number : *****
  Board Part Number : *****

- Blade Module Information -
#  Product Name      Product Version  Product Manufacture  BMC Config Version
1  *****          *****          *****              ** **
2  *****          *****          *****              ** **
3  *****          *****          *****              ** **
4  *****          *****          *****              ** **
5  *****          *****          *****              ** **
6  *****          *****          *****              ** **
7  *****          *****          *****              ** **
8  *****          *****          *****              ** **
9  *****          *****          *****              ** **
10 *****          *****          *****              ** **
11 *****          *****          *****              ** **
12 *****          *****          *****              ** **
13 *****          *****          *****              ** **
14 *****          *****          *****              ** **
15 *****          *****          *****              ** **
16 *****          *****          *****              ** **
17 *****          *****          *****              ** **
18 *****          *****          *****              ** **
19 *****          *****          *****              ** **
20 *****          *****          *****              ** **
21 *****          *****          *****              ** **
22 *****          *****          *****              ** **
23 *****          *****          *****              ** **
24 *****          *****          *****              ** **
25 *****          *****          *****              ** **
26 *****          *****          *****              ** **
27 *****          *****          *****              ** **
28 *****          *****          *****              ** **
29 *****          *****          *****              ** **
30 *****          *****          *****              ** **
31 *****          *****          *****              ** **
32 *****          *****          *****              ** **
33 *****          *****          *****              ** **
34 *****          *****          *****              ** **
35 *****          *****          *****              ** **
36 *****          *****          *****              ** **
37 *****          *****          *****              ** **
38 *****          *****          *****              ** **
39 *****          *****          *****              ** **
40 *****          *****          *****              ** **

- Switch Information -
  Slot No      : 1
  Product Part Number : *****
  Board Product Name : *****
  Board Serial Number : *****
  Board Part Number : *****

  Slot No      : 2
  Product Part Number : *****
  Board Product Name : *****
  Board Serial Number : *****
  Board Part Number : *****

  Slot No      : 3
  Product Part Number : *****
  Board Product Name : *****
  Board Serial Number : *****
  Board Part Number : *****

  Slot No      : 4
  Product Part Number : *****
  Board Product Name : *****
  Board Serial Number : *****
  Board Part Number : *****
```

表示項目の内容は次のとおりです。

- Chassis Information
Chassis ID : シャーシ ID を表示します。

- Control Module Information
コントロールボックスモジュールの FRU を表示します。

項目	表示	説明
Slot No	1	コントロールボックスモジュールベイ番号
Product Part Number	(空白)	情報なし または 読み取り失敗
	*****	製品パーツ番号
Product Version	(空白)	情報なし または 読み取り失敗
	*****	製品バージョン
Board Product Name	(空白)	情報なし または 読み取り失敗
	*****	ボード製品番号
Board Serial Number	(空白)	情報なし または 読み取り失敗
	****	ボードシリアル番号
Board Part Number	(空白)	情報なし または 読み取り失敗
	****	ボードパーツ番号

- Blade Module Information
クライアントモジュールの FRU を表示します。すべてのクライアントモジュールスロットについて表示します。

項目	表示	説明
#	1 ~ 40	クライアントモジュールスロット番号
Product Name	(空白)	未搭載 または 情報なし または 読み取り失敗
	*****	製品名
Product Version	(空白)	未搭載 または 情報なし または 読み取り失敗
	*****	製品バージョン
Product Manufacture	(空白)	未搭載 または 情報なし または 読み取り失敗
	*****	製造者
BMC Config Version	(空白)	未搭載 または 情報なし または 読み取り失敗
	** **	BMC バージョン

■ Switch Information

内蔵 LAN スイッチモジュールの FRU を表示します。すべての内蔵 LAN スイッチモジュールベイについて表示します。

項目	表示	説明
Slot No	1～4	内蔵 LAN スイッチモジュールベイ番号
Product Part Number	(空白)	未搭載 または 情報なし または 読み取り失敗
	****	製品パーツ番号
Board Product Name	(空白)	未搭載 または 情報なし または 読み取り失敗
	*****	ボード製品番号
Board Serial Number	(空白)	未搭載 または 情報なし または 読み取り失敗
	****	ボードシリアル番号
Board Part Number	(空白)	未搭載 または 情報なし または 読み取り失敗
	****	ボードパーツ番号

□ FV コマンド

コントロールボックスモジュールのファームウェアバージョンを表示します。

[Enter] キーを押してログインしてください。

プロンプト「CBS>」に対して、「FV」を入力し [Enter] キーを押してください。次の画面が表示されます。

```
CBS>FV

<Firmware version>

Control Box Firmware Version : **-**-**
```

「Control Box Firmware Version」にファームウェアバージョンが表示されます。

□ SD コマンド

コントロールボックスモジュールの日付および時刻を設定します。

ここで設定された時刻は内蔵 LAN スイッチモジュールにも反映されます。

[Enter] キーを押してログインしてください。

プロンプト「CBS>」に対して、「SD」を入力し [Enter] キーを押してください。次の画面が表示されます。

```
CBS>SD

<<Setting Date- Display/Edit local date and time>>
-- Local time --
Time : 20**-**-** **:**:** (Time zone = +09:00)

    L. Edit localtime.
    Z. Edit timezone.
    Q. Quit.
(L,Z,[Q]) :
```

■ 日付および時刻を設定する場合

「(L,Z,[Q])」において「L」を入力し [Enter] キーを押します。

「Date」において変更したい日付を入力し [Enter] キーを押します。

「Time」において変更したい時刻を入力し [Enter] キーを押します。

入力が終わると「-- Local time --」に入力値が表示されますので、「Confirm (Y/[N])」において [Y] キーを押します。

```
CBS>SD

<<Setting Date- Display/Edit local date and time>>
-- Local time --
Time : 20**-**-** **:**:** (Time zone = +09:00)

    L. Edit localtime.
    Z. Edit timezone.
    Q. Quit.
(L,Z,[Q]) :
Date : 20**-**-**
([Unchange]):
Time : **:**:** ([Unchange])

-- Local time --
Time : 20**-**-** **:**:**

Confirm (Y/[N]) :
```

変更しない場合は「Date」「Time」において何も入力せず [Enter] キーを押します。

■ タイムゾーンを設定する場合

「(L,Z,[Q])」において「Z」を入力し [Enter] キーを押します。

「Time zone」において変更したいタイムゾーンを入力し [Enter] キーを押します。

入力が終わると「-- Timezone --」に入力値が表示されますので、「Confirm (Y/[N])」において [Y] キーを押します。

```
CBS>SD

<<Setting Date- Display/Edit local date and time>>
-- Local time --
Time : 20**-**-** **:**:** (Time zone = +09:00)

    L. Edit localtime.
    Z. Edit timezone.
    Q. Quit.
(L,Z,[Q]) :
Time zone      : +09:00

([Unchange]) :

-- Timezone --
Time zone      : +09:00

Confirm (Y/[N]) :
```

変更しない場合は「Time zone」において何も入力せず [Enter] キーを押します。



日本国内では、time zone として「+9」を指定してください。

7

内蔵 LAN スイッチモジュール の設定

この章では、内蔵 LAN スイッチモジュールの初期導入時に必要な装置管理者のパスワードの設定、ユーザ ID の追加と削除およびモジュールを運用する上で重要な情報について説明します。

なお、内蔵 LAN スイッチモジュールの詳細な操作方法については、添付の CD-ROM 格納のマニュアルをご参照ください。

ご使用上の注意事項	110
クライアントモジュールとの接続形態	111
セットアップ端末の接続.....	113
コマンド入力モードの概要.....	116
初期導入時の操作の概要.....	118
モジュール情報のバックアップとリストア.....	121
設定の初期化.....	124

ご使用上の注意事項

- 工場出荷時のデフォルト構成では、line 1 のポートは管理用として専用VLANが設定されています。このため、クライアントモジュールおよびほかの外部ポートとは通信できません。お客様構成に合わせて適宜スイッチ設定を行ってご使用ください。なお、設定を行ったのみでは、電源モジュールの電源を切るか内蔵 LAN スイッチモジュールを取り外すと設定情報が消失しますので、saveコマンドで設定情報を忘れずに保存してください。
- 工場出荷時のデフォルト構成では、line 5 ～ 24 のクライアントモジュール接続ポートをエッジポート設定 (portfast) としています。これは、Spanning Tree を標準設定としているため、クライアントモジュールの再起動などによるネットワークへの影響を回避するためです。お客様構成に合わせてスイッチ設定を変更した場合でも、クライアントモジュール接続ポートに対してはエッジポート設定にされることを推奨いたします。
- 工場出荷時のデフォルト構成では、クライアントモジュール側の設定に合わせて、line 5 ～ 24 のクライアントモジュール接続ポートをオートネゴシエーションに設定しています。お客様構成に合わせて設定を変更した場合でも、クライアントモジュール接続ポートに対してはオートネゴシエーションに設定されることを推奨いたします。
- 内蔵 LAN スイッチモジュールは、Spanning Tree を標準設定としていることから、line 2 ～ 4 の外部ポートにケーブル接続した直後は 30 秒通信不可の状態となります。
- 工場出荷時の構成に回復させる場合は、「[設定の初期化](#)」 P.124 に従ってください。
- 内蔵 LAN スイッチモジュールの line 1 ～ 4 は、Auto-MDI/MDI-X に準拠しており、クロス / ストレートいずれのケーブルでも使用できます。
なお、本機能は、オートネゴシエーションが有効な場合のみ機能します。
半二重および全二重固定時は、MDI-X となります。
- セグメントを越えて内蔵 LAN スイッチモジュールと接続する場合、デフォルトゲートウェイの設定が必要となります。内蔵 LAN スイッチモジュールでのデフォルトゲートウェイ設定は、スタティックルーティングを設定することで行います。以下に設定例を示します。

```
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.1.1
```

* : 「192.168.1.1」 はデフォルトゲートウェイのアドレス

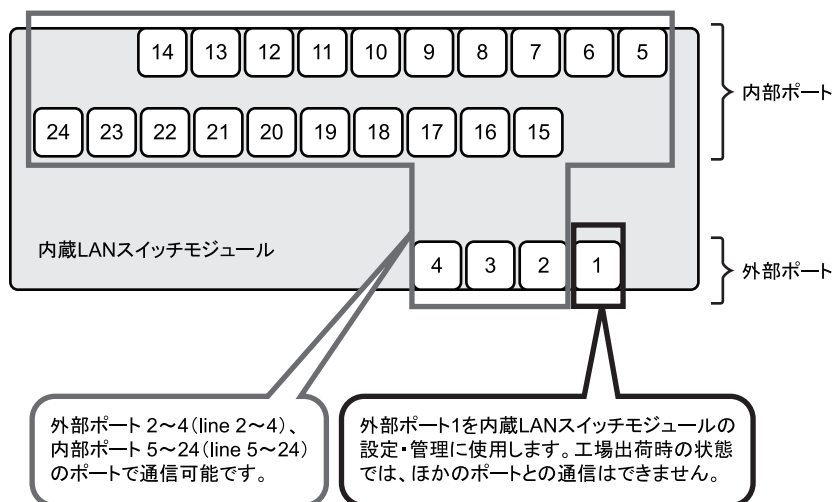
なお、ip route コマンドの詳細については、添付 CD-ROM に含まれる『コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2』をご参照ください。
- クライアントモジュール接続ポート (line 5 ～ 24) に対して、shutdown コマンドまたは inactive コマンドを実行しても有効になりませんので、ご注意ください。
なお、close コマンドによりデータ通信は抑止されます。
- 工場出荷時のデフォルト構成には、物理ポートの送信キュー長 (limit-queue-length) を 64 に設定しています。

クライアントモジュールとの接続形態

クライアントモジュールは、2つのLANポートを装備しています。
このLANポートと内蔵LANスイッチモジュールのポートとの接続構成を説明します。

内蔵 LAN スイッチモジュールのポート設定

内蔵LANスイッチモジュールのポート構成は次のとおりです。
工場出荷時、ポート1 (line 1) は特別なポートとして設定されています。



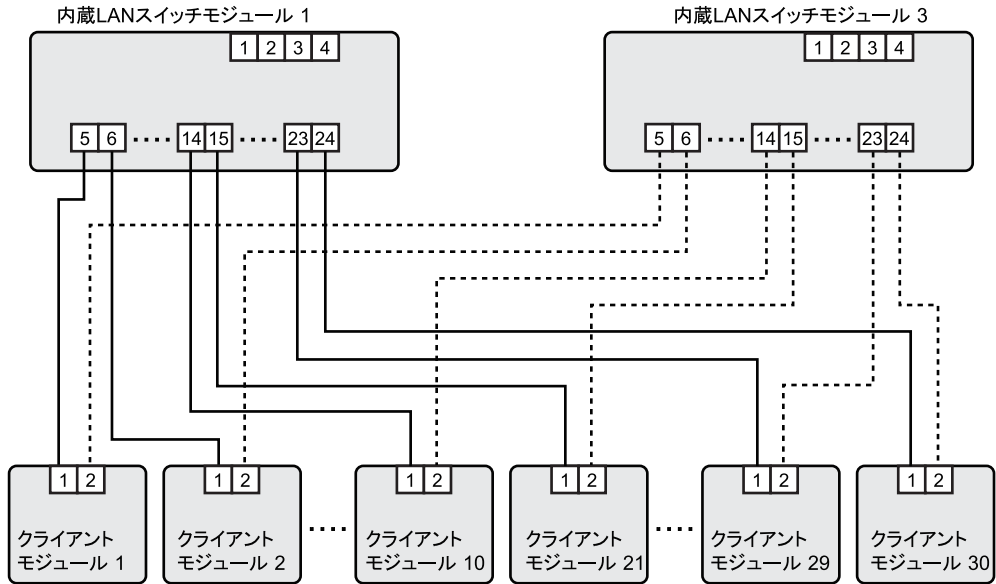
…
補足

内蔵LANスイッチモジュールの接続ポート (論理ポート) は次のように対応しています。

- line 1 ~ 4: 外部ポート (LAN インタフェースコネクタ 1 ~ 4 に対応)
- line 5 ~ 24: クライアントモジュール接続ポート

クライアントモジュールと内部ポートの接続

クライアントモジュールと内蔵 LAN スイッチモジュールの内部ポートは、次のように接続されています。



上記は、クライアントモジュール 1～10、21～30 と内蔵 LAN スイッチモジュール 1、3 の接続を示しています。これと同様に、クライアントモジュール 11～20、31～40 は内蔵 LAN スイッチモジュール 2、4 に接続されます。

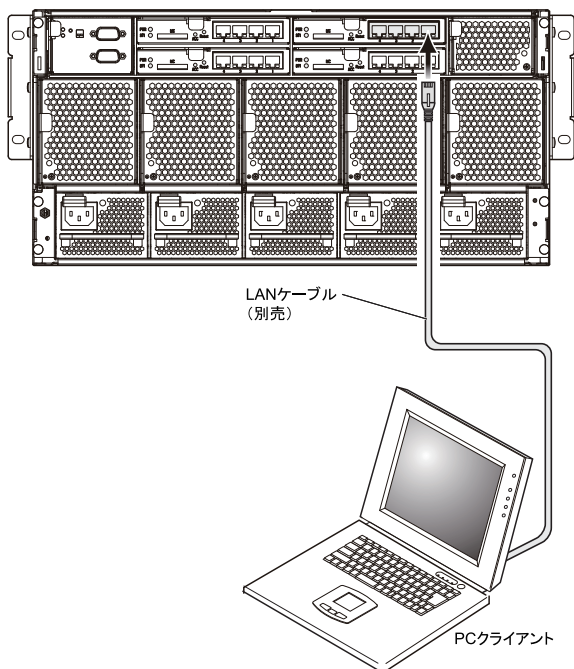
なお、各クライアントモジュールのポートに対応した内蔵 LAN スイッチモジュールを搭載していない場合、そのポートは使用できません。

セットアップ端末の接続

初期導入時には、LAN 接続またはシリアル接続された PC クライアント（セットアップ端末）が必要です。ここではそれぞれの接続方法について説明します。

LAN 接続の場合

次のとおり、設定を行う内蔵 LAN スイッチモジュールの LAN インタフェースコネクタ 1 (line 1) と PC クライアントを LAN ケーブルで接続します。



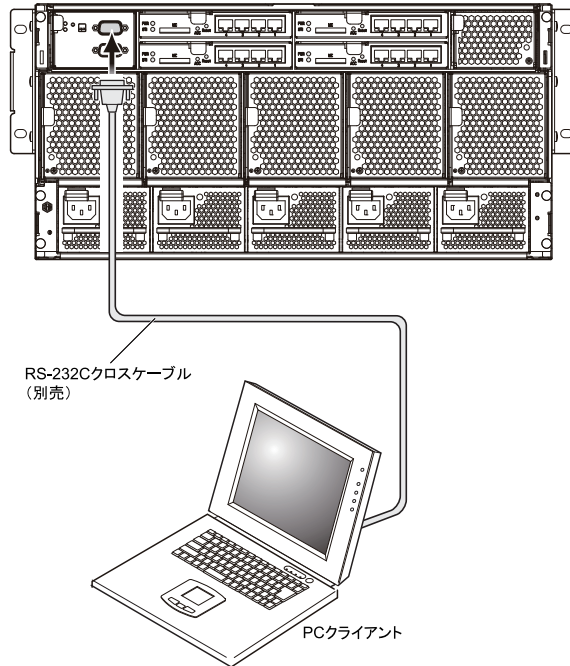
ネットワーク接続仕様（工場出荷時設定）

項目	仕様
IP アドレス	192.168.0.254
サブネットマスク	255.255.255.0
ケーブル種	クロス / ストレート (Auto-MDI/MIDX 準拠)
通信速度	Auto-Negotiation

工場出荷状態では、LAN インタフェースコネクタ 1 (line 1) を管理用ポートに設定しております。ペイごとに同じネットワーク設定にしていますので、必要に応じて設定を変更してください。

シリアル接続の場合

次のとおり、コントロールボックスモジュールの内蔵 LAN スイッチ設定用ポート (SER SW) と PC クライアントを、RS-232C クロスケーブルで接続します。



また、設定を行う内蔵 LAN スイッチモジュールを選択するために、コントロールボックスモジュールの SELECT スイッチを次のとおり設定します。

選択する内蔵 LAN スイッチモジュール	SELECT スイッチの設定
ベイ 1	SEL ON OFF <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 2 1
ベイ 2	SEL ON OFF <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 2 1
ベイ 3	SEL ON OFF <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 2 1
ベイ 4	SEL ON OFF <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 2 1

PC クライアント必要条件

項目		仕様
通信ポート		RS-232C ポート
通信ソフト		以下のいずれかの通信ソフトまたはそれに準ずる通信ソフト ・ Windows 2000 または Windows XP 付属のハイパーターミナル ・ Tera Term Pro (Version 2.3)
通信設定	通信手順	ZMODEM 手順
	通信パラメータ	8 ビット、1 ストップビット、パリティ無し
	通信速度 *1	19200bit/s、9600bit/s、4800bit/s、2400bit/s、1200bit/s

*1 工場出荷時、内蔵 LAN スイッチ設定用ポートの通信速度は 9600bit/s に設定しています。

補足

telnet クライアントは、CRLF を無効に設定してご使用ください。
CRLF の無効化は各 telnet クライアントのヘルプなどをご参照ください。

コマンド入力モードの概要

ここでは、コマンド入力モードの概要について説明します。

コマンド入力モードの種類

内蔵 LAN スイッチモジュールのコマンドラインインタフェースには、運用コマンドモードとコンフィグレーションコマンドモードの 2 種類のコマンド入力モードがあります。

運用コマンドモードでは運用コマンドを、コンフィグレーションコマンドモードではコンフィグレーションコマンドを実行することができます。

また、内蔵 LAN スイッチモジュールのコマンドラインインタフェースには、一般ユーザレベルと装置管理者レベルの 2 種類の使用者レベルがあります。

運用コマンドモードには一般ユーザレベルのモードと装置管理者レベルのモードがあります。コンフィグレーションコマンドモードは装置管理者レベルのモードのみです。

それぞれのコマンド入力モードの特徴やアクセス方法と終了方法は、次のとおりです。

コマンド入力モード	使用者レベル	アクセス方法	プロンプト	終了方法	説明
運用コマンド	一般ユーザ	login:<ユーザ ID>	>	> logout	一部の運用コマンドを使用することができます。
	装置管理者	> enable	#	# disable	すべての運用コマンドを使用することができます。
コンフィグレーションコマンド	装置管理者	# configure	(config)#	(config)# exit	すべてのコンフィグレーションコマンドを使用することができます。

運用コマンド（一般ユーザ）モード

内蔵 LAN スイッチモジュールにログインすると、このモードになります。

このモードでは、運用コマンドのうち、一般ユーザレベルに許可されたコマンドのみを実行することができます。

ユーザアカウントの新規登録や削除は、一般ユーザレベルでは実行することができません。装置管理者レベルで実行する必要があります。

運用コマンド（装置管理者）モード

運用コマンド（一般ユーザ）モードで enable コマンドを入力するとこのモードになります。このモードでは、すべての運用コマンドを使用することができます。初期導入時は、enable コマンドにパスワードが設定されていません。セキュリティの低下を防ぐため、enable コマンドにパスワードを設定し、装置管理者になれるユーザを制限しておくことを推奨します。

コンフィグレーションコマンドモード

運用コマンド（装置管理者）モードで configure コマンドを入力するとこのモードになります。

このモードにおいてコンフィグレーションコマンドを使用することにより、内蔵 LAN スイッチモジュールのコンフィグレーションを設定・変更することができます。

…
補足

- コンフィグレーションコマンドモードは階層構造になっていません。上記の (config)# をグローバルコンフィグレーションモードと呼び、その下にコマンドの種類により分類された入力モードがあります。コンフィグレーションコマンドモードの詳細については、添付 CD-ROM に含まれる『コンフィグレーションガイド』をご参照ください。
- 運用コマンドがどの使用者レベルで実行することができるかは、添付 CD-ROM に含まれる『運用コマンドレファレンス』に記載されています。また、コンフィグレーションコマンドがどの入力モードで実行することができるかは、添付 CD-ROM に含まれる『コンフィグレーションコマンドレファレンス』に記載されています。

初期導入時の操作の概要

ここでは、初期導入時に必要な操作の概要を説明します。

初期導入時に必要な操作

・・・
補足

以下は、初期導入時に最低限必要な操作です。その他の操作については、添付 CD-ROM 格納のマニュアルをご参照ください。

1 ログイン

内蔵 LAN スイッチモジュールにログインします。

初期導入時に設定されているユーザ ID 「operator」を使用します。「operator」にはパスワードが設定されていないため、認証なしでログインできます。

2 装置管理者のパスワードの設定

装置管理者のパスワードを設定します。

初期導入時、装置管理者のパスワードは設定されていません。セキュリティの低下を防ぐため、装置管理者のパスワードを設定してください。

3 ユーザ ID の追加と 「operator」 の削除

新しくユーザ ID を作成します。

また、初期導入時に設定されているログインユーザ「operator」を運用中のログインユーザとして使用しない場合は、セキュリティの低下を防ぐため、新しいログインユーザを作成したあとに `rmuser` コマンドで削除することを推奨します。

ログイン

FLORA bd に通電し、内蔵 LAN スイッチモジュールを起動すると、「login」プロンプトが表示されます。「login」プロンプトの後に、ユーザ ID を入力して装置にログインします。

```
login: operator   ユーザ ID 「operator」を入力します。

Copyright (c) 2005-2006 ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.

>
```

・・・
補足

以降の説明において、ソフトウェアのバージョンによって表示される内容が多少異なる場合がありますが、基本的な操作方法に変わりはありません。

装置管理者のパスワードの設定

装置管理者のパスワードを設定します。

```
> enable 装置管理者になります。
# password enable-mode 装置管理者のパスワードを設定できるようにします。
Changing local password for admin.
New password: ***** 装置管理者のパスワードを設定します。
Retype new password: ***** 確認のため、再度パスワードを入力します。
#
```

…
補足

パスワードの文字数は、6 文字以上 128 文字以下としてください。
(129 文字以上入力した場合、128 文字までがパスワードとして登録されます) なお、英小文字のみのパスワードは使用できません。
英大文字、数字、または特殊文字を含ませてください。

ユーザ ID の追加と「operator」の削除

□ ユーザ ID の作成とログインパスワードの設定

新しくユーザ ID を作成し、ログインパスワードを設定します。

次の例では、新規ユーザ ID「newuser」の作成とログインパスワードの設定について説明します。

```
# adduser newuser 新しくユーザ ID「newuser」を設定します。
User(empty password) add done. Please setting password.
Password: ***** ユーザ ID「newuser」にログインパスワードを設定します。
Retype new password: ***** 確認のため、再度パスワードを入力します。
# disable 一般ユーザモードに戻ります。
> logout ログアウトします。
```

…
補足

パスワードの文字数は、6 文字以上 128 文字以下としてください。
(129 文字以上入力した場合、128 文字までがパスワードとして登録されます) なお、英小文字のみのパスワードは使用できません。
英大文字、数字、または特殊文字を含ませてください。

□ ユーザ ID 「operator」 の削除

初期導入時に設定されているユーザ ID 「operator」 を削除します。

```
login: newuser   新しく作成したユーザ ID 「newuser」 でログインします。
Password: ***** ログインパスワードを入力します。
                (ステップ1で設定したパスワードを入力します)
Copyright (c) 2005-2006 ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.
> enable   装置管理者になります。
Password: ***** 装置管理者のパスワードを入力します。
# rmuser operator   初期導入時に設定されているユーザ ID 「operator」 を削除します。
Delete user'operator'? (y/n): y   「y」を入力します。
#
```

モジュール情報のバックアップとリストア

不測の事態に備えて、モジュール情報をバックアップしておくことを推奨します。

バックアップ情報について

バックアップ可能な情報には、スイッチモジュール情報とコンフィグレーションがあります。

スイッチモジュール情報は、スイッチソフトウェアを含むコンフィグレーションおよびパスワードなどのユーザカスタマイズ情報です。本バックアップデータを使用することで内蔵 LAN スイッチモジュールを交換した場合など交換前の状態に戻すことができます。

コンフィグレーションは、VLAN に代表されるスイッチの設定ファイルで、次の種類があります。

- startup-config：モジュール起動時に参照する設定ファイル
- running-config：モジュールが使用している設定内容を保持するファイル

…
補足

コンフィグレーションを変更し格納しない場合、startup-config と running-config が不一致となります。

バックアップ / リストアの実施例

スイッチモジュール情報は backup コマンドを、コンフィグレーションは copy / cp コマンドを用いて、バックアップを ftp サーバやオプションのメモリーカード (GX-MC9LSMC128M) へ採取することが可能です。

また、それぞれ restore コマンド、copy / cp コマンドを用いてリストアすることが可能です。

以下にコマンドの使用例を示します。

□ スイッチモジュール情報のバックアップ

- ftp サーバを使用したバックアップ(サーバアドレス:192.168.0.128 / ユーザ名:staff)

```
> enable
# backup ftp ftpserver MCBakup.dat
# ./backup ftp 192.168.0.128 MCBakup.dat
Backup information to FTP(192.168.0.128) MCBakup.dat.
Input username: staff
Input password: ***** staff のパスワードを入力します。
ftp transfer start.
ftp transfer succeeded.
```

- メモリーカードを使用したバックアップ(メモリーカードへの格納)

```
> enable
# backup mc MCBakup.dat
Backup information to MC (MCBakup.dat).
Copy file to MC...
Backup information success!
```

□ スイッチモジュール情報のリストア

- ftp サーバを使用したリストア(サーバアドレス:192.168.0.128 / ユーザ名:staff)

```
> enable
# restore ftp 192.168.0.128 MCBakup.dat no-software
Restore information from FTP(192.168.0.128) MCBakup.dat.
Input username: staff
Input password: ***** staff のパスワードを入力します。
ftp transfer start.

Operation normal end.
ftp transfer succeeded.
restore finished.
```

- メモリーカードを使用したリストア(メモリーカードからの読み出し)

```
> enable
# restore mc MCBakup.dat no-software
Restore information from MC (MCBakup.dat).
Copy file from MC...
restore finished.
```



restore コマンドでスイッチソフトウェアを含むバックアップを復元できますが、スイッチソフトウェアはハードウェア依存情報を含んでおり、新しいハードウェアで動作しない場合があります。ハードウェア交換後のリストア時はno-softwareオプションを使用してください。



本操作は、装置管理者モードで実施してください。

□ コンフィグレーションのバックアップ

- ftp サーバを使用したバックアップ(サーバアドレス:192.168.0.128 / ユーザ名:staff)

```
> enable
# copy startup-config ftp://staff@192.168.0.128/backup.cnf
Configuration file copy to ftp:// staff@192.168.0.128/backup.cnf?
(y/n): y
Authentication for 192.168.0.128.
User: staff
Password: ***** staff のパスワードを入力します。
transferring...
Data transfer succeeded.
#
```

- メモリーカードを使用したバックアップ (メモリーカードへの格納)

```
> cd /usr/home/operator
> enable
# copy running-config backup.cnf
Configuration file copy to /usr/home/operator/backup.cnf? (y/n) : y
# exit
> cp backup.cnf mc-file backup.cnf
```

□ コンフィグレーションのリストア (startup-config への適用)

- ftp サーバを使用したリストア (サーバアドレス:192.168.0.128 / ユーザ名:staff)

```
> enable
# copy ftp://staff@[192.168.0.128]/backup.cnf startup-config
Configuration file copy to startup-config? (y/n): y

Authentication for 192.168.0.128.
User: staff
Password: ***** staff のパスワードを入力します。
transferring...
Data transfer succeeded.
```

- メモリーカードを使用したリストア:(メモリーカードからの読み出し)

```
> cd /usr/home/operator
> cp mc-file backup.cnf backup.cnf
> enable
# copy /usr/home/operator/backup.cnf startup-config
Configuration file copy to startup-config? (y/n): y
```

補足

zmodem コマンドにより、シリアル接続の PC クライアントへファイルを送信することも可能です(添付 CD-ROM に含まれる『運用コマンドレファレンス Vol.1』 - 「4 コンフィグレーションとファイルの操作」 - 「zmodem」参照)。本機能を使用する場合はシリアルインタフェースケーブル (RS-232C) をご用意ください。

設定の初期化

内蔵 LAN スイッチモジュールの設定を初期化し、工場出荷時の設定に戻す場合の手順を説明します。

初期化手順

内蔵 LAN スイッチモジュールの設定を工場出荷時の状態まで戻すには、erase configuration コマンドを使用します。

補足

ユーザーID、ユーザーパスワード、装置管理者パスワードは初期化されません。

- 1 内蔵 LAN スイッチモジュールにログインし、装置管理者モードへ移行します。
- 2 設定を初期化します。
「erase configuration」と入力し、[Enter] キーを押します。
- 3 確認メッセージが表示されます。
「y」を入力し、[Enter] キーを押します。

```
# erase configuration  
  
Do you wish to erase both running-config and startup-config? (y/n):y
```

- 4 内蔵 LAN スイッチモジュールにログインし、コンフィグレーションコマンドモードへ移行します。
- 5 クライアントモジュール接続ポートを選択し、オートネゴシエーションに設定します。

```
(config)# interface range gigabitethernet 0/5-24  
(config-if-range)# duplex auto  
!(config-if-range)# speed auto  
!(config-if-range)# save  
(config-if-range)# exit  
(config)# exit
```

- 6 クライアントモジュール接続ポートがオートネゴシエーションに設定されていることを確認し、再起動します。

```
# show port
Date 20**/**/** **:**:*** UTC
Port Counts: 24
Port Name      Status  Speed      Duplex      FCtI  FrLen  ChGr/Status
0/ 1 geth0/1   down    -          -          -      -      -/-
0/ 2 geth0/2   down    -          -          -      -      -/-
0/ 3 geth0/3   down    -          -          -      -      -/-
0/ 4 geth0/4   down    -          -          -      -      -/-
0/ 5 geth0/5   down    SERDES     full(auto) -      -      -/-
0/ 6 geth0/6   down    SERDES     full(auto) -      -      -/-
0/ 7 geth0/7   down    SERDES     full(auto) -      -      -/-
0/ 8 geth0/8   down    SERDES     full(auto) -      -      -/-
0/ 9 geth0/9   down    SERDES     full(auto) -      -      -/-
.
.
.
# reload
Dump information extracted? (y/n): y
```


8

困ったときには

この章では、FLORA bd が正常に動作しないときの対処方法を説明します。

こんな状態のときは	128
クライアントモジュール起動時のエラー	137

こんな状態のときは

ここでは、FLORA bd、クライアントモジュールや周辺機器が正しく動作しない現象とその対処方法をまとめています。次の対処方法を行っても不具合が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。なお、障害の状態によっては、障害原因が特定できない場合があります。あらかじめご了承ください。

また、ご購入後に設定された OS、BIOS、ファームウェアなどのシステム情報の回復や OS の再セットアップは、『ユーザーズガイド』または『ソフトウェアガイド』を参照して行ってください。ご購入後にインストールされたアプリケーションは、当該アプリケーションのマニュアルを参照して行ってください。

クライアントモジュールの不具合

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
1-1	ディスプレイ・画像 (KVM ケーブル使用)	クライアントモジュールの電源は入るが、画面が表示されない。	ディスプレイのコンセントは接続されていますか？ ディスプレイの電源は入っていますか？ KVM ケーブルはクライアントモジュールにしっかりと接続されていますか？ [Ctrl]+[Alt]+[F1] キーを押すと、表示されませんか？ ディスプレイを交換して改善されますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-2	ディスプレイ・画像 (KVM ケーブル使用)	Windows ロゴ以降の画面が表示されず、その後真っ暗になる	はじめて電源を入れたときに、KVM ケーブルでディスプレイ / キーボードを接続していましたか？ 『ソフトウェアガイド』 1 章「電源を入れ直す」「ディスプレイに画面が表示されないときには」をご参照ください。
1-3	ディスプレイ・画像 (KVM ケーブル使用)	画面表示が異常、または画面にゴミが表示される	ディスプレイの明るさ調整、コントラスト調整は正しいですか？ KVM ケーブルは、クライアントモジュールとディスプレイケーブルの両方にしっかりと接続されていますか？ ディスプレイを交換して改善されますか？ OS のビデオドライバは正しいものがインストールされていますか？ 液晶ディスプレイをご使用の場合は、まれに点灯しない画素がありますが、故障ではありません。 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
1-4	ディスプレイ・画像 (KVM ケーブル使用)	画像が乱れる	FLORA bdの周囲に、電源の入っている精密機器を置いていませんか？ クライアントモジュールの使用中に、ディスプレイの位置を変えていませんか？ ディスプレイに地磁気の影響や色ムラが発生することがあります。一度電源を切り、30分以上時間を置いてから、再びご使用ください。 クライアントモジュールとディスプレイを近接して置いていませんか？ クライアントモジュールとディスプレイを離すか、リフレッシュレートの設定値を上げてください。 ディスプレイを交換して改善されますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-5	ディスプレイ・画像 (KVM ケーブル使用)	画面の表示が読めない または歪んでいる	リフレッシュレートの設定がディスプレイの仕様を超えていませんか？ ディスプレイを交換して改善されますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-6	ディスプレイ・画像 (KVM ケーブル使用)	画面がブルースクリーンの まま動作しない	再起動を試みて、改善されないようならばOSの再インストールを行ってください。 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-7	電源・ランプほか	電源が入らない 画面に何も表示されない 全ランプが消灯している 電源ランプが橙点灯しない	電源モジュールに電源コードが正しく接続されていますか？ クライアントモジュールはFLORA bdにしっかり接続されていますか？ KVMケーブルを抜くと、電源ランプが橙点灯しませんか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
		ネットワークを経由したり リモート操作で電源制御が できない	リモート操作で電源制御ができない場合は、電源制御パスワード設定不備、またはクライアントモジュールの不具合やネットワーク環境の不具合が考えられます。 電源制御パスワードの設定については、『ソフトウェアガイド』「2 システムの運用と管理」の「リモートからの電源制御パスワード変更」をご参照ください。 パスワードの設定変更をしていないにも関わらずリモート操作で電源制御ができない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-8	—	BIOS 起動時にエラーメッ セージが表示される	本書の「 クライアントモジュール起動時のエラー 」 P.137 を参照して、障害の修復をしてください。
1-9	キーボード (KVM ケーブル使用)	キーボードから入力でき ない	KVMケーブルはクライアントモジュールとキーボードの両方にしっかりと接続されていますか？ KVMケーブルをクライアントモジュールから取り外し、再度取り付けて症状が改善されますか？ 症状が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-10	マウス (KVM ケーブル使用)	マウスが正常に動作しない	KVMケーブルはクライアントモジュールとマウスの両方にしっかりと接続されていますか？ KVMケーブルをクライアントモジュールから取り外し、再度取り付けて症状が改善されますか？ 症状が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-11	メモリ	メモリ容量が実際に取り付 けられている容量よりも少 なく表示される	メモリーボードは正しく取り付けられていますか？ メモリーボードが正しく取り付けられていて改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
1-12	HDD	HDD が正しく動作しない	OS の操作説明書を参照して、ファイルシステムのチェックを行ってください。 一度クライアントモジュールをシャットダウンし、30 秒待ってから再度電源を入れてください。 症状が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。 なお、HDD 交換後の OS 再セットアップをご希望の場合は有償となります。お買い求め先へご相談ください。
1-13	HDD	Windows のエラーが発生して、再起動しても使用できない Windows が起動しない	『ソフトウェアガイド』を参照して、OS のセットアップをしておいてください。 なお、OS の再セットアップを行うと、ご購入後に作成したファイルや、追加したアプリケーションなどが削除されます。あわせてバックアップデータより回復する、またはアプリケーションの再セットアップを行ってください。 症状が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。 なお、HDD 交換後の OS 再セットアップをご希望の場合は有償となります。お買い求め先へご相談ください。
1-14	USB 機器 (DVD-ROM ドライブ、DVD-ROM & CD-R/RW ドライブ)	DVD-ROM / CD-ROM が動作しない	KVM ケーブルがクライアントモジュールと DVD-ROM ドライブまたは DVD-ROM & CD-R/RW ドライブの両方に正しく接続されていますか？ KVM ケーブルをクライアントモジュールから抜き差しして、症状が改善されますか？ 弊社オプション機器以外を接続していませんか？ ほかのドライブと交換して、症状が改善されますか？ DVD-ROM / CD-ROM を交換して、症状が改善されますか？ 症状が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-15	—	STATUS ランプが赤点滅	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-16	—	OS 起動後に、エラーメッセージが表示される	OS の操作説明書やヘルプ画面に従い、障害の復旧を試みてください。
1-17	—	OS がハングアップする	再起動を試みてください。
1-18	—	LAN ランプ消灯	LAN ケーブルが内蔵 LAN スイッチモジュールとスイッチング HUB の両方に正しく接続されていますか？ LAN ケーブルをスイッチング HUB の別の口に接続して症状が改善されますか？ ほかの LAN ケーブルと交換して、症状が改善されますか？ ソフトでのネットワーク設定が間違っていないですか？ → 『ソフトウェアガイド』「2 システムの運用と管理」 症状が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-19	—	クライアントモジュールから異音がる	FLORA bd すべての電源コードをコンセントから抜き、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
1-20	—	クライアントモジュールから異音がる	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
1-21	LAN	内蔵 LAN スイッチモジュールから LAN ケーブルを抜き、リンクオフ状態のままシャットダウンを行うと、シャットダウン後に LAN ランプが緑色に点灯する	制限事項です。通信機能への影響はなく、再度 LAN ケーブルを接続することでランプの動作は回復します。
1-22	LAN2	セットアップメニューで有効にしても LAN2 が使用できない	クライアントモジュールを FLORA bd ベースユニットから取り外し、30 秒経過後、再度元の位置に取り付けます。
1-23	—	KVM ケーブルのマウスで「スタート」メニューのスリープ（またはスタンバイ）を選択すると、電源ランプが緑点灯のままになる	制限事項です。 マウス操作でスリープ（またはスタンバイ）を選択しないでください。 回復するには、電源スイッチを 4 秒間押し続けていったん電源を切り、再度起動してください。

コントロールボックスモジュールの不具合

ここでは、コントロールボックスモジュールが正しく動作しない現象とその対処方法をまとめています。

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
2-1	電源・電源ランプ	電源ランプが緑点灯しない	電源モジュールに電源コードが正しく接続されていますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
2-2	—	内蔵 LAN スイッチ設定用ポートがまったく動作しない 内蔵 LAN スイッチ設定用ポート接続でプロンプトが表示されない 内蔵 LAN スイッチ設定用ポートを使用すると文字化けする	シリアルインタフェースケーブルがコネクタから外れていませんか？ 通信ソフトの通信パラメータ設定（9600bps、ストープビット 1）は合っていますか？ シリアルインタフェースケーブルは RS-232C クロスケーブルを使用していますか？ SELECT スイッチは正しく設定されていますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
2-3	—	STATUS ランプが橙点灯／橙点滅する	内蔵 LAN スイッチモジュール、システム冷却ファンモジュール、電源モジュールは正しい位置に搭載されていますか？ コントロールボックスモジュールの時間が正しく設定されていますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
2-4	—	コントロールボックスモジュールから異臭がする	FLORA bd のすべての電源コードをコンセントから抜き、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
2-5	—	コントロールボックスモジュールから異音がする	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

内蔵 LAN スイッチモジュールの不具合

ここでは、内蔵LANスイッチモジュールが正しく動作しない現象とその対処方法をまとめています。

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
3-1	電源・電源ランプ	電源ランプが緑点灯しない	電源モジュールに電源コードが正しく接続されていますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
3-2	—	内蔵 LAN スイッチモジュールの設定ができない	LAN ケーブルが内蔵 LAN スイッチモジュールの LAN インタフェースコネクタ 1 に正しく接続されていますか？ または、シリアルインタフェースケーブルがコントロールボックスモジュールの内蔵 LAN スイッチ設定ポートに正しく接続されていますか？このとき、コントロールボックスモジュールの SELECT スイッチは正しく設定されていますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
3-3	—	内蔵 LAN スイッチモジュールに telnet 接続できない	内蔵 LAN スイッチモジュールの IP アドレスは正しく指定していますか？ 内蔵 LAN スイッチモジュールの IP アドレスに ping を実行し、応答が返ってきますか？ 途中にルータが存在する場合、設定は正しく行われていますか？ 内蔵 LAN スイッチモジュールの管理ポートは、工場出荷時に搭載されるベイによらず、すべて 192.168.0.254/24 に設定されています。お使いいただく環境に応じて設定を変更してください。 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
3-4	—	STATUS ランプが赤点灯／赤点滅する	LAN スイッチ冷却ファンモジュールが正しく搭載されていますか？ 正しい温度環境で使用していますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
3-5	—	内蔵 LAN スイッチモジュールから異臭がする	FLORA bd のすべての電源コードをコンセントから抜き、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
3-6	—	内蔵 LAN スイッチモジュールから異音がする	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
3-7	—	内蔵 LAN スイッチモジュールが起動しない	コントロールボックスモジュールが正しく搭載されていますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

システム冷却ファンモジュールの不具合

ここでは、システム冷却ファンモジュールが正しく動作しない現象とその対処方法をまとめています。

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
4-1	システム冷却ファン	ファンから異臭がする	FLORA bd のすべての電源コードをコンセントから抜き、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
4-2		ファンが回転しない ACTIVE ランプが点灯しない	FLORA bd に電源コードが正しく接続されていますか？ コントロールボックスモジュールが正しく搭載されていますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
4-3		ファンから異音がある	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
4-4		ファンの回転数が変動する	使用環境温度やクライアントモジュールの温度に応じてファンの回転数を変更しています。故障ではありません。

LAN スイッチ冷却ファンモジュールの不具合

ここでは、LAN スイッチ冷却ファンモジュールが正しく動作しない現象とその対処方法をまとめています。

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
5-1	LAN スイッチ冷却ファン	ファンから異臭がする	FLORA bd のすべての電源コードをコンセントから抜き、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
5-2		ファンが回転しない ACTIVE ランプが点灯しない	電源モジュールに電源コードが正しく接続されていますか？ コントロールボックスモジュールが正しく搭載されていますか？ 改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
5-3		ファンから異音がある	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
5-4		ファンの回転数が変動する	使用環境温度やクライアントモジュールの温度に応じてファンの回転数を変更しています。故障ではありません。

電源モジュールの不具合

ここでは、電源モジュールが正しく動作しない現象とその対処方法をまとめています。

No.	不具合部位	不具合現象	確認事項・対処方法
6-1	電源	電源モジュールから異臭がする	FLORA bd のすべての電源コードをコンセントから抜き、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
6-2		STATUS ランプが緑点滅／緑点灯しない	電源モジュールに電源コードが正しく接続されていますか？ コンセントボックスユニットに AC 給電されていますか？ 異常がない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
6-3		STATUS ランプが橙点灯および、すべてのクライアントモジュールの STATUS ランプが赤点滅	電源モジュールに電源コードが正しく接続されていますか？ 異常がない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。 クライアントモジュールの STATUS ランプが消灯している場合は不具合ではありません。
6-4		STATUS ランプが橙点滅 電源モジュールから異音が生じる	異常がない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

クライアントモジュールの STATUS ランプが赤点滅

ここでは、クライアントモジュールの STATUS ランプが赤点滅したときの状態確認とその対処方法をまとめています。

状態確認や内容（ログ）の保存は Windows イベントビューアで行います。

- 確認する場合
次の順にダブルクリックします。
「コントロールパネル」 - 「管理ツール」 - 「イベントビューア」 - 「アプリケーション」
- 保存する場合
「イベントビューア」を表示し、その画面の「システム」の上で右クリックします。表示されたツリーの「ログファイルの名前を付けて保存」をクリックし、外部記憶媒体に保存します。

□ 運用時のエラー

No.	不具合部位	Windows イベントビューアメッセージ 上段：エラー 下段：回復	対処方法
7-1	クライアントモジュール	・ CPU 温度が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ CPU 温度が上限値 (Critical) から回復しました。%1	クライアントモジュールの交換 お問い合わせ先にご連絡 いただくか、保守員を お呼びください。
7-2		・ v_core 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ v_core 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-3		・ v_core 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ v_core 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-4		・ 3v_S0 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ 3v_S0 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-5		・ 3v_S0 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ 3v_S0 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-6		・ 5v_S0 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ 5v_S0 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-7		・ 5v_S0 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ 5v_S0 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-8		・ 12v_S5 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ 12v_S5 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-9		・ 12v_S5 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ 12v_S5 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-10		・ 3v_S5 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ 3v_S5 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-11		・ 3v_S5 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ 3v_S5 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-12		・ 5v_S5 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ 5v_S5 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-13		・ 5v_S5 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ 5v_S5 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-14		・ 1.05vm 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ 1.05vm 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-15		・ 1.05vm 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ 1.05vm 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-16		・ 1.8v_S3 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ 1.8v_S3 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-17		・ 1.8v_S3 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ 1.8v_S3 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-18		・ 1.05v_S0 電圧が下限値 (Critical) を下回りました。%1 ・ 1.05v_S0 電圧が下限値 (Critical) から回復しました。%1	
7-19		・ 1.05v_S0 電圧が上限値 (Critical) を上回りました。%1 ・ 1.05v_S0 電圧が上限値 (Critical) から回復しました。%1	

%1：記録された日時が表示されます。

□ 起動時のエラー

No.	不具合部位	Windows イベントビューアのメッセージ	対処方法
7-19	クライアントモジュール	CMOS のチェックサムエラーが発生しました。%1	電池の交換 お買い求め先にご連絡 いただくか、保守員を お呼びください。
7-20		メモリチェックエラーが発生しました。%1	メモリーの交換 お買い求め先にご連絡 いただくか、保守員を お呼びください。
7-21	HDD	ハードディスクの SMART エラーが発生しました。%1	HDD の交換 お買い求め先にご連絡 いただくか、保守員を お呼びください。
7-22		ハードディスクの接続エラーが発生しました。%1	

%1：記録された日時が表示されます。

クライアントモジュール起動時のエラー

ここでは、クライアントモジュール起動時のエラーへの対処について説明します。

エラーメッセージが表示される場合

初期診断時に異常が検出されると、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。次のようなエラーメッセージが表示されたときは、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。なお、障害の状態によっては、障害原因が特定できない場合があります。あらかじめご了承ください。

	画面に表示されるエラーメッセージ	エラー内容	処置
1	CMOS Checksum Bad	リチウム電池が電圧降下を起こしています	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
2	Hard Disk SMART Error	ハードディスクが故障しています	
3	Primary Master Hard Disk Error	ハードディスクが故障しています	
4	Memory test failed	メモリーが故障しています *1	

*1: セットアップメニューの「Quick Boot」を「Disabled」に設定すると、テストを実施します。

9

お手入れと交換品

この章では、日常のお手入れ方法や交換が必要となる有寿命部品について説明します。

日常のお手入れ項目	140
クリーニングについて	141
有寿命部品	142

日常のお手入れ項目

FLORA bd は、定期的なお手入れの必要があります。次の表に従って日常のお手入れを行ってください。お手入れ時に異常がありましたら、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

部位	清掃・確認項目		清掃・確認周期の目安
FLORA bd	清掃	1. 通気孔の塵埃除去	6ヶ月（注 1）
	確認	1. ファンの異常音点検 システム冷却ファンモジュール／LAN スイッチ 冷却ファンモジュール／電源モジュール 2. ランプの点灯状態確認 ・ STATUS ランプ： クライアントモジュール／コントロール ボックスモジュール／内蔵 LAN スイッチ モジュール／電源モジュール ・ ACTIVE ランプ： システム冷却ファンモジュール／LAN スイッチ冷却ファンモジュール	6ヶ月

注 1：塵埃が多い環境で使用される場合、清掃周期を 1ヶ月にしてください。

クリーニングについて

FLORA bd

6ヶ月に一度の割合で定期的に通気孔のクリーニングを行ってください。なお、塵埃が多い環境で使用される場合は月に一度の割合で行ってください。

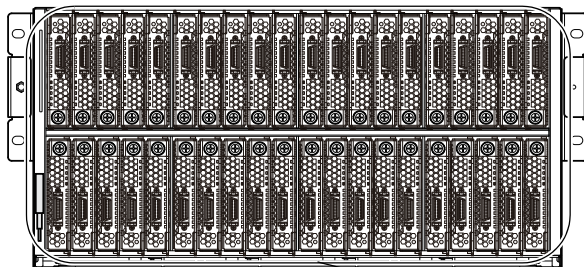
通知

- FLORA bdのクリーニングは、電源を切り、すべての電源コードを抜いた状態で行ってください。FLORA bdの故障の原因となります。
- 水などをFLORA bdにかけないでください。また、水分を含んだ布などで拭かないでください。どちらも故障の原因となります。

□ クリーニングのしかた

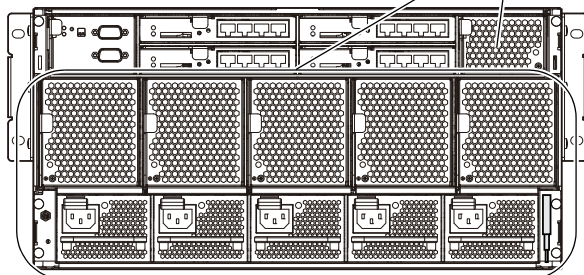
- 1 FLORA bd のすべてのクライアントモジュールの電源を切る。→「[電源を切る](#)」P.36
- 2 FLORA bd 背面に接続されているすべての電源コードを、コンセントおよびFLORA bd から抜く。→「[電源コードの接続](#)」P.31
- 3 FLORA bd の次に示す箇所を通気孔を乾いた布で拭くか掃除機で吸引する。

● FLORA bd 前面



クリーニング箇所（通気孔）

● FLORA bd 背面



- 4 電源コードの電源プラグのほこりを乾いた布で取り除き、コンセントおよびFLORA bd に接続する。→「[電源コードの接続](#)」P.31

有寿命部品

FLORA bd は、5 年（1 日 24 時間、1ヶ月 30 日）の寿命を想定し設計しております。

FLORA bd の部品の中には、使用しているうちに劣化・消耗する有寿命部品が含まれています。

通知

有寿命部品にはアルミ電解コンデンサを使用しているものがあります。アルミ電解コンデンサは寿命があり、寿命を超えて使用すると電解液の漏れまたは枯渇により発煙や異臭の原因となることがあります。これらの危険を避けるために、有寿命部品について、設計寿命を超える場合には交換してください。なお、交換作業については保守員にご依頼ください。

主な有寿命部品は次のとおりです。

寿命部品の交換については有償となりますので、お買い求め先または保守会社にご連絡ください。

項番	品名	適用製品形名	備考
1	ハードディスク	クライアントモジュール標準搭載	*1
2	クライアントモジュール	GX*50*X7-***NN*（“*” は任意の英数字）	*1
3	電源モジュール	FLORA bd 標準搭載、GX-BPX5011	*2
4	システム冷却ファンモジュール	FLORA bd 標準搭載	*2
5	コントロールボックスモジュール	FLORA bd 標準搭載	*2
6	内蔵 LAN スイッチモジュール	FLORA bd 標準搭載、GX-BEX501GL	*2
7	LAN スイッチ冷却ファンモジュール	FLORA bd 標準搭載	*2
8	リチウム電池	クライアントモジュール、コントロールボックスモジュール標準搭載	*3

*1 「設置環境」P.3 で規定された設置環境において、1 日 8 時間、1ヶ月 25 日の通電使用を想定したときの設計寿命は約 5 年です。使用環境・状態により寿命はかわります。また、上記の環境条件を超えて使用した場合、故障および寿命の劣化につながります。

*2 「設置環境」P.3 で規定された設置環境において、1 日 24 時間、1ヶ月 30 日の通電使用を想定したときの設計寿命は約 5 年です。上記の環境条件を超えて使用した場合、故障および寿命の劣化につながります。

*3 設計寿命は約 5 年です。

・・・
補足

寿命時間（目安）はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことを保証するものではありません。

10

付録

この章では、FLORA bd の仕様やオプション品の一覧などについて説明します。

FLORA bd の仕様.....	144
オプション一覧.....	151
索引.....	154

FLORA bd の仕様

FLORA bd ベースユニットの仕様

形名		GX0RF50*-**NNNNX （* は任意の英数字） <AC100V 接続時>	GX0RF50*-**NNNNX （* は任意の英数字） <AC200V 接続時>
筐体タイプ		ラックタイプ 5U	
搭載 可能数	クライアントモジュール	最大 40 台（上段 20 台、下段 20 台）	
	コントロールボックスモジュール	1 台	
	内蔵 LAN スイッチモジュール	最大 4 台	
	システム冷却ファンモジュール	5 台	
	LAN スイッチ冷却ファンモジュール	1 台	
	電源モジュール	最大 5 台	
	冗長構成	3 台（2 + 1 台）または 5 台（4 + 1 台）	
外形寸法		440 (W) × 735 (D) × 219 (H) mm （突起物を除く）	
質量		約 41kg *1 / 最大 約 79kg *2	
最大消費電力 *3		1920W （Celeron プロセッサ 585 モデル 40 台搭載時） 1800W （Celeron プロセッサ 900 モデル 40 台搭載時） 2290W （Core 2 Duo プロセッサ P8600 モデル 40 台搭載時） 2340W （Core 2 Duo プロセッサ P9600 モデル 40 台搭載時）	1860W （Celeron プロセッサ 585 モデル 40 台搭載時） 1750W （Celeron プロセッサ 900 モデル 40 台搭載時） 2210W （Core 2 Duo プロセッサ P8600 モデル 40 台搭載時） 2260W （Core 2 Duo プロセッサ P9600 モデル 40 台搭載時）
騒音値 *4		55dB 以下	
電源		AC100V ± 10% 50/60Hz	AC200V ± 10% 50/60Hz

*1: クライアントモジュール搭載なし・内蔵 LAN スイッチモジュール 1 台搭載・電源モジュール 3 台搭載時の値です。ダミーモジュール、ラックキャビネット搭載用 L 字金具は含みません。

*2: クライアントモジュール 40 台搭載・内蔵 LAN スイッチモジュール 4 台搭載・電源モジュール 5 台搭載時の値です。ラックキャビネット搭載用 L 字金具は含みません。

*3: クライアントモジュール 40 枚を搭載した状態の最大消費電力です。

*4: 25℃環境での通常運用時の値です。

高負荷状態で連続運転した場合や、周囲温度が高い環境ではファンの回転数が上昇し、騒音レベルが上昇します。

クライアントモジュールの仕様

■ Celeron プロセッサ 585 モデル

形名		GXE50*X7-4**1NNX GXE50*X7-4**1NNZ GXE50*X7-4**2NNX GXE50*X7-4**2NNZ (*は任意の数字)	GXG50*X7-4**1NNX GXG50*X7-4**1NNZ GXG50*X7-4**2NNX GXG50*X7-4**2NNZ (*は任意の数字)
CPU	サポート CPU (周波数)	Intel® Celeron® プロセッサ 585 (2.16GHz)	
	CPU 数	1	
	2次キャッシュメモリ (CPU 内蔵)	1MB	
チップセット		インテル® 82GM45 チップセット	
システムバスクロック		667MHz	
メインメモリ	DIMM 種別	DDR2 SDRAM PC2-6400 SO-DIMM, Non-ECC ビデオ RAM と共用	
	DIMM スロット数	2	
	メモリ容量	標準: 1GB (1GB × 1) / 最大: 4GB (2GB × 2)	
グラフィック	ビデオコントローラ	インテル® 82GM45 チップセット内蔵	
	VRAM	最大 1294MB (DVMT Mode Select 選択時)、メインメモリと共用 *1	
	最大解像度	1600 × 1200 ドット	
	最大発色数	32bit True color	
内蔵 HDD	タイプ	2.5 型 SATA HDD	
	容量	約 120GB / 約 160GB	
	回転数	5400min ⁻¹	
	インタフェース	Serial ATA 対応	
LAN	インタフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T × 2 自動認識 (内蔵 LAN スイッチ経由)	
	WOL 機能	サポート	
外部インタフェース (KVM ポート)	キーボード	USB 1.1 or 2.0 × 1	
	マウス	USB 1.1 or 2.0 × 1	
	DVD-ROM ドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	USB 1.1 or 2.0 × 1 (本ポートに DVD-ROM ドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブを接続して起動した場合、このドライブからブートアップ可能)	
	ディスプレイモニタ	アナログ RGB (15 ピン) × 1	
対応 OS		Windows Vista Business Blade PC Edition (1RDL Version) + SP1	Windows 7 Professional
リモート制御		IPMI (Intelligent Platform Management Interface Specification) v1.5 準拠	
消費電力	アイドル時	約 25W	約 25W
	スタンバイ時	約 10W	約 10W
	最大	44W	44W
省エネ法に基づく表示 (2011 年度規定)	区分	H	
	エネルギー消費効率 *2	1.0	1.0
外形寸法 W × D × H		19.5 (W) × 428 (D) × 94.2 (H) mm	
質量		約 0.9kg	

*1: 本体の搭載メインメモリ構成、ソフトウェア構成、BIOSおよびディスプレイドライバ変更により、最大値が変わる場合があります。

*2: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能 (GTOPS) で除したものです。

■ Celeron プロセッサ 900 モデル

形名		GXE50*X7-9**1NNX GXE50*X7-9**1NNZ GXE50*X7-9**2NNX GXE50*X7-9**2NNZ (*は任意の数字)	GXG50*X7-9**1NNX GXG50*X7-9**1NNZ GXG50*X7-9**2NNX GXG50*X7-9**2NNZ (*は任意の数字)
CPU	サポート CPU (周波数)	Intel® Celeron® プロセッサ 900 (2.20GHz)	
	CPU 数	1	
	2 次キャッシュメモリ (CPU 内蔵)	1MB	
チップセット		インテル® 82GM45 チップセット	
システムバスクロック		800MHz	
メインメモリ	DIMM 種別	DDR2 SDRAM PC2-6400 SO-DIMM、Non-ECC ビデオ RAM と共用	
	DIMM スロット数	2	
	メモリー容量	標準：1GB (1GB × 1) / 最大：4GB (2GB × 2)	
グラフィック	ビデオコントローラ	インテル® 82GM45 チップセット内蔵	
	VRAM	最大 1294MB (DVMT Mode Select 選択時)、メインメモリと共用*1	
	最大解像度	1600 × 1200 ドット	
	最大発色数	32bit True color	
内蔵 HDD	タイプ	2.5 型 SATA HDD	
	容量	約 120GB / 約 160GB	
	回転数	5400min ⁻¹	
	インタフェース	Serial ATA 対応	
LAN	インタフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T × 2 自動認識 (内蔵 LAN スイッチ経由)	
	WOL 機能	サポート	
外部インタフェース (KVM ポート)	キーボード	USB 1.1 or 2.0 × 1	
	マウス	USB 1.1 or 2.0 × 1	
	DVD-ROM ドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	USB 1.1 or 2.0 × 1 (本ポートに DVD-ROM ドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブを接続して起動した場合、このドライブからブートアップ可能)	
	ディスプレイモニタ	アナログ RGB (15 ピン) × 1	
対応 OS		Windows Vista Business Blade PC Edition (1RDL Version) + SP1	Windows 7 Professional
リモート制御		IPMI (Intelligent Platform Management Interface Specification) v1.5 準拠	
消費電力	アイドル時	約 24W	約 24W
	スタンバイ時	約 10W	約 10W
	最大	42W	42W
省エネ法に基づく表示 (2011 年度規定)	区分	H	
	エネルギー消費効率*2	0.49	0.49
外形寸法 W × D × H		19.5 (W) × 428 (D) × 94.2 (H) mm	
質量		約 0.9kg	

*1: 本体の搭載メインメモリ構成、ソフトウェア構成、BIOSおよびディスプレイドライバ変更により、最大値が変わる場合があります。

*2: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能 (GTOPS) で除したものです。

■ Core 2 Duo プロセッサ P8600 モデル

形名		GXE50*X7-5**1NNX GXE50*X7-5**1NNZ GXE50*X7-5**2NNX GXE50*X7-5**2NNZ (*は任意の数字)	GXG50*X7-5**1NNX GXG50*X7-5**1NNZ GXG50*X7-5**2NNX GXG50*X7-5**2NNZ (*は任意の数字)
CPU	サポート CPU (周波数)	Intel® Core™2 Duo プロセッサ P8600 (2.40GHz)	
	CPU 数	1	
	2次キャッシュメモリー (CPU 内蔵)	3MB	
チップセット		インテル® 82GM45 チップセット	
システムバスクロック		1066MHz	
メインメモリー	DIMM 種別	DDR2 SDRAM PC2-6400 SO-DIMM、Non-ECC ビデオ RAM と共用	
	DIMM スロット数	2	
	メモリー容量	標準：1GB (1GB × 1) / 最大：4GB (2GB × 2)	
グラフィック	ビデオコントローラ	インテル® 82GM45 チップセット内蔵	
	VRAM	最大 1294MB (DVMT Mode Select 選択時)、メインメモリーと共用 *1	
	最大解像度	1600 × 1200 ドット	
	最大発色数	32bit True color	
内蔵 HDD	タイプ	2.5 型 SATA HDD	
	容量	約 120GB / 約 160GB	
	回転数	5400min ⁻¹	
	インタフェース	Serial ATA 対応	
LAN	インタフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T × 2 自動認識 (内蔵 LAN スイッチ経由)	
	WOL 機能	サポート	
外部インタフェース (KVM ポート)	キーボード	USB 1.1 or 2.0 × 1	
	マウス	USB 1.1 or 2.0 × 1	
	DVD-ROM ドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	USB 1.1 or 2.0 × 1 (本ポートに DVD-ROM ドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブを接続して起動した場合、このドライブからブートアップ可能)	
	ディスプレイモニタ	アナログ RGB (15ピン) × 1	
対応 OS		Windows Vista Business Blade PC Edition (1RDL Version) + SP1	Windows 7 Professional
リモート制御		IPMI (Intelligent Platform Management Interface Specification) v1.5 準拠	
消費電力	アイドル時	約 23W	約 23W
	スタンバイ時	約 10W	約 10W
	最大	53W	53W
省エネ法に基づく表示 (2011 年度規定)	区分	H	
	エネルギー消費効率 *2	0.44	0.44
外形寸法 W × D × H		19.5 (W) × 428 (D) × 94.2 (H) mm	
質量		約 0.9kg	

*1: 本体の搭載メインメモリー構成、ソフトウェア構成、BIOSおよびディスプレイドライバ変更により、最大値が変わる場合があります。

*2: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能 (GTOPS) で除したものです。

■ Core 2 Duo プロセッサ P9600 モデル

形名		GXE50*X7-6**1NNX GXE50*X7-6**1NNZ GXE50*X7-6**2NNX GXE50*X7-6**2NNZ (*は任意の数字)	GXG50*X7-6**1NNX GXG50*X7-6**1NNZ GXG50*X7-6**2NNX GXG50*X7-6**2NNZ (*は任意の数字)
CPU	サポート CPU (周波数)	Intel® Core™2 Duo プロセッサ P9600 (2.66GHz)	
	CPU 数	1	
	2次キャッシュメモリー (CPU 内蔵)	6MB	
チップセット		インテル® 82GM45 チップセット	
システムバスクロック		1066MHz	
メインメモリー	DIMM 種別	DDR2 SDRAM PC2-6400 SO-DIMM、Non-ECC ビデオ RAM と共用	
	DIMM スロット数	2	
	メモリー容量	標準：1GB (1GB × 1) / 最大：4GB (2GB × 2)	
グラフィック	ビデオコントローラ	インテル® 82GM45 チップセット内蔵	
	VRAM	最大 1294MB (DVMT Mode Select 選択時)、メインメモリーと共用 *1	
	最大解像度	1600 × 1200 ドット	
	最大発色数	32bit True color	
内蔵 HDD	タイプ	2.5 型 SATA HDD	
	容量	約 120GB / 約 160GB	
	回転数	5400min ⁻¹	
	インタフェース	Serial ATA 対応	
LAN	インタフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T × 2 自動認識 (内蔵 LAN スイッチ経由)	
	WOL 機能	サポート	
外部インタフェース (KVM ポート)	キーボード	USB 1.1 or 2.0 × 1	
	マウス	USB 1.1 or 2.0 × 1	
	DVD-ROM ドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	USB 1.1 or 2.0 × 1 (本ポートに DVD-ROM ドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブを接続して起動した場合、このドライブからブートアップ可能)	
	ディスプレイモニタ	アナログ RGB (15ピン) × 1	
対応 OS		Windows Vista Business Blade PC Edition (1RDL Version) + SP1	Windows 7 Professional
リモート制御		IPMI (Intelligent Platform Management Interface Specification) v1.5 準拠	
消費電力	アイドル時	約 23W	約 23W
	スタンバイ時	約 10W	約 10W
	最大	55W	55W
省エネ法に基づく表示 (2011 年度規定)	区分	H	
	エネルギー消費効率 *2	0.40	0.40
外形寸法 W × D × H		19.5 (W) × 428 (D) × 94.2 (H) mm	
質量		約 0.9kg	

*1: 本体の搭載メインメモリー構成、ソフトウェア構成、BIOSおよびディスプレイドライバ変更により、最大値が変わる場合があります。

*2: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能 (GTOPS) で除したものです。

コントロールボックスモジュール

項目	仕様
各部インタフェース	シリアルインタフェースコネクタ×2 (コントロールボックス設定用、内蔵 LAN スイッチ設定用)
消費電力 (最大)	3W
外形寸法	70.8 (W) × 245 (D) × 49.0 (H) mm
質量	約 0.55kg

内蔵 LAN スイッチモジュール

項目	仕様		
インタフェース	内部ポート	1Gbps SERDES × 20 ポート	
	外部ポート	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T × 4 ポート	
	シリアルポート	1 ポート：内蔵 LAN スイッチ ユーザ定義用 (コントロールボックスモジュールに実装)	
レイヤ2機能	VLAN	ポート VLAN、Tag-VLAN (IEEE802.1Q)、 プロトコル LAN、MAC-VLAN、Tag 変換	
	スパンニングツリープロトコル	STP (IEEE802.1D)、RSTP (IEEE802.1w)、PVST +、 MSTP (IEEE802.1s)	
	その他機能	IGMP Snooping、MLD Snooping、UDLD/IEEE802.3ah、 リングアグリゲーション、Ring Protocol、ジャンプフレーム	
レイヤ3機能	IPv4 ルーティング	ユニキャスト	RIP、RIP2、OSPF、BGP4
		マルチキャスト	IGMPv2/v3、PIM-SM、PIM-SSM
	IPv6 ルーティング	ユニキャスト	RIPng、OSPFv3、BGP+4
		マルチキャスト	MLDv1/v2、PIM-SM、PIM-SSM
ネット ワーク 機能	セキュリティ		IEEE802.1X (認証)、フィルタ (L2/IPv4/IPv6/L4)、 ポート間中継遮断
	QoS		フロー検出 (L2/IPv4/IPv6/L4)、帯域監視、マーキング (DSCP/ユーザ優先度)、優先制御 (フローペース、ユーザ優先 度マッピング)、廃棄制御、シェーバ (8 クラス、ポート帯域制 御、スケジューリング (PQ、WRR、PQ+DRR、WFQ))、 Diff-serv、IEEE802.1q
	高信頼性・運用向上機能		ロードバランス (IPv4/IPv6)、VRRP (IPv4/IPv6)、 スタティックポーリング、VRRP ポーリング、 リンクアグリゲーション (IEEE802.3ad)、GSRP、 Graceful Restart (ヘルパー)、ストームコントロール
	L2-VPN		VLAN トンネリング
運用管理機能			SNMPv1/v2/v3、MIB II、IPv6MIB、RMON、syslog、ping、 traceroute、SSH、telnet、ftp、tftp、NTP、IPv4DHCP、 サーバ/リレー、Prefix Delegation、LLDP、OADP、 ポートミラーリング、RADIUS、TACACS
消費電力 (最大)			39W
外形寸法			130 (W) × 250 (D) × 23.0 (H) mm
質量			約 0.80kg

システム冷却ファンモジュール

項目		仕様
ファン仕様	サイズ	80 × 38 mm
	電源	DC12V
	回転数	7800 ~ 2000 r/min
	個数	2 個 / モジュール
	回転制御	内部温度に応じて 6 段階
外形寸法		84.2 (W) × 280 (D) × 89.8 (H) mm
質量		約 1.2kg

LAN スイッチ冷却ファンモジュール

項目		仕様
ファン仕様	サイズ	40 × 28 mm
	電源	DC12V
	回転数	15000 ~ 2650 r/min
	個数	3 個 / モジュール
	回転制御	内部温度に応じて 4 段階
外形寸法		70.8 (W) × 239 (D) × 49.0 (H) mm
質量		約 0.80kg

電源モジュール

項目		仕様
入力仕様	電圧	AC100V ± 10% / AC200V ± 10%
	周波数	50/60Hz
	許容電流 (最大)	AC100V 入力時：10A AC200V 入力時：5A
外形寸法		77.7 (W) × 282 (D) × 56.0 (H) mm
質量		約 1.6kg

オプション一覧

網がけ部分のオプションは必須です。次のように選択してください。

*2X と *3 は接続方法により、どちらかを選択します。

*1 : 1 ラックに 1 式

*2X : 21 は 1 ラックに 1 式、22 は 1 サイトに 1 式

*3 : 1 ラックに 1 式

*4 : 1 サイトに 1 式

*5 : 空きスロット毎に必須

補足

- オプション品はサポート時期が異なるものや、追加サポート、完売となるものがあります。詳しくはお買い求め先にご確認ください。
- 指定したオプション品以外の流通品を使用する場合、動作保証の対象外となります。

ラックオプション

製品名	形名	仕様
KVM ケーブル *1	GY-LY7201A	キーボード/ディスプレイ/マウス接続用、1m
キーボード/マウス *21	GY-KB700M	USB キーボード/マウス
キーボード/マウス収納ユニット *3	GH-RK7003	PS/2 キーボード/マウス + 収納ユニット、1U
液晶ディスプレイ *22	GQ-DT7170	17 型 TFT 液晶ディスプレイ
USB KVM ケーブル *3	GQ-LUB7113	ディスプレイ、USB 接続用ケーブル
コンソール切替ユニット *3	GQ-AT7045	ディスプレイ、キーボード、マウス接続用 (4 ポート)
	GQ-AT7085	ディスプレイ、キーボード、マウス接続用 (8 ポート)
ディスプレイ/キーボードユニット *3	GQ-RLK7240	17 型液晶ディスプレイ+キーボード+マウス、1U
コンソール切替ユニット付き ディスプレイ/キーボードユニット *3	GQ-SRLK7240	GQ-RLK7240+GQ-AT7045 のセット品、1U
	GQ-RLK7241	GQ-RLK7240+8 ポート コンソールユニット、1U
コンソール切替ユニットセット *3	GH-SAT7045S	GH-AT7045+GH-AU7622+GH-RK7003 のセット品 (4 ポート)、2U
	GH-SAT7085S	GH-AT7085+GH-RK7003 のセット品 (8 ポート)、2U
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ *4	GY-FV8200A	USB2.0
DVD-ROM ドライブ *4	GR-UD8010	USB2.0
キーボード/マウス延長ケーブル	GH-LK7301	ケーブル長 : 2m
スイッチング HUB	GH-BH7724	24 ポート (10Mbps/100Mbps/1Gbps [Copper])
HUB 収納ユニット	GH-RH7202BK	スイッチング HUB 収納用

製品名	形名	仕様
ラックキャビネット	GH-RK7386	38U:EIA (黒) リアドア付き
	GH-RK7166	16U:EIA (黒)
	GH-SRK7386	38U:EIA (黒) (リアドア付き、フロントドア付き、サイドパネル付き)
	GH-SRK7166	16U:EIA (黒) (フロントドア付き、サイドパネル付き)
静音化ラックキャビネット	GH-RK7387	38U:EIA (黒) 静音化ドア (リアドア) 付き
フロントドア	GH-RD7386	38U (黒)
	GH-RD7167	16U (黒)
リアドア	GH-RD7168	16U (黒)
静音化ドア	GH-RD7388	38U (黒) 静音化仕様、フロントドア / リアドア兼用
	GH-RD7169	16U (黒) 静音化仕様、フロントドア / リアドア兼用
サイドパネル	GH-RS7386	38U (黒) :2 枚 1 組
	GH-RS7166	16U (黒) :2 枚 1 組
ラック連結キット	GH-RJ7006	16U (黒) (RK7166) / 38U (黒) (RK7386) 用
HA8000 ラック用ネジ	GH-AR7901	ラックキャビネット搭載用ネジ、ナットセット
ブランクパネル	GH-RP7012	16/38U 共用 :1U (黒)
USB FDD 搭載用簡易トレイ	GQ-AU7A81	DVD-ROM ドライブ用 / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ / 簡易搭載トレイ
コンセントボックスユニット	GH-AG7107	AC100V 用、アウトレット 6 口、ブレーカスイッチ付き
	GV-AG1207	AC200V 用、アウトレット 7 口、ブレーカスイッチ付き
コンセントボックスユニット用電源ケーブル	GV-LG1042N	コンセントボックスユニット (GV-AG1207) 用電源ケーブル (インレット)、定格 20A、4.26m
	GV-LG1045N	コンセントボックスユニット (GV-AG1207) 用電源ケーブル (インレット)、定格 30A、4.5m
電源ケーブル抜け防止金具	GV-AU1PFKT	コンセントボックスユニット (GV-AG1207) 用電源ケーブル (アウトレット) 抜け防止金具
コンソール切替ユニットラックマウントキット	GH-AU7622	コンソール切替ユニット (AT7045) 搭載用
液晶ディスプレイ収納ユニット	GQ-RL7503	液晶ディスプレイ (DT7170) 搭載用、3U

ベースユニット増設オプション

製品名	形名	仕様
ダミーモジュール *5	GX-BEX501CBDM □□	クライアントモジュールスロット用、空きスロットに取り付け必須 □□：EX は工場増設 空白は現地増設
電源モジュール	GX-BPX5011	増設用電源、AC100V/AC200V 対応
電源コード	GX-AR7100VB	電源モジュール接続、AC100V 用、1.5m
	GX-AR7200VA	電源モジュール接続、AC200V 用、2.5m
	GX-AR7200VB	電源モジュール接続、AC200V 用、0.9m
内蔵 LAN スイッチモジュール	GX-BEX501GL	増設用内蔵 LAN スイッチ、外部 4 ポート
メモリーカード	GX-MC9LSMC128M	SD メモリーカード、128MB、内蔵 LAN スイッチモジュール 設定情報バックアップ用

クライアントモジュール増設オプション

製品名	形名	仕様
メモリーボード	GX-MK701GCBA	1024MB、DDR2 800、Un-Buffered SO-DIMM
	GX-MK702GCBA	2048MB、DDR2 800、Un-Buffered SO-DIMM

ケーブルオプション

製品名	形名	仕様
LAN ケーブル (10BASE-T/100BASE-TX/ 1000BASE-T 用)	GH-LN7E015	カテゴリ 5 エンハンスケーブル 1.5m
	GH-LN7E05	カテゴリ 5 エンハンスケーブル 5m
	GH-LN7E10	カテゴリ 5 エンハンスケーブル 10m
	GH-LN7E20	カテゴリ 5 エンハンスケーブル 20m

索引

■ A

- ACCESS ランプ 18
- ACTIVE ランプ
 - LAN スイッチ冷却ファンモジュール 19
 - システム冷却ファンモジュール 19

■ B

- BIOS
 - 設定値一覧 91

■ C

- CALL ランプ
 - クライアントモジュール 15
- CI コマンド 99

■ D

- DF コマンド 104
- DUMP スイッチ 16
- DVD-ROM
 - 接続 25
- DVD-ROM & CD-R/RW
 - 接続 25

■ F

- FLORA bd
 - 仕様 144
 - 使用環境 4
 - 信頼性 iii
 - 制限事項 4
 - 接続 25
 - 設置 22
 - 設置環境 3
 - 設置場所 22
 - 同梱品 22
 - 取り扱い 4
 - モジュール搭載 24
- FV コマンド 106

■ H

- HDD ランプ
 - クライアントモジュール 15

■ K

- KVM コネクタ
 - クライアントモジュール 16
- KVM コネクタカバー 16

■ L

- LAN インタフェースコネクタ 18
- LAN ケーブル 29
- LAN スイッチ冷却ファンモジュール
 - ACTIVE ランプ 19
 - 仕様 150
 - 不具合 133
- LAN ランプ
 - クライアントモジュール 15

■ R

- Reset スイッチ 17

■ S

- SD コマンド 107
- SELECT スイッチ 16
- STATUS ランプ
 - クライアントモジュール 15
 - コントロールボックスモジュール 16
 - 電源モジュール 20
 - 内蔵 LAN スイッチモジュール 18

■ あ

- 安全にお使いいただくために
 - 警告 x, xiv
 - 注意 xiv, xv
 - 通知 xv, xvi

■ え

- エラーメッセージ 137

■ お

オプション一覧 151

■ き

キーボード

接続 25

規制・対策

高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品 iii

雑音耐力 iii

電源の瞬時電圧低下対策 iii

電波障害自主規制 iii

廃棄 iv

廃棄・譲渡時のデータ消去 viii

輸出規制 iv

■ く

クライアントモジュール

CALL ランプ 15

HDD ランプ 15

KVM コネクタ 16

LAN ランプ 15

STATUS ランプ 15

起動時のエラー 137

こんな状態のときは 128

仕様 145

電源スイッチ 16

電源ランプ 15

不具合 128

クリーニング

FLORA bd 141

■ け

警告ランプ 15

欠品 vi

■ こ

困ったときは vi

コンセント 6

コントロールボックスモジュール

DUMP スイッチ 16

SELECT スイッチ 16

STATUS ランプ 16

コントロールボックス設定用ポート 17

仕様 149

設定の概要 96

セットアップ端末の接続 97

電源ランプ 17

内蔵 LAN スイッチ設定用ポート 17

不具合 131

コンピューターウイルス 10

■ さ

サポートサービス

契約保守 8

期間 8

サポートサービスについて 7

サポートサービスの種類 8

パーコール保守 8

有償サポート 9

■ し

システム冷却ファンモジュール

ACTIVE ランプ 19

仕様 150

不具合 133

周辺機器

使用環境 2, 4

取り扱い 4

重要なお知らせ iii

使用環境

FLORA bd 4

周辺機器 4

商標 iv

初期不良 vi

■ せ

接続

DVD-ROM & CD-R/RW 25

DVD-ROM 25

LAN ケーブル 29

キーボード 25

ディスプレイ 25

電源コード 31

■ て

電源

入れる 35

強制的に電源を切る 37

切る 36

電源コード
 接続 31
電源コネクタ 20
電源スイッチ
 クライアントモジュール 16
電源モジュール
 STATUS ランプ 20
 仕様 150
 電源コネクタ 20
 取り付け 54
電源ユニット
 不具合 134
電源ランプ
 クライアントモジュール 15
 コントロールボックスモジュール 17
 内蔵 LAN スイッチモジュール 17

■ と

取り扱い
 FLORA bd 4
 周辺機器 4
取り付け
 電源モジュール 54
 内蔵 LAN スイッチモジュール 50
 メモリーボード 46

■ な

内蔵 LAN スイッチモジュール
 ACCESS ランプ 18
 LAN インタフェースコネクタ 18
 Reset スイッチ 17
 STATUS ランプ 18
 仕様 149
 セットアップ端末の接続 113
 注意事項 110
 電源ランプ 17
 取り付け 50
 不具合 132
 メモリーカードスロット 18

■ に

日常のお手入れ 140

■ ね

ネットワーク構成例 2

■ は

バックアップ 10
著作権 iv

■ ふ

不具合
 LAN スイッチ冷却ファンモジュール 133
 クライアントモジュール 128
 コントロールボックスモジュール 131
 システム冷却ファンモジュール 133
 電源ユニット 134
 内蔵 LAN スイッチボックスモジュール 132

■ ま

マニュアル
 ソフトウェアガイド* xx
 ユーザズガイド* xix
マニュアルの表記
 オペレーティングシステムの略称 v
 マーク v

■ め

メモリーカードスロット 18
メモリーボード
 4GB 搭載時の制限 49
 取り付け 46

■ ゆ

有寿命部品 142

FLORA bd500 ユーザーズガイド

初 版 2009年4月
第5版 2010年10月
無断転載を禁止します。

株式会社 日立製作所 エンタープライズサーバ事業部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

<http://www.hitachi.co.jp>



このマニュアルは再生紙を使用しています。

FB50071000-5